

SEKONIC 露出計

スピードマスター L-858D

使用説明書



このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本「使用説明書」と「安全上のご注意」をよくお読みいただき製品の性能を十分ご理解
いただいた上で取扱い及び保管をしていただくようお願いいたします。
基本的な操作については、スタートアップガイドをご覧ください。

この使用説明書をよくお読みになり、内容をご理解の上、安全に正しくお使いください。

スピードマスター L-858D は

- 世界初^{※1} のフラッシュ光ハイスピードシンクロの露出測定
- フラッシュの閃光時間測定
- 電波コントロール機能による光源調整（別売トランスミッター装着時）を可能とした露出計です。

L-758 シリーズの信頼性を引き継ぎ、「露出プロファイル」でデジタルカメラに対応。スポット測定・入射光測定・フラッシュ測定・分離測光システムなどあらゆる撮影意図、イメージに対応する高機能を搭載した最上位モデルの露出計です。

またカラー液晶タッチパネルを搭載し、ホールディングと操作性を重視したエルゴノミックなデザイン、生活防水機能の採用などアウトドアでの撮影から屋内撮影まであらゆる撮影シーンで高度な測定精度と測定範囲の広さを実現します。

Data Transfer Software ^{※2} を使って、ご使用になるカメラの露出プロファイル^{※3} を L-858D に設定しておくことができます（10 台分まで）。露出プロファイルを呼び出して使用することにより、カメラのダイナミックレンジ（再現領域）より、被写体が露光域におさまっているかを瞬時に確認できます。Data Transfer Software では、ユーザー設定やカスタム設定を行うこともできます。

^{※1} 単体露出計で世界初（2016年9月現在、セコニック調べ）

^{※2} Data Transfer Software は弊社ホームページのダウンロードサイトからダウンロードした後、パソコンにインストールしてください。

URL : <https://www.sekonic.co.jp/product/meter/download/download.html>

ご使用の際は USB ケーブル（市販品）でパソコンと L-858D を接続してください。

^{※3} 露出プロファイルは、お使いのデジタルカメラの各特性（カメラと露出計の露出補正量や、再現領域、許容範囲）を示す情報です。

あらかじめご使用のカメラでテスト撮影した後、Data Transfer Software で作成した露出プロファイルデータが必要となります。

用語と商標について






- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。
- Adobe Reader は、Adobe Systems Inc. の登録商標です。
- broncolor® は Bron Elektronik AG の登録商標です。
- Elinchrom は Elinchrom SA. 社の登録商標です。
- Godox® は Godox Photo Equipment Co. Ltd. の登録商標です。
- Phottix® および Strato™ は Phottix Hong Kong Ltd. の登録商標または商標です。

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
 - 本製品および本書内容については、予告なしに変更することがあります。
 - 使用説明書の画面は、実物と異なることがあります。(色・文字等)
 - 本体の設定または別売アクセサリーの装着などにより画面の表示内容は異なります。
-

正しく安全にお使いいただくために

ご使用になる前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が死亡、または重傷を負う可能性があることを示す警告マークです。
 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が軽傷、または中程度の傷害を負う可能性がある状況、または物的損害が予想される危険状況を示す注意マークです。
 ご注意	操作をする上での注意や制限です。誤った操作をしないために、必ずお読みください。
 ご参考	操作の参考になることや、関連した機能などについての情報です。お読みになることをお勧めします。
	参照ページを示しています。

警告

- 乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。
- 乳幼児等が誤ってレンズキャップを飲み込まないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。
- ファインダーを通して太陽や明るい光源を直接覗かないでください。目に傷害をおよぼす恐れがあります。
- 電池を火の中に入れて、ショート、分解、加熱、規格適合品ではない電池の使用は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

ポリ塩化ビニール (PVC) ケーブルおよびコードに関する注意事項

- 当製品とともに販売されたアクセサリに付属するコードを手で扱う場合、鉛（カリフォルニア州では、がん、および出生異常または他の生殖障害の原因として知られている化学物質）に触れる可能性があります。取り扱い後は必ず手を洗ってください。

注意

- 「フラッシュ光コード接続モード」では雨中、水しぶきがかかる場所や製品の水没、または水気のあるところ、濡れた手で扱うことはしないでください。感電の危険があります。また、製品が故障する原因となる場合があります。
- 「フラッシュ光コード接続モード」未使用時やパソコンと接続していない場合は、シンクローターミナルカバー⑬とUSBコネクタカバー⑪を確実に閉めてください。防水性能が保てず製品が故障する原因となる場合があります。
- 本体は絶対に改良や分解をしないでください。測定結果への影響、或いは故障の原因になる恐れがあります。
- 液晶画面は、指先で軽くタッチして操作してください。ボールペンや鉛筆など先が鋭いものを使用すると、液晶表示部に傷が付いたり、故障する原因となります。
- 乳幼児等が誤ってストラップを掴んで振り回すことのないように手の届かない場所に置いてください。衝撃により故障の原因になる恐れがあります。
- 持ち運びの際に、ストラップを意図しないものなどに引っかけたり絡まないように注意してください。
落下等の衝撃により故障の原因になる恐れがあります。
- ストラップの素材はポリエステル繊維を使用しています。
合成繊維による皮膚のかぶれや発赤、かゆみを引き起こされているときは、症状の悪化を防ぐため、ご使用はお控えください。

使用上の注意事項

- 液晶画面には保護シートが貼られています。剥がしてからご使用ください。
- 液晶画面には一部点灯しないドットや常時点灯しているドットがある場合がありますが、これは故障ではありません。本製品の有効ドット数に対する品質基準の割合は99.9%以上です。有効ドット数の割合とは、「液晶ディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、当社で保証する表示可能なドットの割合」を示しています。
- 高度2000m以上で「コード接続モード」を使用しないでください。
- 操作の誤りなどにより、メモリーされているデータが消去された場合でも、当社としては責任を負いかねます。
- 落下または急激な衝撃は絶対に避けてください。故障の原因になります。
- 急激な温度変化による結露に注意してください。故障や誤動作の原因になります。
- ご使用となる場所の温度が冬季のご使用等で -10°C 以下になると、液晶表示の応答が非常に遅くなり、表示が読みにくくなります。また、温度が 50°C を超えると液晶表示が黒くなり、表示が読みにくくなりますが常温に戻ると元の状態に戻ります。

保管上の注意事項

- 高温多湿の場所には保管しないでください。故障の原因になります。
- 真夏の直射日光下や車中、または暖房装置等の近くに放置すると、本機の温度が上昇し、故障の原因となる場合があります。このような場所での取り扱いにはご注意ください。
- 腐食性のガスが発生する恐れのある場所に放置すると、ガスの影響で本機の故障の原因となる場合があります。このような場所での取り扱いにはご注意ください。
- 本製品を廃棄する場合は、お住まいの自治体のゴミ廃棄方法に従って処理してください。

お手入れについて

- 精度に影響を与える恐れがありますので、受光部にはホコリ、ゴミ、傷を付けないように扱ってください。
- 本機が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）は、絶対に使用しないでください。

 **ご参考**

- 使用済みの電池は各自自治体のルールに従って処分してください。
- 使用済みの電池を廃棄する際はプラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 電池を分解しないでください。

■ 使用の目的

以下の様な場面でご使用できます。

- 写真、ビデオ、および映画撮影における、照明や自然光の測定。
- デジタルカメラのシャドーからハイライトまでの撮影露光域（ダイナミックレンジ）の測定。
- ハイスピードシンクロ発光でのフラッシュ光測定や閃光時間の測定。
- 電波による露出計でのフラッシュ遠隔発光測定、または光量コントロール。（別売トランスミッター装着時）
- 生活防水機能によりアウトドアから屋内撮影まであらゆる撮影シーンでの使用。

■ L-858D の特長

【基本機能・性能】

- ① 入射光式、反射光式（スポット測光1°）兼用モデル
- ② 光球、平板をワンタッチで切換え（受光部アップダウン機構）
- ③ 分離測光機能により、定常光とフラッシュ光成分をパーセンテージ表示
- ④ 露出プロファイル機能（アプリケーションソフト Data Transfer Software 使用）
- ⑤ 簡易輝度測定（ cd/m^2 ）と簡易照度測定（Lux）

【新機能・性能】

- ① 2.7 インチカラー液晶タッチパネル搭載
頻繁に使用する機能を画面下部のファンクションに割り当て操作性を向上
- ② フラッシュ光解析（1/40～1/55,500 秒、 $t_{0.1}$ ～ $t_{0.9}$ まで 0.1 ステップで変更可能）
- ③ フラッシュ光 HSS（ハイスピードシンクロ）モードの露出測定
- ④ フラッシュプリ発光キャンセル機能
- ⑤ 低照度・輝度測定性能の向上（入射光で -5EV、反射光で -1EV まで（ISO100 時））
- ⑥ フラッシュ光電波コントロール機能で光量調節と発光が可能（別売、トランスミッター必要）
- ⑦ 映画・動画撮影用の機能 広域なフレームレートの設定（1～1,000f/s）
カメラのシャッター開角度設定（1°～358°）
フィルター補正が可能（±20EV の数値入力または登録済みフィルター名から選択）

■ 使用対象者

本製品をご使用になる対象者について、以下の様な方々のご使用を想定しております。

写真、ビデオ、映画のカメラマン、照明技師、撮影監督など、撮影関連に従事される方。

■ 免責事項

本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については当社はその責任を負わないものとします。

■ 制限事項

ご使用にあたり、いくつかの注意・制限事項があります。

お手数ですが、以下の内容にご同意いただいた上で、ご使用いただきますようお願いいたします。



- 使用説明書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更される場合があります。アップデートされた最新の使用説明書を弊社ホームページからダウンロードしてご利用されることをお勧めします。

URL : <https://www.sekonic.co.jp/product/meter/download/download.html>

- 「使用上のご注意」や「安全上のご注意」など安全に関する注意事項は、使用説明書作成時点での法的基準や業界基準に拠った内容になっております。従いまして、記載内容が最新の内容ではない場合もありますので、過去の使用説明書のご利用にあたっては、最新の使用説明書に記載されている、安全に関する注意事項をご参照ください。
- 製品には、使用説明書を補足するために、安全に関する注意事項・正誤表などの印刷物が同梱されている場合がありますのであらかじめご了承ください。
- 使用説明書の内容は、非営利の目的でかつ個人的用途に利用する場合に限り、複製できます。但し、かかる複製物には当社の著作権表示が付されていることを条件とします。
- 使用説明書の画面は、実際のものとは異なることがあります。(色・文字等)

目次

■ 用語と商標について	i
■ 正しく安全にお使いいただくために	ii
⚠ 警告	ii
⚠ 注意	iii
で注意	iv
■ 使用の目的	v
■ L-858D の特長	v
■ 使用対象者	vi
■ 制限事項	vi
■ 同梱品の確認	vii
1. 各部の名称と機能	1
1-1 名称	1
1-2 各部の名称と機能	2
2. ご使用の前に	3
2-1 ストラップの付け方	3
2-2 電池の入れ方	4
2-3 電源の ON / OFF	5
2-4 オートパワーオフ機能	7
2-5 電池容量の確認	8
2-6 電池の交換	8
3. 画面操作	9
3-1 基本的な操作	9
3-2 画面のロックと解除	13
3-3 画面遷移	14
3-4 画面表示	15
3-4-1 測定画面	15
3-4-2 測定操作／表示領域	18
3-4-3 USB 接続画面	23
3-4-4 ファインダー内表示	24
3-4-5 ツールボックス画面	26
3-4-6 メニュー画面	29

4. 基本操作	31
4-1 基本的な測定の流れ	31
4-2 受光方式の切り換え	32
4-2-1 入射光式	32
1) ファンクションボタンでの設定	32
2) ツールボックスでの設定	34
3) 光球と平板の切り換え設定	35
4-2-2 反射光式	37
1) ファンクションボタンでの設定	37
2) ツールボックスでの設定	39
3) 測定の範囲	40
4) 視度の補正	40
4-2-3 測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の設定	41
4-3 測定モードの選択	44
5. 測定	48
5-1 定常光モードでの設定	48
5-1-1 T (シャッター速度) 優先モードでの測定	49
5-1-2 F (絞り) 優先モードでの測定	51
5-1-3 TF (シャッター速度・絞り) 優先モードでの測定	53
5-1-4 HD シネカメラ撮影時の測定	55
1) 測定	55
2) フレームレートのユーザー設定	58
5-1-5 シネカメラ撮影時の測定	61
1) 測定	61
2) フレームレートのユーザー設定	64
3) シャッター開角度のユーザー設定	67
5-1-6 照度／輝度の測定	70
1) 照度測定	70
2) 輝度測定	72
5-2 フラッシュ光モードでの設定	74
5-2-1 フラッシュ光コードレスモードでの測定	75
1) 測定	75
2) フラッシュプリ発光回数設定	78
5-2-2 フラッシュ光コードレス積算モードでの測定	80

1) 測定	80
2) 積算クリアー	83
3) フラッシュプリ発光回数の設定	84
5-2-3 フラッシュ光コード接続モードでの測定	86
5-2-4 フラッシュ光コード接続積算モードでの測定	88
1) 測定	88
2) 積算クリアー	90
5-2-5 フラッシュ光電波トリガーモードでの測定	91
5-2-6 フラッシュ光電波トリガー精算モード	92
5-3 HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュ光モードでの設定	93
5-3-1 HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュ光コードレスモードでの測定	93
1) 測定	93
2) フラッシュプリ発光回数の設定	95
5-3-2 HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュ光電波モードでの測定 (RT-GX 装着時のみ)	97
5-4 フラッシュ光解析モードでの設定	98
5-4-1 フラッシュ光解析コードレスモードでの測定	98
1) 測定	98
2) フラッシュプリ発光回数の設定	101
3) フラッシュ解析 t 値	103
5-4-2 フラッシュ光解析コード接続モードでの測定	105
1) 測定	105
2) フラッシュ解析 t 値	108
5-4-3 フラッシュ光解析電波トリガーモードでの測定	110
5-5 表示範囲／測定範囲を超えたときには	111
5-5-1 表示範囲を超えたとき	111
1) 露出アンダー「Under」が表示された場合	111
2) 露出オーバー「Over」が表示された場合	111
5-5-2 測定範囲を超えたとき	112
6. 機能	113
6-1 メモリー機能	113
6-1-1 メモリーの方法	114
6-1-2 メモリークリアー	116
1) 個別クリアーの場合	117
2) 一括クリアーの場合	118
6-1-3 メモリーリコール	119

6-2	アベレージ／モニター機能	121
	1) アベレージ機能	121
	2) モニター機能	124
	3) ツールボックスからのアベレージ／モニター機能の設定	127
6-3	指示補正機能	128
	■ マイナス補正	128
	■ プラス補正	128
6-4	フィルター補正機能	130
6-4-1	補正值ダイレクト入力	131
6-4-2	フィルターの選択	133
6-4-3	フィルター補正のユーザー設定	136
6-4-4	フィルター選択の解除	141
6-5	ミッドトーン (MID.TONE) 機能	142
6-5-1	ミッドトーン (MID.TONE) の設定	142
	1) 測定値を設定	142
	2) メモリー値を設定	143
	3) ミッドトーンの編集	145
6-5-2	ミッドトーンリコール	147
6-5-3	ミッドトーンクリアー	148
6-6	露出プロファイル機能	149
6-6-1	露出プロファイルの概要	149
6-6-2	露出プロファイルの選択	150
6-6-3	露出プロファイル登録／編集	151
	1) 露出プロファイル選択画面（ツールボックス）への表示・非表示	152
	2) 露出プロファイルの編集	154
6-7	カスタム設定	159
6-7-1	カスタム設定一覧	160
6-7-2	カスタム設定の方法	162
	1) ファンクションボタン-1 の設定	163
	2) ファンクションボタン-2 の設定	165
	3) 表示ステップの設定	166
	4) 端数表示の設定	168
	5) 指示補正値の反映方法	169
	6) 測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の切換え設定	171
	7) 定常光モードの設定	173

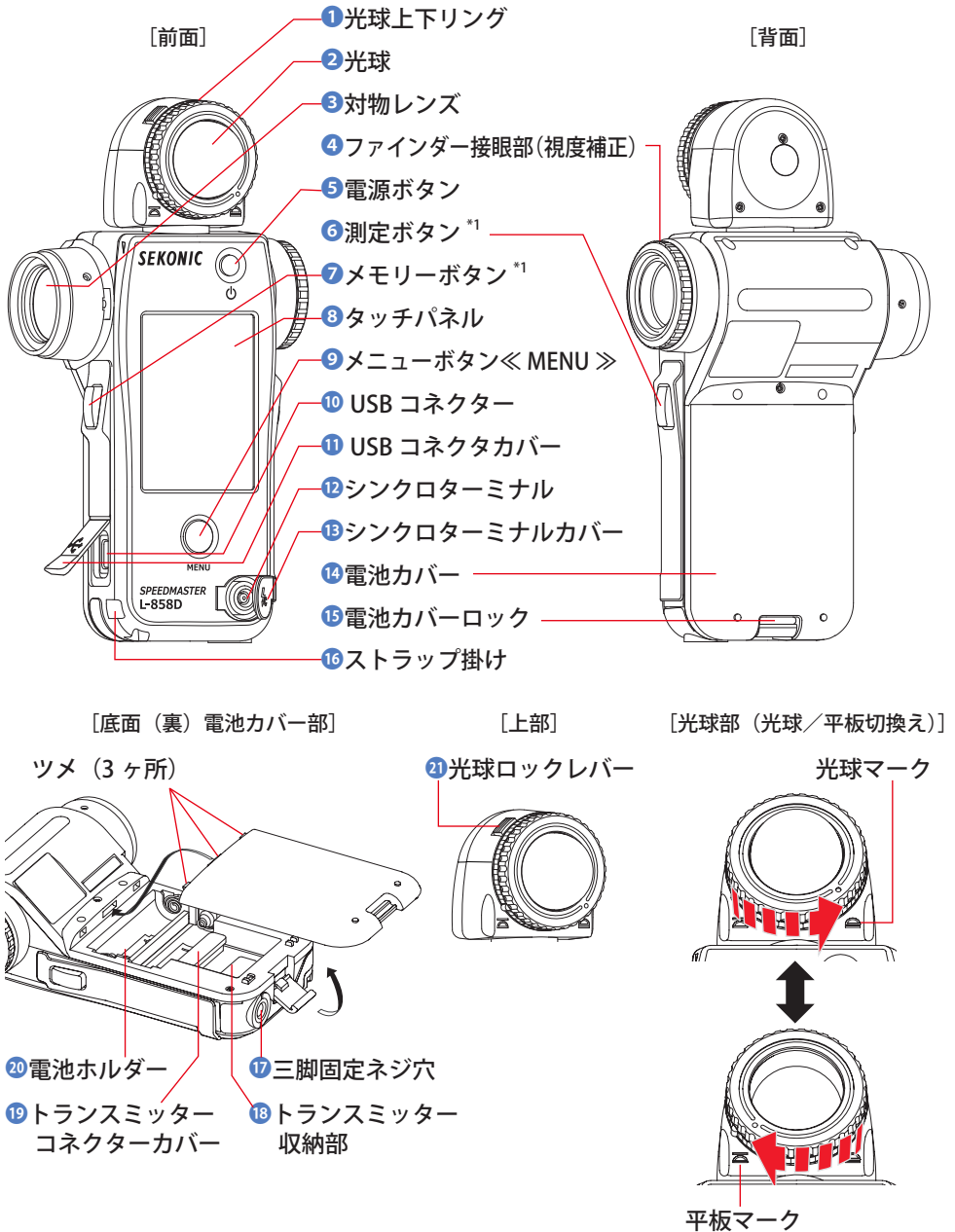
8) フラッシュ光モードの設定	175
9) HSS フラッシュモードの設定	177
10) フラッシュ光解析モードの設定	179
11) 追加データ表示の設定	181
12) 画面の配色設定	183
13) オートパワーオフ時間の設定	185
14) 液晶バックライトの明るさ設定	186
15) 液晶バックライトの減灯時間設定	187
16) メモリーボタン	189
17) 電波システム選択	190
18) カスタム設定値のリセット	191
7. ハードウェア設定	193
7-1 ハードウェア設定画面	193
7-1-1 ユーザー校正	194
7-1-2 タッチパネル調整	196
7-1-3 工場出荷時設定	198
7-1-4 ユーザー情報編集	199
8. 別売アクセサリ	200
■ シンクロコード	200
■ 露出プロファイルターゲット II	200
■ 露出プロファイルターゲット	200
■ ステップアップリング	200
■ RT-EL/PX トランスミッター	201
■ RT-BR トランスミッター	201
■ RT-GX トランスミッター	201
9. 各種設定値	202
9-1 ISO 感度	202
9-2 シャッター速度	202
9-3 絞り値	203
9-4 フレームレート	203
9-5 シャッター開角度	203
9-6 フィルター名・補正值	204

10.仕様	205
11.法的要求事項	209
12.トラブルシューティング	210
13.アフターサービスについて	214

1. 各部の名称と機能

1-1

名称



1-2 各部の名称と機能

以下に各部の機能を示します。

No.	名称	機能
①	光球上下リング	光球と平板を切替えます。(➡P35)
②	光球	測定時、カメラまたは照明(光源)に向けます。270度自由に回転します。(➡P32)
③	対物レンズ	反射光式測定を行うための対物レンズです。フィルター取付時にはステップアップリング(別売)を取り付けます。(➡P200)
④	ファインダー接眼部(視度補正)	ファインダー接眼部を回して、視度を調整できます。(➡P40)
⑤	電源ボタン	電源をON / OFFします。(➡P5)
⑥	測定ボタン* ¹	測定を行います。
⑦	メモリーボタン* ¹	測定後に押すと測定データをメモリーします。積算モード測定中に押すと、積算した測定値をクリアします。
⑧	タッチパネル	設定画面や測定画面などが表示されます。タッチパネル機能付きで、画面にタッチすることにより、各種設定・選択・操作を行うことができます。(➡P9)
⑨	メニューボタン	ボタンを押すとメニュー画面に移ります。(➡P29)
⑩	USB コネクター	アプリケーションをインストールしたパソコンと接続して、各設定を行うためのUSB端子です。(端子形状: マイクロB コネクター)
⑪	USB コネクターカバー	USB コネクターの保護用カバーです。
⑫	シンクローターミナル	フラッシュ光接続モードでの測定時、シンクロコード(別売)を差込みます。
⑬	シンクローターミナルカバー	シンクローターミナルの保護用カバーです。
⑭	電池カバー	電池カバーです。
⑮	電池カバーロック	電池カバーのロック部です。
⑯	ストラップ掛け	付属のストラップを掛けることができます。(➡P3)
⑰	三脚固定ネジ穴	三脚へ本体を取り付けるためのネジ穴です。(1/4インチ、20ネジ山)
⑱	トランスミッター収納部	電波トリガー用のトランスミッター(別売)収納部です。
⑲	トランスミッターコネクターカバー	トランスミッターのコネクター保護用カバーです。* ²
⑳	電池ホルダー	電池収納部です。電池の極性を間違えずに「-」側から正しく収納してください。(➡P4)
㉑	光球ロックレバー	光球の交換が必要なときに使用します。(傷がついたときや汚れたときなど)

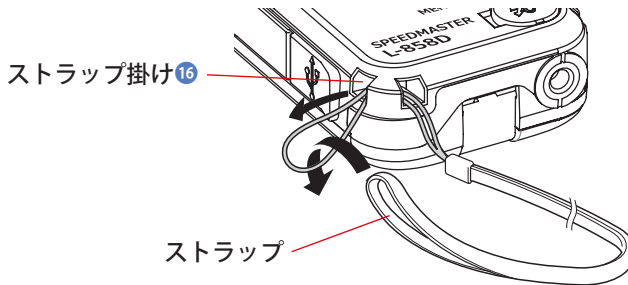
*¹ カスタム設定により測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の機能を切替えることができます。(➡P41、➡P171)

*² トランスミッター(別売)を装着しない場合、接点保護のため取り付けてください。

2. ご使用の前に

2-1 ストラップの付け方

1. 付属のストラップをストラップ掛け⑬側面の穴から通します。
2. ストラップ先端の輪の中に、ストラップの反対側を通します。



警告

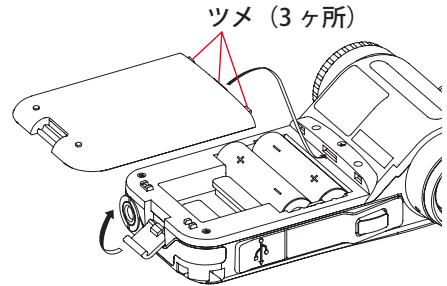
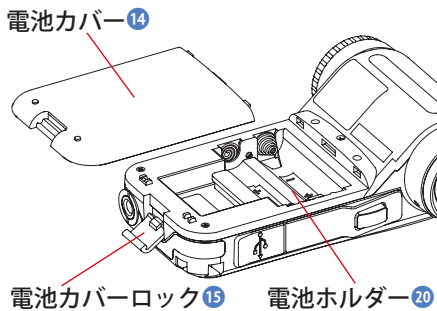
乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

注意

- 乳幼児等が誤ってストラップを掴んで振り回すことのないように手の届かない場所に置いてください。衝撃により故障の原因になる恐れがあります。
- 持ち運びの際に、ストラップが絡まないように注意してください。落下等の衝撃により故障の原因になる恐れがあります。
- ストラップの素材はポリエステル繊維を使用しています。
合成繊維による皮膚のかぶれや発赤、かゆみを引き起こされているときは、症状の悪化を防ぐため、ご使用はお控えください。

2-2 電池の入れ方

1. 単3形電池を2本用意します。
2. 電池カバーロック¹⁵をはずし、電池カバー¹⁴を取外します。
3. 電池ホルダー²⁰の「-」「+」表示に合わせて、「-」側から電池を入れます。
4. 電池カバー¹⁴の爪（3ヶ所）を本体の穴に合わせて、上から押し付けながら電池カバー¹⁴を閉めて、電池カバーロック¹⁵をかけます。



警告

電池を火の中に入れる、ショート、分解、加熱は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

注意

- マンガンまたはアルカリ電池をお使いください。
- 銘柄の異なる電池を使用しないでください。また、新しい電池と使用した電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池接片の腐食および防水機能の低下を防ぐため、電池カバー¹⁴のゴムパッキンにゴミや砂が付着しないようにしてください。
- 電池を取り外すときはプラス「+」側から取り外してください。マイナス「-」端子のスプリングが変形、破損する可能性があります。
- 長期間使用しない場合は、電池を取り外しておいてください。電池の液漏れが発生し、本機に悪影響を与えることがあります。

2-3 電源の ON / OFF

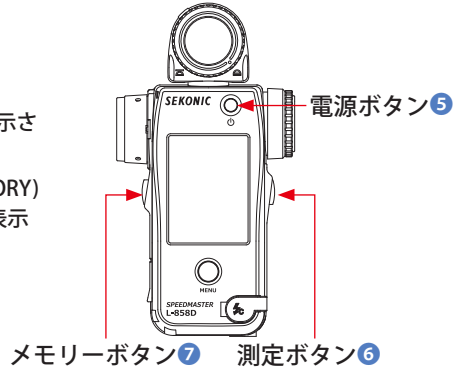
電源 ON

1. 電源ボタン⑤を押します。

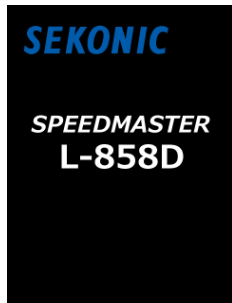
本機が ON になります。

液晶表示部にオープニング画面が 1 秒間表示されます。

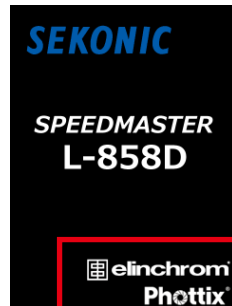
その後、測定画面にメモリーボタン (MEMORY) と測定ボタン (MEASURE) の設定が 2 秒間表示されます。



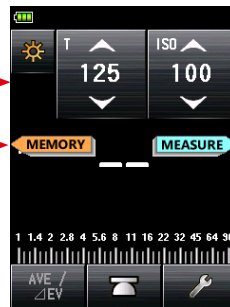
[オープニング画面]



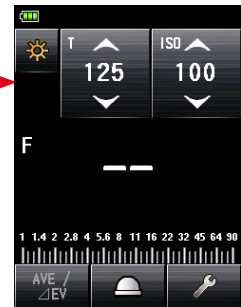
[トランスミッター (別売) 装着時のオープニング画面]



[測定画面]



[測定画面]



※トランスミッター (別売) の対応ブランド名を表示

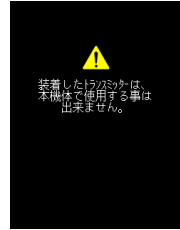
ご注意

- 電池交換後、または電源 OFF から 24 時間経過している場合に、青文字「SEKONIC」ロゴの画面が表示されます。
- ログ画面表示中に青いプログレスバーが動いている間は、本体のメモリーチェックを行っています。電源を切らないでください。故障の原因となる恐れがあります。



プログレスバー

- 本機に非対応な仕様のトランスミッターを装着した場合に、『装着したトランスミッターは本機体で使用する事は出来ません。』と表示されます。本機に対応したトランスミッターの仕様であることを確認してから、電源を ON にしてください。詳細はトランスミッター（別売）の使用説明書をご参照ください。



ご参考

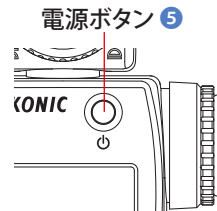
- 液晶に何も表示されない場合は、電池がセットされているか、容量が充分か、または電池極性が「+」「-」逆に挿入されていないかをご確認ください。
- オープニング画面はタッチすることで省略できます。

電源 OFF

1. 電源ボタン⑤を押します。

本機が OFF になり、表示が消えます。

表示が消えた後に本体の電源が OFF になります。



ご注意

- 電源ボタン⑤の ON / OFF は 3 秒以上間隔をあけてください。
- 電源を OFF すると、フラッシュ光解析モードで表示されているグラフは消去されます。

ご参考

電源を OFF したり電池を取り外した場合でも、操作中の設定値・測定値は記憶されています。電源を ON にすると再表示されます。

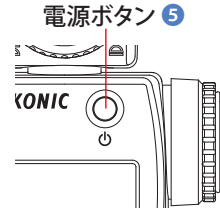
2-4 オートパワーオフ機能

省電力設計のため、使用后（最後のボタン操作後）、約 5 分（初期設定値）で自動的にすべての表示が消え電源は OFF になります。



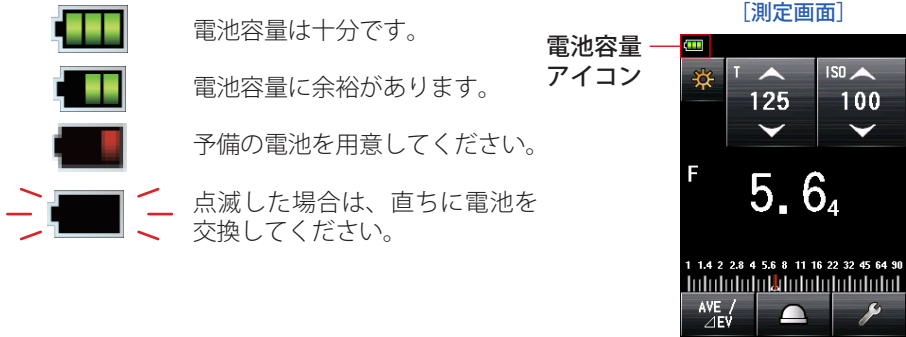
ご参考

- オートパワーオフ機能が働いたときや、電源ボタン⑤を OFF にしたときは、測定値・設定値・指示値は記憶されています。電源を ON にすることで再表示されます。
- オートパワーオフ機能が働いたときや、電源ボタン⑤を OFF にしたときは、フラッシュ光解析モードで表示されているグラフは消去されます。
- オートパワーオフになる時間は初期設定で 5 分です。より長い時間やオートパワーオフなしをカスタム設定で変更できます。（▶ P185）
- 電源が OFF の状態から電源ボタン⑤が押され続けているときは、電源は一旦 ON になりますが約 1 分後に自動的に OFF になります。（輸送中に電源ボタン⑤が押されたままになっていた場合でも電池の消耗を避けることができます。）



2-5 電池容量の確認

電源を ON にすると、液晶表示部に電池容量を示すアイコンが表示されます。



ご参考

- 電池容量が不足した状態では、電源を ON にした後、液晶表示が現れずに表示が消える場合がありますが、故障ではありません。新しい電池に交換してください。予め予備の電池を用意しておくことをお勧めします。
- 連続測光した場合、本機の電池寿命は常温で約 15 時間です。(当社試験条件による)

2-6 電池の交換

- 必ず電源を OFF にしてから電池交換を行ってください。
電源を ON にしたまま電池交換を行うと、操作中の測定値の記憶がされません。また故障の原因になります。
- 電池の交換後または測定中、液晶表示部に異常な表示（設定していない表示等）が現われたときや、操作ボタンを押しても動作しないときは、電池を取り出し 10 秒以上経過してから入れ直してください。

3. 画面操作

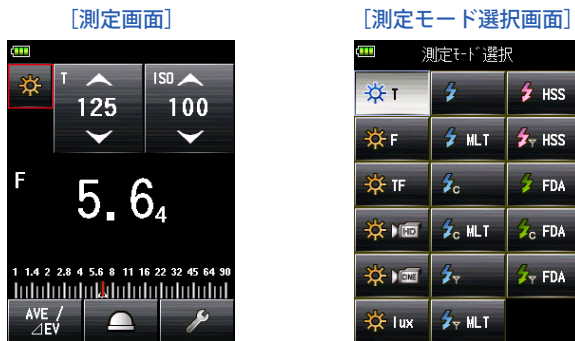
3-1 基本的な操作

画面はタッチパネル方式で、アイコンを指先でタッチすることにより、目的のメニューや項目を選択できます。



- 液晶バックライトは電源を ON にすると点灯します。
- 測定中やフラッシュ光コードレス待機中は測定値に影響しないように減灯します（モニター機能時の測定を除く）。
- 工場出荷時状態では、無操作状態が続くと約 20 秒間で減灯します。
- 工場出荷時状態の液晶バックライトの明るさは、屋外での視認性を良くするために“明”（明るい）を設定しています。電池の消耗を抑える場合には、カスタム設定にて、“中”（普通）、もしくは“暗”（暗い）を設定してください。（➡P186）

タッチ操作

各アイコンをタッチすることで、任意の画面へ切換えることができます。（➡P44）



※ 本体の設定または別売アクセサリーの装着などにより画面の表示内容は異なります。

矢印（）にタッチすると、設定値を増加したり、上方への項目に変更できます。
 矢印（）にタッチすると、設定値を減少したり、下方への項目に変更できます。
 矢印を長押しすると設定値を連続して変更できます。



スライド操作

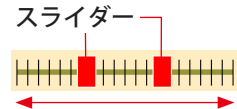
設定値エリアを指先で上／下にスライドすると、いつでも表示内容を変更できます。



スクロールバーが表示されている画面ではスライドさせると、表示内容を変更できます。



スライダー部分をタッチした状態で、スライドさせると各種設定値を変更できます。

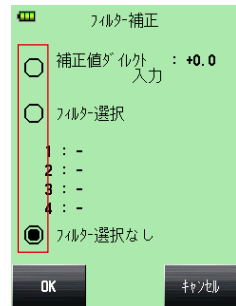


ラジオボタン操作

ラジオボタンは、択一の選択肢がある場合に表示されます。

項目をタッチして選択できます。
選択できるのは1項目です。

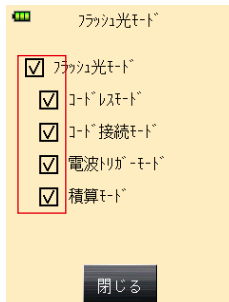
[フィルター補正設定画面]



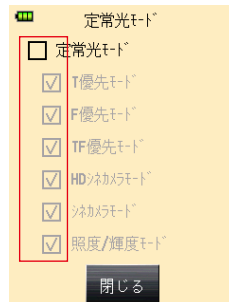
チェックボックス操作

チェックボックスボタンは複数の選択肢がある場合に表示されます。
項目をタッチして選択できます。

[フラッシュ光モード画面]



[定常光モード画面]



数値入力画面



※ 説明のためにここではフィルター補正量入力画面を使用します。

数値入力の方法（数値入力画面）

No.	キー	説明
①	0-9、小数点、符号 (+/-)	数字を入力します。タッチすると上部に入力した値を表示します。
②	削除	入力した値を削除します。
③	OK	入力した値を確定し、元の画面に戻ります。
④	キャンセル	入力した値を無効にし、元の画面に戻ります。

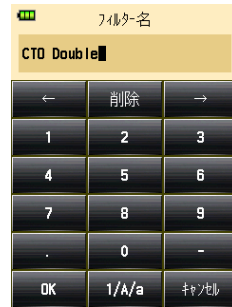
文字入力画面



[小文字入力画面]



[数字入力画面]



文字入力、数字入力の方法（文字入力画面、数字入力画面）

No.	キー	説明
①	■	カーソルは入力する位置を表します。
②	ABC、abc、0-9、小数点、スペース、ハイフン	タッチすると、上部に入力値を表示します。 アルファベット（ABC）は同じボタンを複数回タッチすることで入力文字を変更できます。
③	1/A/a	数字／大文字／小文字を切替えます。
④	← →	入力位置を移動します。
⑤	削除	入力した値を削除します。
⑥	OK	入力した値を確定し、元の画面に戻ります。
⑦	キャンセル	入力した値を無効にし、元の画面に戻ります。

3-2 画面のロックと解除

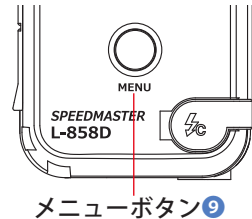
画面操作の誤操作を防ぎたいときに、ロックを掛けられます。但し、電源ボタン⑤、測定ボタン⑥、メモリーボタン⑦は有効です。また、電源を OFF にしてもこの状態を保持します。



ロック設定

測定画面でメニューボタン⑨を長押しすると、画面操作がロックされ、液晶画面の右上に画面ロックアイコンが表示されます。

画面ロックを実施中は、液晶画面上の操作が不可能になります。メニューボタン⑨を押してのメニュー機能への操作も不可能になります。触ると鍵マークが現れます。(中央の画面)



ロック解除

もう一度メニューボタン⑨を長押しすると、画面のロックが解除され、画面ロックアイコンが消えます。

3-3

画面遷移

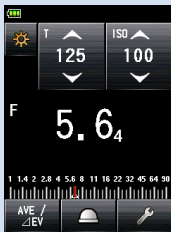
基本的な画面遷移は以下の通りです。

測定モードや設定の変更は、測定画面から操作できます。

電源 ON

オープニング画面

測定画面

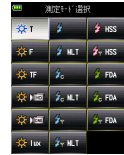


測定モード

測定モードを目的に応じて選択します。

- 定常光
- フラッシュ光
- HSS フラッシュ光
- フラッシュ光解析

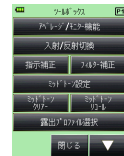
※ カスタム設定を使うことにより、各モードの表示の有無を選択できます。(➡P159)



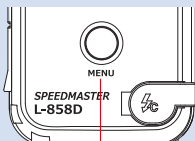
ツールボックス

測定機能を目的に応じて設定します。

- アベレージ/モニター機能
- 指示補正
- ミッドトーン設定
- ミッドトーンリコール
- メモリークリアー
- フラッシュプリ発光回数
- フラッシュ解析 t 値
- 入射/反射切換
- フィルター補正
- ミッドトーンクリア
- 露出プロファイル選択
- メモリーリコール
- 積算クリアー
- 電波チャンネル/グループ



メニュー



メニューボタン④

メニュー機能

各種設定の登録/編集をします。

- アナログスケール設定
- カスタム設定
- 露出プロファイル登録/編集
- フレームレート登録/編集
- シャッター開角度登録/編集
- フィルター登録/編集

情報を見られます。

- 本体情報
- 法規



ハードウェア設定

電源ボタン⑤



メニューボタン④

ハードウェア設定

電源が切れている状態で、メニューボタン④を押しながら電源ボタン⑤を押すとハードウェア設定画面が表示されます。

- 測定値のユーザー校正
- タッチパネルの操作 (タッチ) 位置調整
- 工場出荷時設定に戻す
- ユーザー情報編集

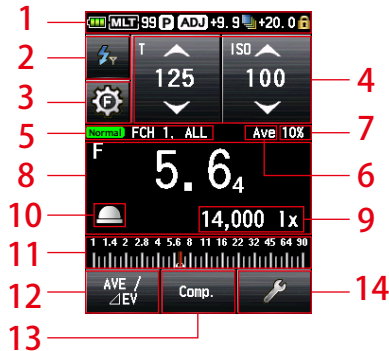


3-4 画面表示

3-4-1 測定画面

電源を ON にするとオープニング画面が表示（1 秒間）してから、測定画面が表示されます。

[測定画面（電波トリガーモードの例）]



※ 説明のためすべてを表示しています。初期値ではありません。







※ 本体の設定または別売アクセサリの装着などにより画面の表示内容は異なります。

測定画面の項目一覧

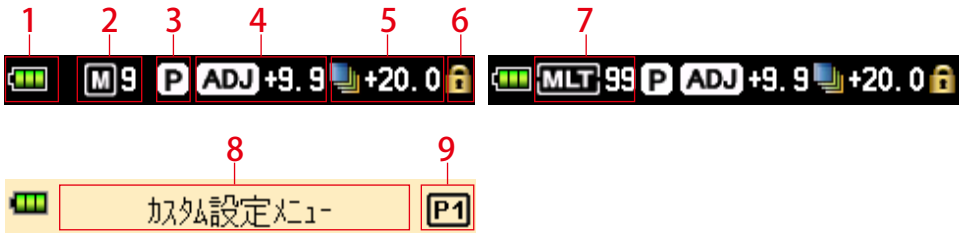
No.	名称	説明
1	ステータスバー	設定内容が表示されます。(➡P17)
2	[測定モード] アイコン	測定モードが表示されます。(➡P44) 測定モード選択画面に移ります。
3	[フラッシュ制御] アイコン	トランスミッター（別売）を装着時に表示されます。(➡P91)
4	[設定値] アイコン	ISO 感度、シャッター速度や絞り値などを設定できます。 設定値がアイコン内に表示されます。 測定モードに応じて表示されるアイコンが変わります。(➡P19)
5	電波トリガー 設定表示	トランスミッター（別売）を装着時に電波チャンネル／グループが表示されます。(➡P91)
6	アベレージ/ モニター機能表示	アベレージ／モニター機能が ON の場合に表示されます。(➡P121)
7	成分比表示	全光量に対するフラッシュ光成分比を 10%ステップの数値で表示します。(➡P74)

No.	名称	説明
8	測定値／ 測定単位表示領域	測定した値や測定単位などの情報が表示されます。(➡P20)
9	測定値 (追加データ)	測定値の追加データが表示されます。(➡P181)
10	入射／反射表示	ファンクションボタン-1,-2で「入射／反射切換」が設定されていないときに、表示されます。(➡P33)
11	アナログスケール	測定値、露出プロファイル、分離測光のフラッシュ・定常光成分など測定モードにより様々な情報が表示されます。(➡P22)
12	ファンクションボタン-1	頻繁に使用したい機能をファンクションボタンに割り当てられます。(➡P163)
13	ファンクションボタン-2	
14	[ツールボックス] アイコン	現在の測定に対する各種設定を行う場合は、測定画面でツールボックスアイコンにタッチします。(➡P26)

ファンクションボタン [カスタム設定メニューで選択可能です]

名称	アイコン/ ボタン	説明
[アベレージ／モニター機能] ボタン		アベレージ／モニター機能を設定できます。 アベレージ機能は、メモリーされた9点までの測定値を平均して表示します。(➡P121) モニター機能は、メモリー値またはアベレージ値に対しての差分が表示されます。 (但し、積算モードを除きます)
[入射／反射切換] アイコン		受光方式を設定できます。(➡P32) 入射光方式 (光球／平板)、反射光方式を切換えることができます。
[指示補正] ボタン		測定値に対して、指示補正を「する」または「しない」を設定できます。(➡P128)
[フィルター補正] ボタン		測定値に対して、フィルター補正を「する」または「しない」を設定できます。(➡P130)
[ミッドトーン] ボタン		測定値に対して、ミッドトーンの設定を「する」または「しない」を設定できます。 (➡P142)
[全メモリー／積算値クリア] ボタン		全てのメモリーデータ、または積算値をクリアできます。(➡P189)

ステータスバー



※ 説明のためすべてを表示しています。設定により表示内容が変わります。

項目一覧

No.	名称	説明	
1	電池容量表示部		電池容量は十分です。
			電池容量に余裕があります。
			予備の電池を用意してください。
			直ちに電池を交換してください。
2	メモリー回数		メモリーされている測定データ数が表示されます。マークの右にメモリー総数が9回まで表示されます。
			メモリーボタンが無効の場合に表示されます。
3	露出プロファイル		露出プロファイルの設定をしているときに表示されます。
4	指示補正		測定値に対して、指示補正が行われている場合に表示されます。 数値は補正值 (± 9.9EV) を表しています。
5	フィルター補正		測定値に対して、フィルター補正が行われている場合に表示されます。 数値はフィルター補正值 (± 20.0EV) を表しています。
6	キーロック状態表示部		画面がロックされている場合に表示されます。 画面がロックされている場合は、タッチパネル上の操作はできません。
7	積算モード／積算回数		積算モードが選択されていることが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「フラッシュ光コードレス積算」 「フラッシュ光コード接続積算」 「フラッシュ光電波トリガー積算」 の各測定画面で表示されます。 MLT マークの右に積算回数が99回まで表示されます。それ以上の積算を行った場合は、再び「00」からの表示を繰り返します。
8	メニュータイトル	—	画面のタイトル名称です。 (測定画面以外はタイトルが表示されます。)
9	ページ番号		画面が複数ある場合にページ番号が表示されます。

3-4-2 測定操作／表示領域

測定操作／表示エリアは以下の内容で構成されています。

- 測定モードアイコン
- 設定値アイコン
- 測定値／測定単位表示領域
- アナログスケール

[測定画面 (定常光 T 優先モード)]



[測定画面 (定常光シネカメラモード)]

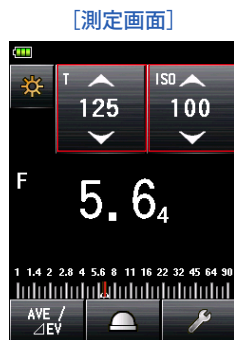


測定モードアイコン

測定画面左上の「測定モード」アイコン (☀️) にタッチすると、測定モード選択画面が表示されます。測定モード選択画面から、任意の測定モードを選択します。
(➡ P44)

設定値アイコン

シャッター速度や絞り値などを設定できます。
設定値がアイコン内に表示されます。
測定モードに応じて表示されるアイコンが変わります。



[T (シャッター速度) 優先モード、
フラッシュ測定モード]



[F (絞り値) 優先モード]



[TF (シャッター速度/絞り値)
優先モード]



[HD シネカメラモード]



[シネカメラモード]



※ 設定値アイコンの左上の文字は、設定内容を示しています。

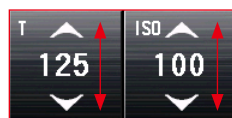
設定内容

文字	説明
T	シャッター速度 シャッター速度は、以下のように表示されます。 30m (30分)、8s (8秒)、125 (1/125秒)
ISO	ISO 感度
F	絞り値
Ang	シャッター開角度
f/s	フレームレート (=シネコマ数)

設定値アイコン操作

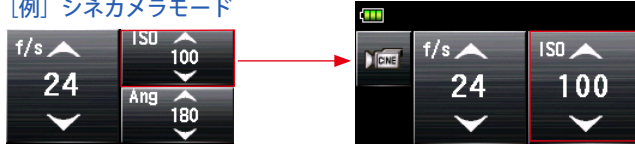
矢印 (▲) にタッチすると、設定値が増加します。
矢印 (▼) にタッチすると、設定値が減少します。
矢印を長押しすると設定値が連続して変化します。
数値部を指先で上/下にスライドすると、設定値が増加/減少します。

[設定値アイコン]



※ HD シネカメラモードや、シネカメラモード設定時は、設定値アイコン表示をタッチすると、拡大表示となります。一定時間後、元の大きさに戻ります。

[例] シネカメラモード



測定値／測定単位表示領域

測定した値や測定単位などの情報が表示されます。

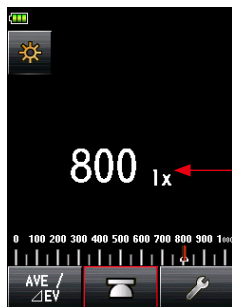
[測定画面]



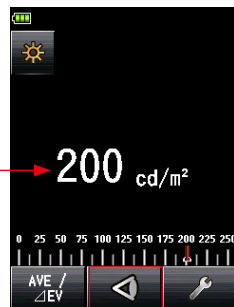
測定モード情報表示

- lx : 定常光照射度 lx 単独表示
- cd/m^2 : 定常光輝度 cd/m^2 単独表示

[測定画面] 入射光方式

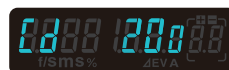


[測定画面] 反射光方式



測定値

[ファインダー内表示]



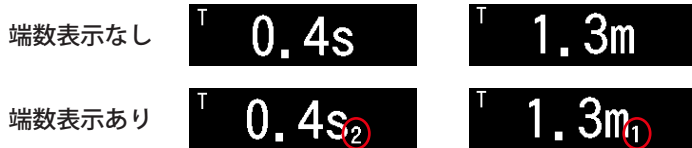
※ 入射光方式から、反射光方式に切換えると、定常光照射度 lx 表示から定常光輝度 cd/m^2 表示に自動で切替わります。



ご参考

測定値の端数表示は、カスタム設定で非表示にも変更できます。(▶P168)

[測定画面内表示]



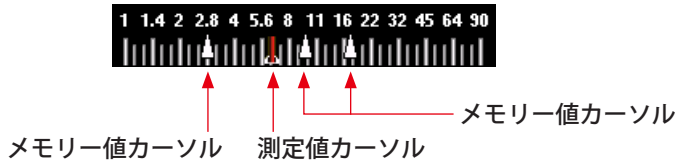
[ファインダー内表示]



アナログスケール

測定した結果をアナログスケールで表示します。

アナログスケールには測定値カーソルとメモリー値カーソルが表示されます。



測定値スケール

スケールには測定モードにより次の値が表示されます。

F 値、T 値、照度 lx、輝度 cd/m^2

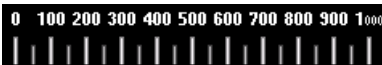
[絞り値スケール]



[シャッター速度スケール]



[照度 (lx) スケール]



[輝度 (cd/m^2) スケール]



ゼロ目スケール

メニュー機能で、測定値スケールとゼロ目スケールを切替えることができます。

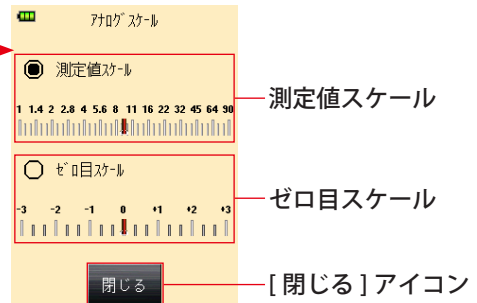
[ゼロ目スケール表示]



[メニュー画面] 1 ページ



[アナログスケール選択画面]

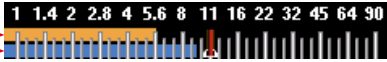


分離測光スケール

フラッシュ光測定時に定常光とフラッシュ光の成分がアナログスケールに表示されます。スケール上をタッチする事で成分表示の有無を切替えることができます。(⇒P74)

定常光 (オレンジ)

[成分表示あり]



[成分表示なし]



フラッシュ光 (青)

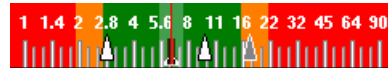
ミッドトーンスケール

ミッドトーンの設定時にはスケールの色が変わり、再現領域や許容範囲が表示されます。(⇒P142)

[測定時の表示 (ミッドトーン未設定)]



[測定時の表示 (ミッドトーン設定時)]



許容範囲 [-]

再現領域

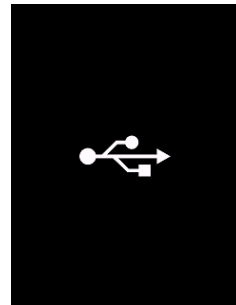
許容範囲 [+]

3-4-3

USB 接続画面

USB 接続時は画面に USB マークが表示されます。
電源ボタン **5** 以外のボタン操作 (タッチパネル操作も含む) は無効となります。

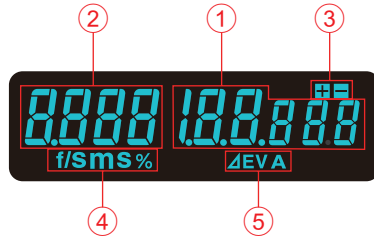
[USB 接続時の画面]



3-4-4

ファインダー内表示

[ファインダー内表示]



ファインダー項目

No.	名称	説明
①	測定値表示	測定値を表示します。
②	補助表示	フラッシュの成分比、輝度の符号が表示されます。
③	指示補正	実測した露出値に対して指示補正が行われている場合に、プラスまたはマイナスの記号のみ表示されます。
④	単位表示	<p>% 全光量に対するフラッシュ光成分比を 10%ステップの数値で表示します。</p> <p>m シャッター速度が分単位の時に点灯します。</p> <p>S シャッター速度が秒単位の時に点灯します。</p> <p>f/s シャッター速度がフレームレートの時に点灯します。</p>
⑤	モニター値／アベレージ値表示部	<p>ΔEV モニター測定の際に点灯します。</p> <p>A アベレージ測定の時、またはモニター測定の基準値を設定した時に点灯します。</p>


ご注意

ファインダー内表示は測定値のみ表示されます。設定値および追加データは表示されません。

ファインダー内表示例

- シャッター速度表示：1/1,600s より早い速度の場合は単位の付いた表示となります。
例) 1/2,000s=2k

[ファインダー内表示]



2

単位:k (× 1,000)

- TF 優先の ISO 表示：ISO 160,000 より感度が高い場合は単位の付いた表示となります。
例) ISO 204,800=204k

[ファインダー内表示]

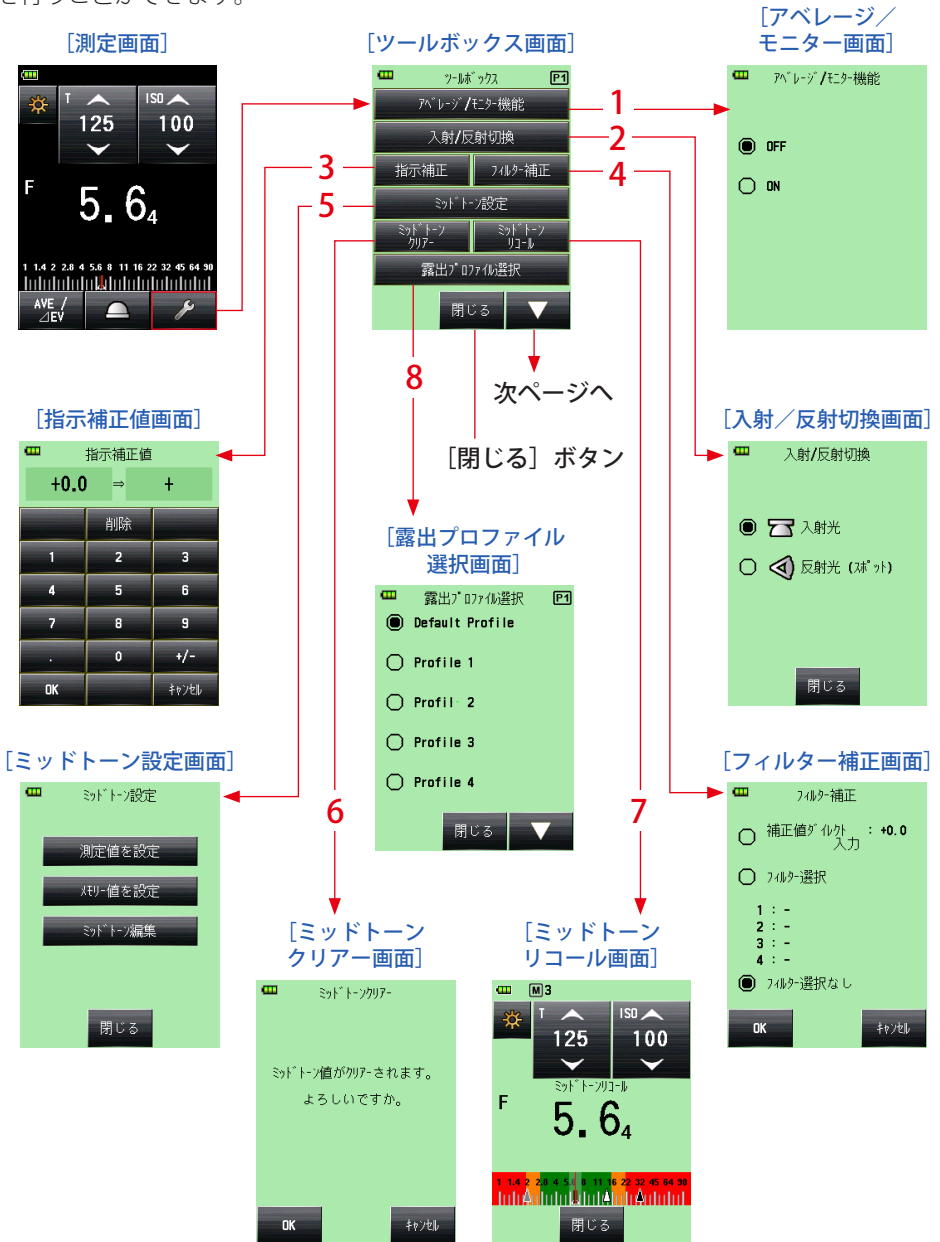


204

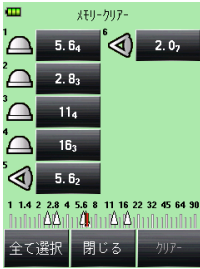
単位:k (× 1,000)

3-4-5 ツールボックス画面

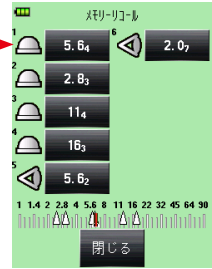
測定画面の「ツールボックス」アイコン（）をタッチすることにより、以下の設定を行うことができます。



[メモリークリアー画面]

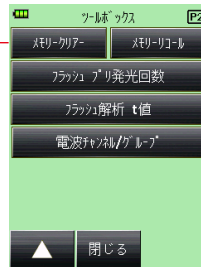


[メモリーリコール画面]



[ツールボックス画面]

2 ページ



[積算クリアー]

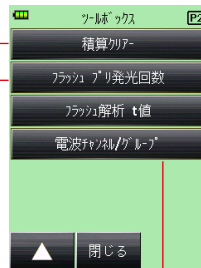


[フラッシュ解析 t値画面]

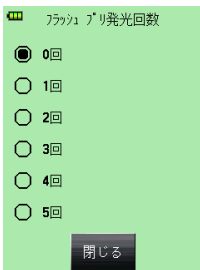
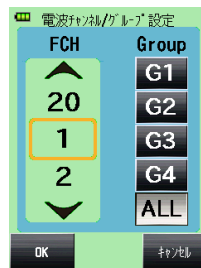


[ツールボックス画面]

2 ページ



[フラッシュプリ発光回数画面]

[電波チャンネル/グループ設定画面]
トランスミッター（別売）装着時

- ※ 積算モードを選択時はツールボックス画面 2 ページの表示内容が異なります。
- ※ トランスミッター（別売）装着時の電波設定は、ツールボックス画面 2 ページに表示されます。

ツールボックス項目一覧

No.	名称	説明
1	アベレージ／モニター機能	ON / OFF を設定します。(▶P121)
2	入射／反射切換	受光方式(入射光／反射光)を選択します。(▶P32)
3	指示補正	補正値を入力できます。指示補正の入力範囲は-9.9EV~+9.9EVです。(▶P128)
4	フィルター補正	フィルター補正(フィルター補正値の入力またはフィルター名の選択)ができます。 フィルター補正値の入力範囲は-20.0~+20.0です。(▶P130)
5	ミッドトーン設定	ミッドトーンの設定(現在の測定値またはメモリー値から)およびミッドトーンの編集ができます。(▶P142)
6	ミッドトーンクリアー	設定したミッドトーンを削除できます。(▶P148)
7	ミッドトーンリコール	設定したミッドトーンの値を再表示できます。(▶P147)
8	露出プロファイル選択	露出プロファイルを選択できます。(▶P150)
9	メモリークリアー* ¹	メモリーした測定値を削除できます。 (積算モードでは非表示)(▶P116)
10	メモリーリコール* ¹	メモリーした測定値を再表示できます。 (積算モードでは非表示)(▶P119)
11	積算クリアー* ¹	積算した測定値を削除できます。 (積算モードのみ表示)(▶P83、P90)
12	フラッシュプリ発光回数	プリ発光をキャンセルするための回数を選択できます。 (▶P78、P84、P95、P101)
13	フラッシュ解析 t 値	フラッシュ閃光時間の解析 t 値を選択できます。 (▶P103、P108)
14	電波チャンネル／グループ* ²	電波チャンネル／グループを選択できます。(▶P91)

*¹ 積算モードを選択時は表示内容が異なります。

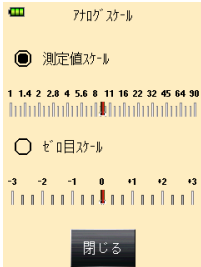
*² トランスミッター(別売)装着時に表示します。トランスミッターの種類により表示内容は異なります。

3-4-6

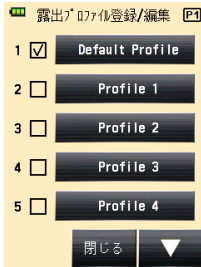
メニュー画面

メニューボタン⑨をタッチすることにより、以下の設定を行うことができます。

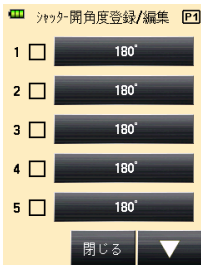
[アナログスケール画面]



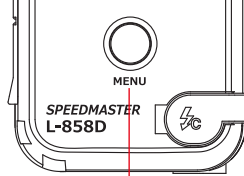
[露出プロフィール登録/編集画面]



[シャッター開角度登録/編集画面]



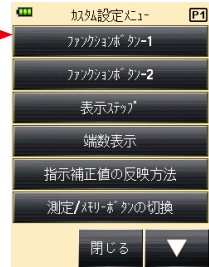
[本体情報画面]

メニューボタン
≪ MENU ≫ ⑨[メニュー画面]
1 ページ

[閉じる] ボタン

[メニュー画面]
2 ページ

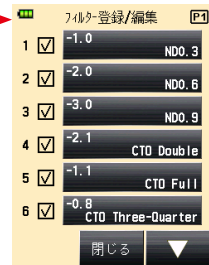
[カスタム設定メニュー画面]



[フレームレート登録/編集画面]



[フィルター登録/編集画面]



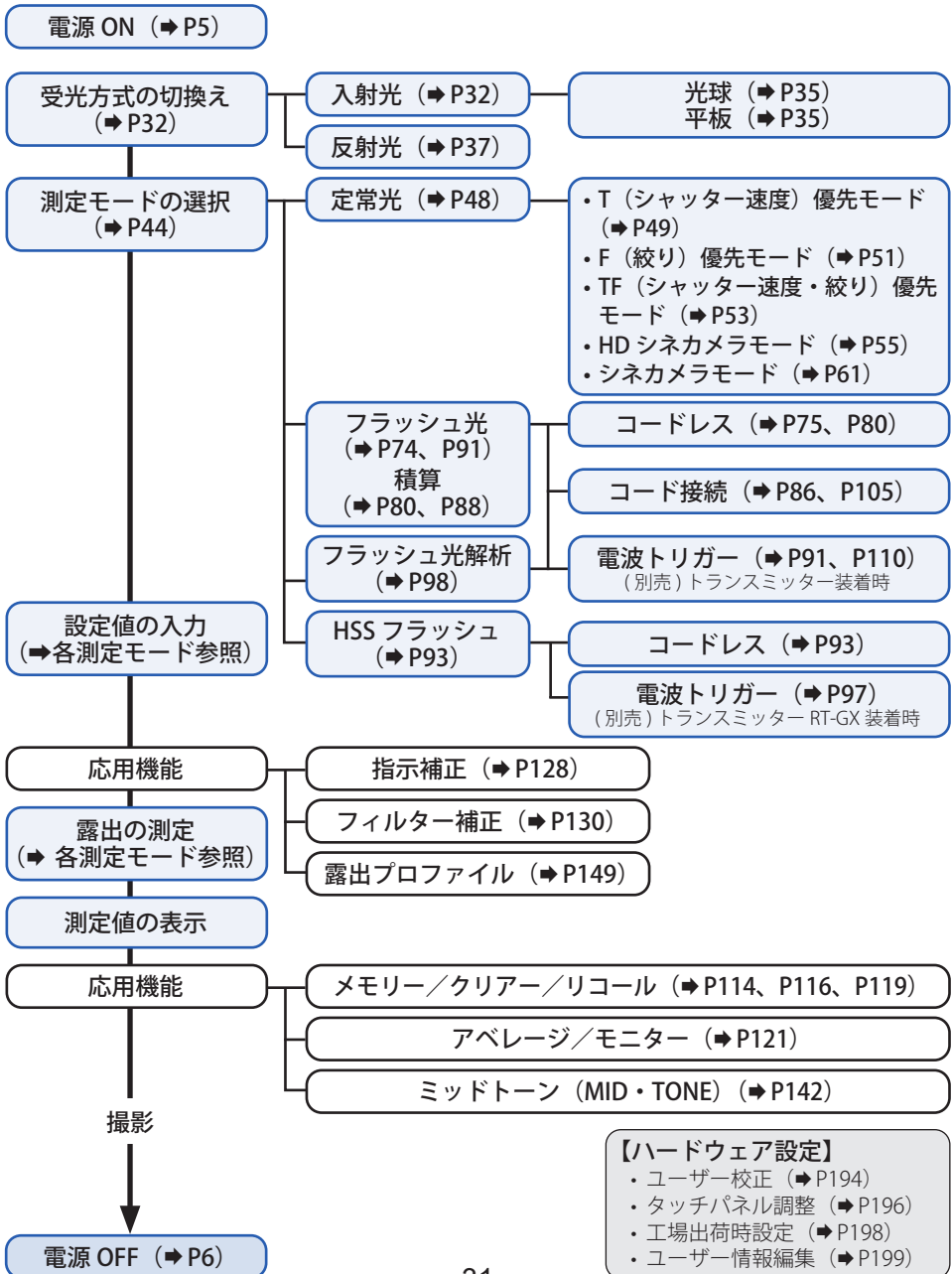
※ 法規画面は仕向けやトランスミッター (別売) 装着などにより表示内容は異なります。

メニュー項目一覧

No.	名称	説明
1	アナログスケール	アナログスケールの表示を設定できます。(▶P22)
2	カスタム設定メニュー	機能の選択や表示内容を設定または編集できます。(▶P159)
3	露出プロファイル登録 ／編集	Data Transfer Software で作成した露出プロファイルを、本体側で編集（設定値、名称）を行う場合に使用します。(▶P151)
4	フレームレート登録／ 編集	標準で用意されているフレームレートに加えて、最大 20 個までフレームレートを登録できます。(▶P58、P64)
5	シャッター開角度登録 ／編集	標準で用意されているシャッター開角度に加えて、最大 20 個までシャッター開角度を登録できます。(▶P67)
6	フィルター登録／編集	ユーザーによるフィルター補正は No.1~30 (30 枚) まで設定できます。 設定したフィルター補正内容は自由に編集できます。(▶P130)
7	本体情報	機体のバージョン等の情報を表示します。
8	法規	法規表示画面では、本機が認可を受けた法的規制に対する適合性表示マーク（制度）を表示します。

4. 基本操作

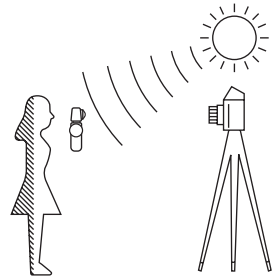
4-1 基本的な測定の流れ



4-2 受光方式の切換え


4-2-1 入射光式

入射光式の測定は、光球か平板機能を使って測定する方法です。被写体位置で光球をカメラのレンズ（正しくはレンズの光軸方向）に向けて測定します。



1) ファンクションボタンでの設定

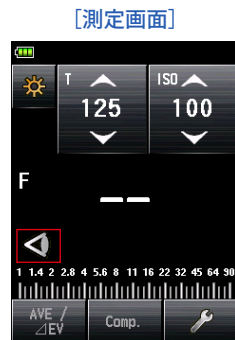
※ 説明は反射光式から入射光式へ切換える手順です。

1. 測定画面で [ファンクションボタン] アイコン () をタッチします。
入射／反射切換画面に切り替わります。
2. [入射光] のラジオボタンにタッチします。
入射光式に切り替わり、測定画面に戻ります。







ご注意


ファンクションボタンに「入射／反射切換」が設定されていない場合は、ツールボックスで変更してください。(⇒P34)



ご参考

アイコン	説明
	入射光の光球のときに表示されます。
	入射光の平板のときに表示されます。
	反射光のときに表示されます。

2) ツールボックスでの設定

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [入射／反射切換] ボタンをタッチします。
入射／反射切換画面が表示されます。
3. [入射光] のラジオボタンをタッチします。
入射光式に切り替わり、測定画面に戻ります。
変更をおこなわない場合は、[閉じる] ボタンをタッチすると測定画面に戻ります。



⚠️ ご注意

入射／反射切換画面に移行すると、測定値はクリアされます。

3) 光球と平板の切換え設定

1. 光球を上げる場合

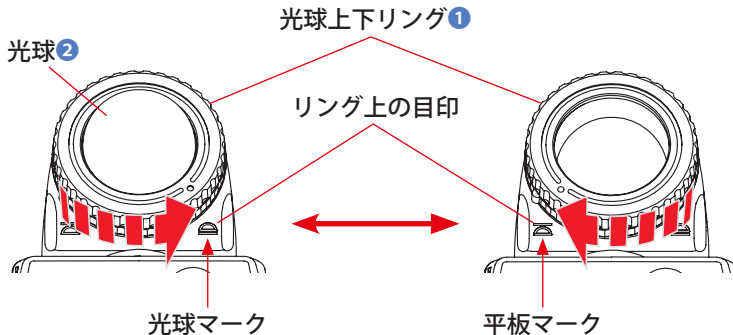
人物や建物など立体的な被写体を測定するときを使用します。

光球上下リング①の上部を回し、リング上のマークを光球マーク (☰) に確実に合わせてください。

2. 光球を下げる場合

原稿、書籍、絵画など平面的な被写体を測定するとき、または照明比の測定 (モニター機能)、簡易的に照度を測定するときを使用します。

光球上下リング①の上部を回し、リング上のマークを平板マーク (☷) に確実に合わせてください。



⚠️ ご注意

- 測定者が測光に影響を与えないようにしてください。(光源の光を遮らないでください。服装の色により反射光が生じます。この反射光が受光部に入らないように注意してください。)
- 光球上下リング①を中間位置で使用しないでください。配光特性が変わり適正な測定ができません。
- 光球②を手で押し込むことはしないでください。
- 精度に影響を与える恐れがありますので、受光部の光球②には傷や汚れを付けないように扱ってください。光球②が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤 (シンナー、ベンジンなど) は絶対に使用しないでください。



光球②に傷がついたり、汚れが取れない場合は、L-858D用の光球を別途お買い求めの上、交換してください。

1) 光球②の取り外し方

光球ロックレバー②1を押し下げ、2重構造になっている光球上下リング①1の上部と下部の両方を持ち、反時計方向に回して光球部を取り外します。

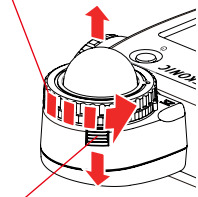
2) 光球②の取り付け方

光球上下リング①1のマークを本体側のマークに合わせて押し込み、「カチッ」と音がするまで時計方向に回します。

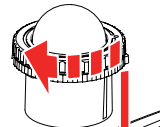
※光球ロックレバー②1が持ち上がっていることをご確認ください。

※光球②を着脱する際、本体側の受光素子に触れないようにしてください。

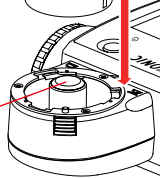
光球上下リング①



光球ロックレバー②1



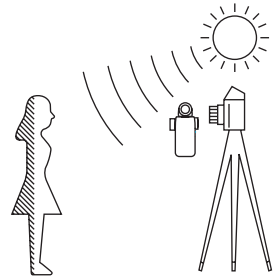
受光素子



4-2-2


反射光式

受光方式を反射光式に切換えて測定します。反射光式は、被写体に当たって反射した光の明るさ（輝度）を測る方法です。この方法は、被写体位置まで近づけない場合（風景等）や発光する被写体（ネオン等）、透過光（ステンドグラス等）を測定する場合に適しています。反射光式の測定は、被写体のハイライトからシャドウを見るのに便利ですが、標準露出を求めるためには、被写体の反射率によって測定値に補正が必要です。カメラ位置、またはカメラ方向から被写体の測定したい部分にファインダー内のサークルを合せて測定します。



1) ファンクションボタンでの設定

※ 説明は入射光式から反射光式からへ切換える手順です。

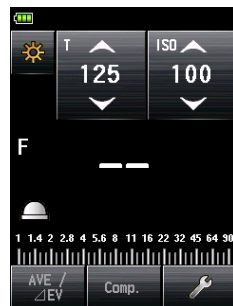
1. 測定画面で [ファンクションボタン] アイコン () をタッチします。
入射／反射切換画面に切り替わります。
2. [反射光 (スポット)] のラジオボタンにタッチします。
反射光式に切り替わり、測定画面に戻ります。







ご注意

ファンクションボタンに「入射／反射切換」が設定されていない場合は、ツールボックスで変更してください。(➡P39)


[測定画面]



ご参考

アイコン	説明
	入射光の光球のときに表示されます。
	入射光の平板のときに表示されます。
	反射光のときに表示されます。

2) ツールボックスでの設定

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [入射／反射切換] ボタンをタッチします。
入射／反射切換画面が表示されます。
3. [反射光 (スポット)] のラジオボタンをタッチします。
反射光式に切り替わり、測定画面に戻ります。
変更をおこなわない場合は、[閉じる] ボタンをタッチすると測定画面に戻ります。



ご注意

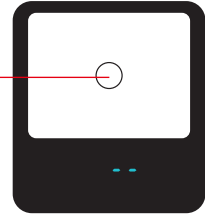
入射／反射切換画面に移行すると、測定値はクリアされます。

3) 測定の範囲

ファインダー内の黒いサークルの内側が測定範囲です。
受光角度は1°です。

[ファインダー内表示]

サークル

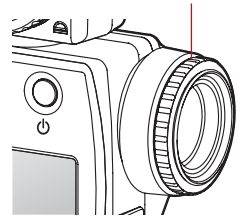


4) 視度の補正

ファインダーを覗き、サークルや数字や文字がはっきり見えるようにファインダー接眼部④を回して視度補正してください。

(-2.5 ~ 1.0D の範囲で設定可能です)

ファインダー接眼部④



警告

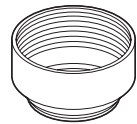
ファインダーを通して太陽や明るい光源を直接覗かないでください。
目に重傷を負ったり失明に至る場合もあります。

ご参考

《ステップアップリング》(別売)

ステップアップリング (30.5mm → 40.5mm) によりフィルターを対物レンズ側に取り付けることが可能です。これにより PL フィルター等のフィルター補正値を設定することなく露出決定できます。

また、ステップアップリングはレンズ部をキズ、汚れから保護し、レンズフレアやグレアによる誤測光を防ぐフードとしてもご利用いただけます。
(➡ P200)

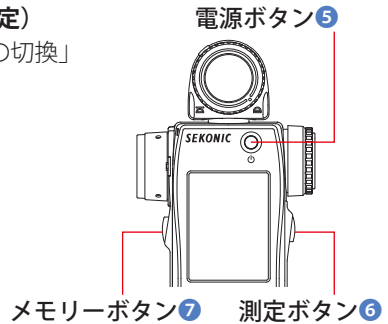


4-2-3 測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の設定

カスタム設定により、測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の設定を変更できます。(➡P171)

1. 本体右側を測定ボタンにする場合（工場出荷時設定）

カスタム設定メニューの「測定／メモリーボタンの切換」は「標準」の状態です。(➡P160)



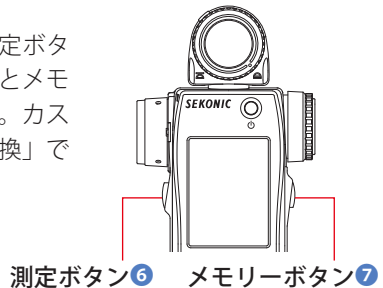
ご参考

設定を変更した後、測定画面にもどったとき、および電源 OFF の状態から電源ボタン⑤を押すと、測定画面にメモリーボタン (MEMORY) と測定ボタン (MEASURE) の設定が 2 秒間表示されます。



2. 本体左側を測定ボタンにする場合

反射光式測定（スポット測定）の際に、通常の測定ボタンの位置では使い勝手が悪い場合、測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の位置を切り替えることができます。カスタム設定メニューの「測定／メモリーボタンの切換」で「反対」を選択してください。(➡P171)





設定を変更した後、測定画面にもどったとき、および電源 OFF の状態から電源ボタン **S** を押すと、測定画面に測定ボタン (MEASURE) とメモリーボタン (MEMORY) の設定が 2 秒間表示されます。

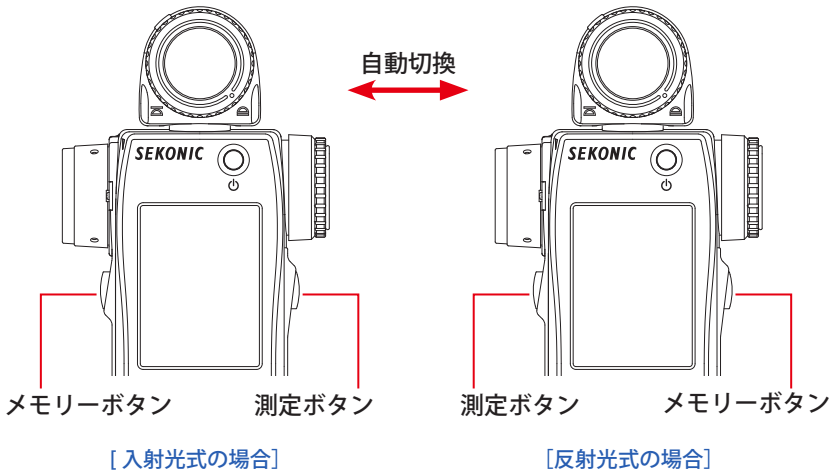


3. 入射／反射光式測定時に測定ボタンの配置を自動切換する場合

入射光測定時：本体右側が測定ボタン

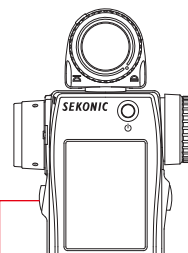
反射光測定時：本体左側が測定ボタン

カスタム設定メニューの「測定／メモリーボタンの切換」で「自動切換（入射：標準、反射：反転）」を選択してください。(➡P171)



4. メモリーボタンを無効化する場合


カスタム設定メニューの「メモリーボタン」は「ON」（工場出荷時設定）の状態です。メモリーボタンを無効にする場合は、「OFF」を選択してください。（⇒P189）

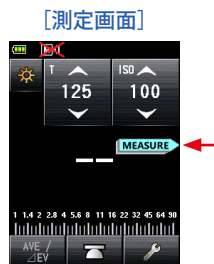


メモリーボタン⑦

ご参考

設定を変更した後、測定画面にもどったとき、および電源 OFF の状態から電源ボタン **5** を押すと、測定画面に測定ボタン (MEASURE) の設定が 2 秒間表示されます。

メモリーボタンが無効状態の場合、ステータスバーに () が表示されメモリーボタン機能が無効になっていることが確認できます。




4-3 測定モードの選択

ご使用になる測定モードを選択します。



測定モードを変更すると、測定値はクリアされます。





[測定モード] アイコン () にタッチすると、測定モード選択画面が表示されます。測定モード選択画面から、任意の測定モードを選択します。




※ 本体の設定または別売アクセサリーの装着などにより画面の表示内容は異なります。
(⇒P160)



測定モード選択について

測定モード：定常光モード (⇒P173)

No.	アイコン	説明
①		定常光 T (シャッター速度) 優先モード 設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(⇒P49)
②		定常光 F (絞り) 優先モード 設定した絞り値、ISO 感度に応じたシャッター速度を測定します。(⇒P51)
③		定常光 TF (シャッター速度・絞り) 優先モード 設定したシャッター速度、絞り値に応じた ISO 感度を測定します。(⇒P53)
④		定常光 HD シネカメラモード 設定したシャッター速度、フレームレート、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(⇒P55)



⑤		定常光シネカメラモード 設定したフレームレート、ISO 感度、シャッター開角度に応じた絞り値を測定します。(➡P61)
⑥		定常光照度 lx 単独表示モード 明るさを lx の単位で測定します。(入射光方式) (➡P70)
		定常光輝度 cd/m² 単独表示モード 明るさを cd/m² の単位で測定します。(反射光方式) (➡P72)




ご参考

定常光とは、自然光（太陽光）またはタングステンランプ・蛍光灯のような連続光のことです。

測定モード：フラッシュ光モード (➡P175)

No.	アイコン	説明
⑦		フラッシュ光コードレスモード 本体とフラッシュをコード接続せずに本体の測定ボタンを押すと、フラッシュの閃光を感知して、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(➡P75)
⑧		フラッシュ光コードレス積算 (MLT) モード 本体とフラッシュをコード接続せずに本体の測定ボタンを押すと、フラッシュの閃光を感知して、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を積算測定します。(➡P80)
⑨		フラッシュ光コード接続モード 本体とフラッシュをシンクロコードで接続して本体の測定ボタンを押すと、フラッシュが発光し、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(➡P86)
⑩		フラッシュ光コード接続積算モード 本体とフラッシュをシンクロコードで接続して本体の測定ボタンを押すと、フラッシュが発光し、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を積算測定します。(➡P88)
⑪		フラッシュ光電波トリガーモード 本体とフラッシュを電波信号で通信し、フラッシュのコントロールや発光をさせ、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。 (トランスミッター (別売) 装着時) (➡P91)
⑫		フラッシュ光電波トリガー積算モード 本体とフラッシュを電波信号で通信し、フラッシュのコントロールや発光をさせ、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を積算測定します。 (トランスミッター (別売) 装着時) (➡P91)

測定モード：HSS モード (➡P177)		
No.	アイコン	説明
⑬		HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュ光コードレスモード HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュモードで発光したフラッシュを測定する場合に選択します。本体とフラッシュをコード接続せずに本体の測定ボタンを押すと、フラッシュの閃光を感知して、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(➡P93)
⑭		HSS (ハイスピードシンクロ) フラッシュ光電波トリガーモード HSS (ハイスピードシンクロ) モードで発光したフラッシュを測定する場合に選択します。本体とフラッシュを電波信号で通信し、フラッシュのコントロールや発光を行い、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値の測定をします。(トランスミッター RT-GX (別売) 装着時のみ) (➡P97)

測定モード：フラッシュ光解析モード (➡P179)		
No.	アイコン	説明
⑮		フラッシュ光解析コードレスモード 本体とフラッシュをコード接続せずに本体の測定ボタンを押すと、フラッシュの閃光を感知して、フラッシュの閃光時間と設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(➡P98)
⑯		フラッシュ光解析コード接続モード 本体とフラッシュをコード接続して本体の測定ボタンを押すと、フラッシュが発光し、フラッシュの閃光時間と設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(➡P105)
⑰		フラッシュ光解析電波トリガーモード 本体とフラッシュを電波信号で通信してフラッシュのコントロールや発光を行い、フラッシュの閃光時間と設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値を測定します。(トランスミッター (別売) 装着時) (➡P110)

ご参考

フラッシュ光とは、フラッシュまたはフラッシュバルブ (閃光電球) のような瞬間光のことです。

操作

※ 説明は定常光T優先モードから定常光シネカメラモードへ切替える手順です。

1. 画面左上の [測定モード] アイコンをタッチします。

測定モード選択画面が表示されます。



2. 測定モードでご使用になるアイコンをタッチします。

任意の測定モードを選択します。選択すると画面が切り替わります。



5. 測定

5-1 定常光モードでの設定


自然光（太陽光）やタングステンランプ・蛍光灯のような連続光は、定常光モードで測定を行います。

定常光モードでの測定方法には以下があります。

- T（シャッター速度）優先
- F（絞り値）優先
- TF（シャッター速度・絞り）優先
- 照度 lux 単独表示（入射光方式）
- 輝度 cd/m^2 単独表示（反射光方式）



ご参考

- シャッター速度および絞り値の段数はカスタム設定により 1 段、1/2 段、1/3 段毎の表示ステップに切換えることができます。（▶P166）
- 測定後、設定値（ISO 値、シャッター速度、絞り値、フレームレート、シャッター開角度）を変えると対応する測定値が表示されます。
- [アベレージ／モニター機能] ボタン（）を押すことによってアベレージ機能へ切換えることができます。（▶P121）
- アナログスケールの（測定値スケールまたはゼロ目スケール）は、測定モード、入射／反射、ミッドトーンの設定により表示内容が変わります。（▶P22）
- 表示範囲／測定範囲を超えてオーバー／アンダーになる場合は、絞り値を変更するか明るさを調節して対応してください。（▶P111）

5-1-1 T (シャッター速度) 優先モードでの測定

設定した ISO 感度とシャッター速度を優先にして測定値（絞り値）を表示します。

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 (), または反射光式に切換えます。(▶ P32、P37)

4. ISO (ISO 値) [設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)
5. T (シャッター速度) [設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒ P202)



6. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、測定値 (絞り値) が表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値/測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。(⇒ P22、P24)



5-1-2

F (絞り) 優先モードでの測定

設定した ISO 感度と絞りを優先にして測定値 (シャッター速度) を表示します。

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 (), または反射光式に切換えます。(▶ P32、P37)

4. ISO (ISO 値) [設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)

5. F (絞り) [設定] アイコンで絞り値を設定します。(⇒ P203)

[測定画面]



6. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、測定値 (シャッター速度) が表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。(⇒ P22、P24)

[測定画面]



測定値 (シャッター速度)

[ファインダー内表示]
(反射光測定時)



5-1-3 TF (シャッター速度・絞り) 優先モードでの測定

設定したシャッター速度と絞りを優先にして測定値 (ISO 感度) を表示します。
TF (シャッター速度・絞り) 優先モードはデジタルカメラをご使用になる方に大変便利なモードです。

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。(▶ P32、P37)

4. T (シャッター速度) [設定] アイコンでシャッター速度を設定します。
(⇒ P202)
5. F (絞り) [設定] アイコンで絞り値を設定します。(⇒ P203)

[測定画面]



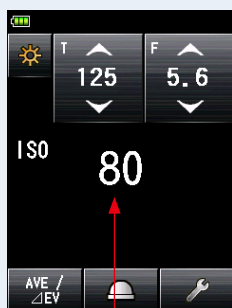
6. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、ISO 感度が測定値として表示されます。

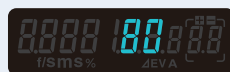
測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。(⇒ P22、P24)

[測定画面]



測定値 (ISO 感度)

[ファインダー内表示]
(反射光測定時)

TF (シャッター速度・絞り) 優先モードを選択した場合は、ISO 感度 (測定値) のメモリーは出来ませんが、スケールの表示は出来ません。

5-1-4 HD シネカメラ撮影時の測定

設定されたシャッター速度、ISO 感度、フレームレートに応じた測定値（絞り値）を表示します。

1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

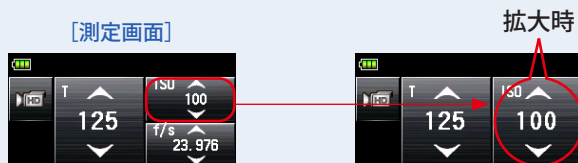


3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 (), または反射光式に切換えます。(▶ P32、P37)

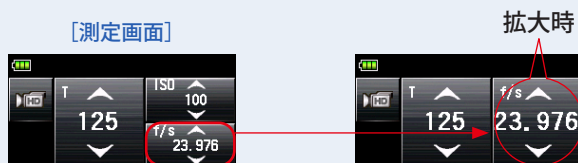
4. ISO (ISO 値) [設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)

ISO (ISO 値) [設定] アイコンを押すと拡大表示されます。
 数値部を指先で上／下にスライドさせ、測定値を設定します。
 3秒後、元の大きさに戻ります。



5. f/s [設定] アイコンで、フレームレートを設定します。

f/s [設定] アイコンを押すと拡大表示されます。
 その状態で数値部を指先で上／下にスライドさせ、フレームレートを設定します。
 3秒後、元の大きさに戻ります。



6. T (シャッター速度) [設定] アイコンでシャッター速度を設定します。 (⇒ P202)



7. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、測定値（絞り値）が表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。（▶P22、P24）



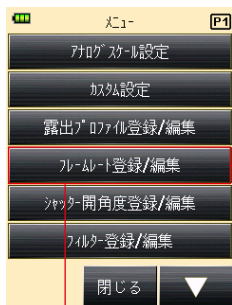
ご参考

- ユーザー設定により 20 種のフレームレートが設定できます。（▶P58）
- 設定したフレームレートよりも遅い T 値は設定できません。

2) フレームレートのユーザー設定

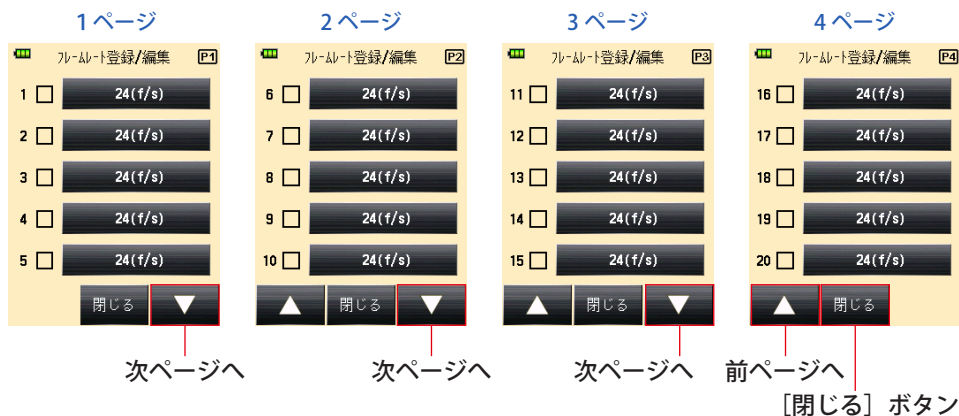
標準で用意されているフレームレートに加えて、最大 20 個までフレームレートを登録できます。登録したフレームレートは自由に編集できます。(▶P203)

[メニュー画面] 1 ページ



フレームレート
登録/編集

[フレームレート登録/編集画面]



操作

1. 本機のメニューボタン⑨を押します。
メニュー画面が表示されます。



2. [フレームレート登録／編集] ボタンをタッチします。

フレームレート登録／編集画面が表示されます。

3. [フレームレート] ボタンをタッチします。

フレームレート画面が表示されます。



[フレームレート] ボタン

4. フレームレート入力画面で数値を入力します。(⇒ P11)

5. [OK] ボタンをタッチします。

フレームレート登録／選択画面に戻ります。

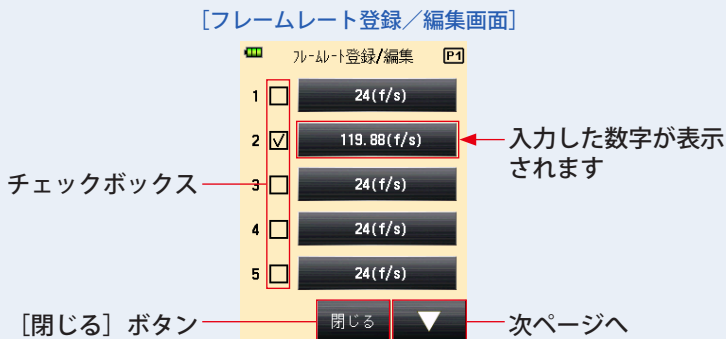
修正をしない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



- フレームレートは、0.001 ~ 99,999.999 (f/s) の範囲を 0.001 (f/s) 単位で登録できます。(⇒ P203)
- チェックマーク (□) が付いていない項目は表示されません。

6. ご使用になるフレームレートのチェックボックスをタッチします。

チェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。チェックしたフレームレートが測定画面で 1,000f/s 以降に表示されます。チェックマーク (□) を外すと選択が解除されます。



7. フレームレート登録/選択画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

8. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



5-1-5 シネカメラ撮影時の測定

設定されたフレームレート、ISO 感度、シャッター開角度に応じた測定値（絞り値）を表示します。

1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン（）をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

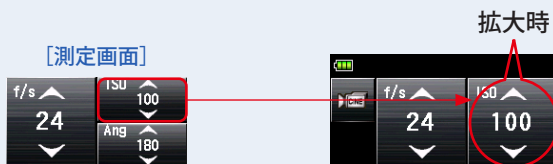


3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。(▶ P32、P37)

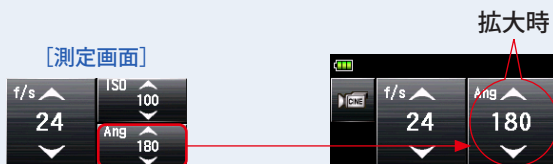
4. ISO (ISO 値) [設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)

ISO (ISO 値) [設定] アイコンを押すと拡大表示されます。
 数値部を指先で上／下にスライドさせ、測定値を設定します。
 3秒後、元の大きさに戻ります。



5. Ang [設定] アイコンでシャッター開角度を設定します。

Ang [設定] アイコンを押すと拡大表示されます。
 その状態でシャッター開角度の値を設定します。
 3秒後、元の大きさに戻ります。



6. f/s [設定] アイコンで、フレームレートを設定します。(⇒ P203)

その状態で数値部を指先で上／下にスライドさせ、フレームレートを設定します。

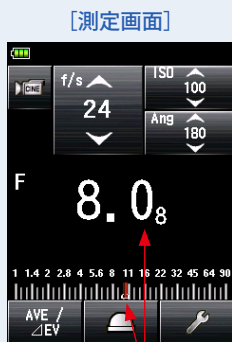


7. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、測定値（絞り値）が表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。（▶P22、P24）



測定値（絞り値）

[ファインダー内表示]
(反射光測定時)



ご参考

- ユーザー設定により 20 種のフレームレートが設定できます。（▶P64）
- ユーザー設定により 20 種のシャッター開角度が設定できます。（▶P67）
- 設定したフレームレートよりも遅い T 値は設定できません。

2) フレームレートのユーザー設定

標準で用意されているフレームレートに加えて、最大 20 個までフレームレートを登録できます。登録したフレームレートは自由に編集できます。

[メニュー画面] 1 ページ



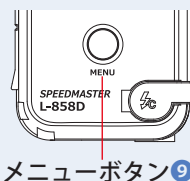
フレームレート
登録/編集

[フレームレート登録/編集画面]



操作

1. 本機のメニューボタン⑨を押します。
メニュー画面が表示されます。



2. [フレームレート登録／編集] ボタンをタッチします。

フレームレート登録／編集画面が表示されます。

3. [フレームレート] ボタンをタッチします。

フレームレート画面が表示されます。



4. フレームレート入力画面で数値を入力します。(⇒ P11)

5. [OK] ボタンをタッチします。

フレームレート登録／選択画面に戻ります。

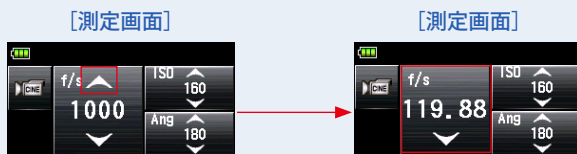
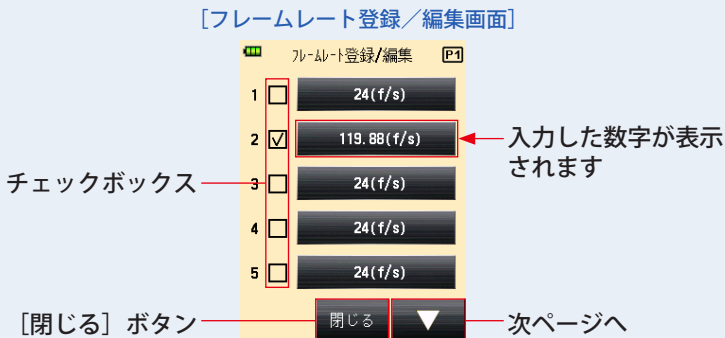
修正をしない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



- フレームレートは、0.001 ~ 99,999.999 (f/s) の範囲を 0.001 (f/s) 単位で登録できます。(⇒ P203)
- チェックマーク (□) が付いていない項目は表示されません。

6. ご使用になるフレームレートのチェックボックスをタッチします。

チェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。チェックしたフレームレートが測定画面で 1000f/s 以降に表示されます。チェックマーク (□) を外すと選択が解除されます。



7. フレームレート登録/選択画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

8. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

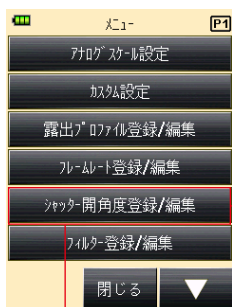
測定画面に戻ります。



3) シャッター開角度のユーザー設定

標準で用意されているシャッター開角度に加えて、最大 20 個までシャッター開角度を登録できます。設定したシャッター開角度は自由に編集できます。

[メニュー画面] 1 ページ



シャッター開角度
登録/編集

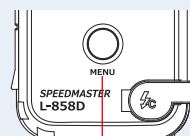
[シャッター開角度登録/編集画面]



操作

1. 本機のメニューボタン⑨を押します。

メニュー画面が表示されます。



メニューボタン⑨

2. [シャッター開角度登録／編集] ボタンをタッチします。

シャッター開角度登録／編集画面が表示されます。

3. [シャッター開角度] ボタンをタッチします。

シャッター開角度入力画面が表示されます。



[シャッター開角度] ボタン

4. シャッター開角度入力画面で数値を入力します。(⇒P11)

5. [OK] ボタンをタッチします。

シャッター開角度登録／選択画面に戻ります。

修正をしない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



ご注意

- シャッター開角度は、0.001 ～ 360° の範囲を 0.001° 単位で登録できます。
- チェックマーク (□) が付いていない項目は表示されません。

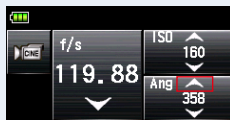
6. ご使用になるシャッター開角度のチェックボックスをタッチします。

チェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。チェックしたシャッター開角度は測定画面で Ang 358 以降に表示されます。チェックマーク (□) を外すと選択が解除されます。チェック (チェックマーク☑) すると Ang 358 の上に矢印が表示されます。

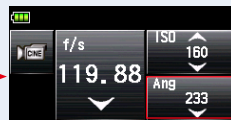
[シャッター開角度登録/編集画面]



[測定画面]



[測定画面]



7. シャッター開角度登録/選択画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

追加されたシャッター開角度は測定画面では、選択順序の一番最後の位置に追加されます。

8. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[シャッター開角度登録/編集]



[メニュー画面] 1 ページ



5-1-6 照度／輝度の測定

入射光式で照度の測定、反射光式で輝度の測定ができます。
設定できる単位は以下の通りです。

入射光式（照度測定） lux	ルクス (単位：lx) (➡P70)
反射光式（輝度測定） cd/m ²	カンデラ平方メートル (単位：cd/m ²) (➡P72)




ご参考

照度測定または輝度測定では、指示補正值は無効になります。

1) 照度測定

操作

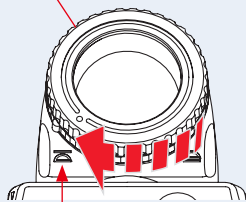
1. 受光方式を入射光式に切換えます。(➡P32)
2. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。
測定モード選択画面が表示されます。
3. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。
選択すると測定画面に切り替わります。




4. 平板に切替えます。

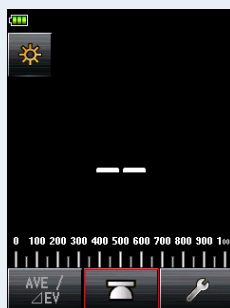
光球になっている場合は光球上下リング①回して平板マーク（）位置に切替えます。

光球上下リング①



平板マーク（）

[測定画面]



5. 測定したい面と受光部が平行になるようにします。

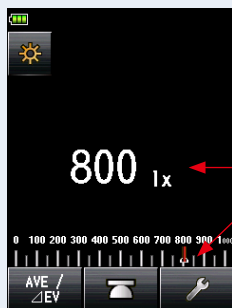
6. 測定ボタン⑥を押して測定します。

測定が開始され、照度がルクス（測定値）として表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に表示されます。（▶P22）


[測定画面]



測定値 (照度 lx)

2) 輝度測定

操作

1. 受光方式を反射光式に切換えます。(➡P37)
2. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。
測定モード選択画面が表示されます。
3. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。
選択すると測定画面に切り替わります。



4. ファインダーを覗きながら、測定ボタン⑥を押して測定します。

ファインダーを覗き、測定したい部分がファインダー内のサークル内に入るようにします。

測定ボタン⑥を押すと測定が開始され、輝度がカンデラ平方メートル（測定値）として表示されます。

測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。（▶ P22、P24）



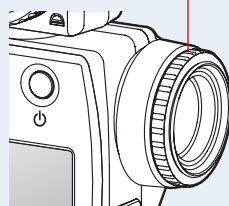
警告

ファインダーを通して太陽や明るい光源を直接覗かないでください。目に傷害をおよぼす恐れがあります。

ご参考

ファインダーを覗き、サークルや数字や文字がはっきり見えるようにファインダー接眼部（視度補正）④を回して視度調整してください。

ファインダー接眼部④



5-2 フラッシュ光モードでの設定

フラッシュ光モード測定とは、フラッシュまたはフラッシュバルブ（閃光電球）のような瞬間光を使った測定のことです。フラッシュ光モードの測定方法には、以下があります。

- フラッシュ光コードレスモード
- フラッシュ光コードレス積算モード
- フラッシュ光コード接続モード
- フラッシュ光コード接続積算モード
- フラッシュ光電波トリガモード（トランスミッター（別売）装着時）
- フラッシュ光電波トリガ積算モード（トランスミッター（別売）装着時）

画面表示内容について

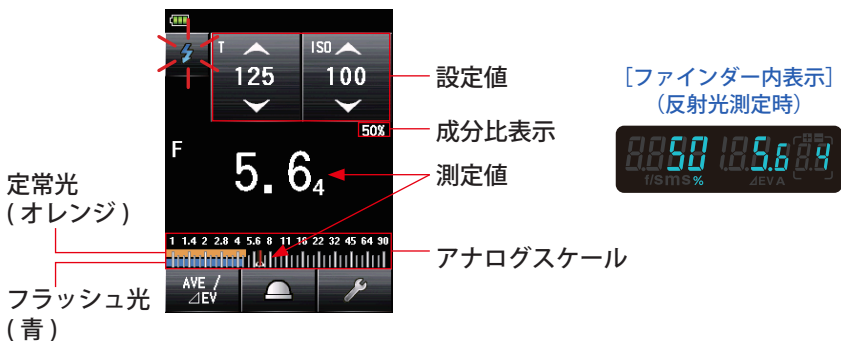
フラッシュ光を測定すると、測定値に全光量（＝フラッシュ光と定常光をミックスした値）が表示されます。

全光量に対するフラッシュ光の比率を10%ステップの数値で成分比表示します。

また、アナログスケールには全光量の測定値に加えて、定常光（オレンジ）とフラッシュ光（ブルー）の成分がそれぞれバーで表示されます。

<例> シャッタースピード 1/125 秒、ISO 100 の条件でフラッシュ光と定常光の成分比が50%と読み取れます。併せて、アナログスケールを見るとフラッシュ光（青）と定常光（オレンジ）のそれぞれの測定結果が表示され、定常光としてタングステン光などの暖かい色の光源を使用した場合、少し黄色味がかかった写真になることがわかります。

[フラッシュ光コードレスモードでの
測定画面例]





- シャッター速度および絞り値の段数はカスタム設定により1段、1/2段、1/3段毎のステップに切換えることができます。(➡P166)
- 測定後、設定値(ISO、シャッター速度)を変えると、それに対応する絞り値が表示されます。
- [アベレージ/モニター機能] ボタン () を押すことによってアベレージまたはモニター機能へ切換えることができます。(➡P121)
- アナログスケールの(測定値スケールまたはゼロ目スケール)は、測定モード、入射/反射、ミッドトーンの設定により表示内容が変わります。(➡P22)
- 表示範囲外オーバー/アンダーおよび測定範囲外オーバー/アンダーになる場合、絞り値を変更するか明るさを調節して対応してください。(➡P111)

5-2-1 フラッシュ光コードレスモードでの測定

本機を測定待機状態(90秒間)にセットし、この間にフラッシュを発光させ、設定したシャッター速度とISOに応じた測定値(絞り値)を表示します。一般的にフラッシュと本機に距離がありシンクロコードが届かない場合や、シンクロコードを使用せずにフラッシュ光を測定したい場合に使用します。



1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。
測定モード選択画面が表示されます。
2. 測定モードでご使用となるアイコン () をタッチします。
選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。(⇒ P32、P37)

4. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)


5. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。

(⇒ P202)

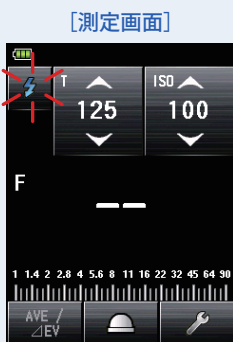


使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

6. 測定ボタン⑥を押します。

測定待機状態に入り [測定モード] アイコン () が 90 秒間点滅します。

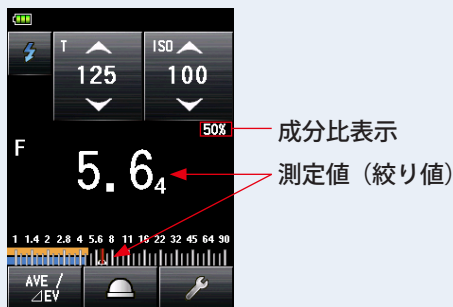
液晶画面も待機状態になり減灯します。



7. [測定モード] アイコン () 点滅中にフラッシュを手動で発光させます。

フラッシュ光を感知すると、自動的に測定を行い、測定値が表示されます。

[測定画面]



⚠️ ご注意

- 下記の場合は「5-2-3 フラッシュ光コード接続モードでの測定」で測定してください。(➡ P86)
- フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少なく、光を感知しない場合。
- ラピッドスタート型蛍光灯や LED など特殊な照明下で、これらの光をフラッシュ光として判別し測定してしまう場合。
- 測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまう場合。
- フラッシュバルブ (閃光電球) の発光波形がなだらかなため、感知しない場合。
- 暗い環境下でカメラのフラッシュ同調速度を超える早いシャッター速度で撮影する場合。

📖 ご参考



- フラッシュ光コードレスモードでは、測定待機中に液晶画面のバックライトは減灯し、測定後3秒間だけ液晶バックライトが点灯します。
- 測定後、ふたたび90秒間測定待機状態になります。もう一度測定したい場合はその間にフラッシュ光を発光させてください。
- メモリーをすると測定待機状態は解除されます。
- フラッシュ光を発光する前にアイコンの点滅が終了したときは、手順6～7を繰り返してください。
- 待機状態を解除したい場合は画面にタッチしてください。
- 本機には三脚ネジがあります。三脚またはスタンドに固定すると便利です。

2) フラッシュプリ発光回数の設定

赤目防止やフラッシュの光量調整のため、メイン発光の前にプリ発光を行う機材があります。

このプリ発光を測定してしまいメイン発光が測定できない場合、プリ発光回数（キャンセル回数）を設定します。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、「フラッシュプリ発光回数」が表示されているツールボックスを表示します。
測定モードがフラッシュ光モードに設定されている場合のみボタンが有効となります。ボタンがグレーアウトしている場合は測定モードを確認してください。
3. ツールボックスの [フラッシュプリ発光回数] ボタンをタッチします。
フラッシュプリ発光回数画面が表示されます。
変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



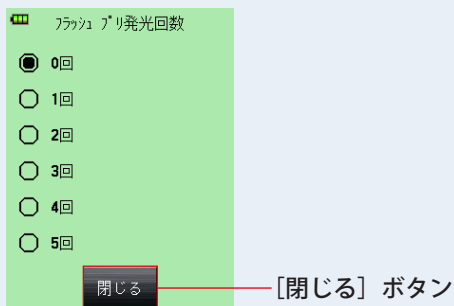
4. [フラッシュプリ発光回数] ボタンのラジオボタンにタッチします。

フラッシュプリ発光回数を選択します。

選択後は測定画面に戻ります。

変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。

[フラッシュプリ発光回数画面]



ご参考

プリ発光回数は通常 1 回ですが、ご使用になる機材により複数回発光する場合があります。
プリ発光回数につきましてはご使用になる機材の使用説明書などでご確認ください。

5-2-2 フラッシュ光コードレス積算モードでの測定

1回のフラッシュの発光量では光量が足りないときに複数回発光させ、その積算光量値に対する測定値（絞り値）を表示させる方法です。

測定ボタン⑥を押すと本機を測定待機状態（90秒間）にセットし、この間にフラッシュを発光させて測定します。フラッシュの発光毎に設定したシャッター速度とISOに応じた測定値（絞り値）が表示されます。

積算回数は無限ですが、ステータス／タイトル領域に表示される回数は99回までで、100回を超えると0に戻り積算を続けます（0=100、1=101、2=102...）。

1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン（）をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。


入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。（▶ P32、P37）

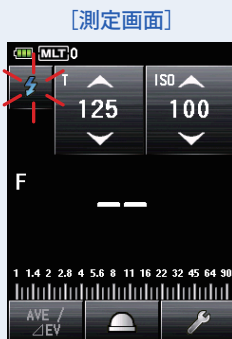
4. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)
5. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒ P202)



使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

6. 測定ボタン⑥を押します。

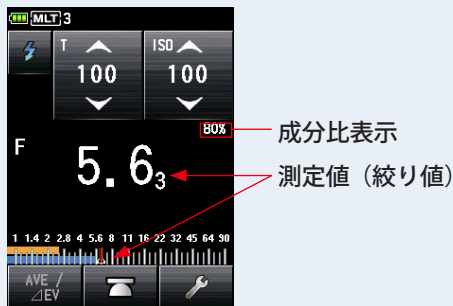
測定待機状態に入り [測定モード] アイコン () が 90 秒間点滅します。
液晶画面も待機状態になり減光します。



7. [測定モード] アイコン () 点滅中にフラッシュ光を手動で発光させます。

フラッシュ光を感知すると、自動的に測定を行い、測定されるとともに積算回数が表示されます。ご希望の絞り値になるまでフラッシュ光を手動で発光させ、測定します。



[測定画面]



ご注意

- 下記の場合は「5-2-4 フラッシュ光コード接続積算モードでの測定」で測定してください。(⇒ P88)
- フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少なく、光を感知しない場合。
- ラピッドスタート型蛍光灯や LED など特殊な照明下で、これらの光をフラッシュ光として判別し測定してしまう場合。
- 測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまう場合。
- フラッシュバルブ (閃光電球) の発光波形がなだらかなため、感知しない場合。
- 暗い環境下でカメラのフラッシュ同調速度を超える早いシャッター速度で撮影する場合。
- ゼロ目スケールは表示できません。



ご参考

- フラッシュ光コードレス積算モードでは、測定待機中に液晶画面のバックライトは減灯し、測定後 3 秒間だけ液晶バックライトが点灯します。
- 測定後、ふたたび 90 秒間測定待機状態になります。もう一度測定したい場合はその間にフラッシュ光を発光させてください。
- 測定待機状態でメモリーボタン  を押すと測定待機状態は解除されます。
- 測定待機状態ではない時にメモリーボタン  を押すと積算値と積算回数がクリアされます。
- フラッシュ光を発光する前にアイコンの点滅が終了したときは、手順 6～7 を繰り返してください。
- 測定待機状態を解除したい場合は画面にタッチしてください。
- 本機には三脚ネジがあります。三脚またはスタンドに固定すると便利です。

2) 積算クリアー

積算回数をクリアーします。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、[積算クリアー] が表示されているツールボックス画面を表示します。
測定が行われている場合にのみボタンが有効となります。
ボタンがグレーアウトしている場合は積算測定がされていないため、クリアーできません。
3. ツールボックスの [積算クリアー] ボタンをタッチします。
積算していた値がクリアーされ、測定画面に戻ります。
積算クリアーをしない場合は、「閉じる」アイコンにタッチします。測定画面に戻ります。






積算クリアーは測定待機状態を解除して、再度測定ボタン⑥を押すと積算回数「0」から測定を開始することができます。

3) フラッシュプリ発光回数の設定

赤目防止やフラッシュの光量調整のため、メイン発光の前にプリ発光を行う機材があります。このプリ発光を測定してしまいメイン発光が測定できない場合、プリ発光回数（キャンセル回数）を設定します。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、[フラッシュプリ発光回数] が表示されているツールボックスを表示します。
測定モードがフラッシュ光モードに設定されている場合にのみボタンが有効となります。ボタンがグレーアウトしている場合は測定モードを確認してください。
3. ツールボックスの [フラッシュプリ発光回数] ボタンをタッチします。
フラッシュプリ発光回数画面が表示されます。
変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



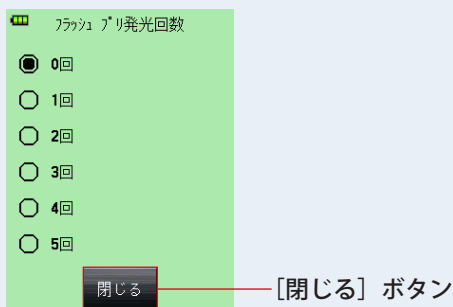
4. [フラッシュプリ発光回数] ボタンのラジオボタンにタッチします。

フラッシュプリ発光回数を選択します。

選択後は測定画面に戻ります。

変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。

[フラッシュプリ発光回数画面]



ご参考

プリ発光回数は通常 1 回ですが、ご使用の機材により複数回発光する場合があります。
プリ発光回数につきましてはご使用になる機材の使用説明書などでご確認ください。

5-2-3 フラッシュ光コード接続モードでの測定

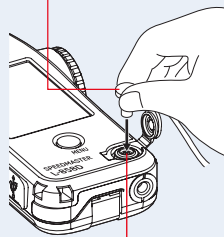
フラッシュと本機をシンクロコード（別売）で接続して測定を行います。フラッシュとの同調を確実にしたいときやフラッシュバルブ（閃光電球）を使用して測定する場合に使用します。測定ボタン⑥を押すとフラッシュが発光し、設定したシャッター速度とISOに応じた測定値（絞り値）を表示します。

操作

1. フラッシュに接続したシンクロコード（別売）を本体に接続します。（⇒P200）


本体のシンクロターミナル⑫に接続します。

シンクロコード（別売）



2. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。

測定モード選択画面が表示されます。



3. 測定モードでご使用となるアイコン（) をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

シンクロターミナル⑫



4. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。（⇒P32、P37）

5. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)

6. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。
(⇒ P202)

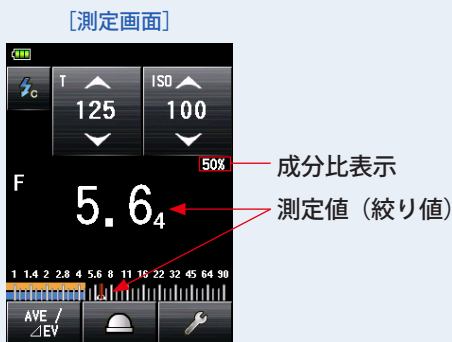


ご注意

使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

7. 測定ボタン⑥を押します。

フラッシュが発光し、そのときの測定値 (絞り値) が表示されます。



ご注意

- シンクローターミナル⑫にシンクロコードを接続したときや本機の電源ボタン⑤を操作した場合、フラッシュによっては発光してしまう場合があります。
- 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「5-2-1 フラッシュ光コードレスモードでの測定」で測定してください。(⇒ P75)

5-2-4 フラッシュ光コード接続積算モードでの測定

1回のフラッシュの発光量では光量が足りないときに複数回発光させ、その積算光量値に対する測定値（絞り値）を表示させる方法です。発光毎に設定したシャッター速度とISOに応じた測定値（絞り値）が表示されます。積算回数は無限ですが、ステータス/タイトル領域に表示される回数は99回までで、100回を超えると0に戻り積算を続けます（0=100、1=101、2=102...）。

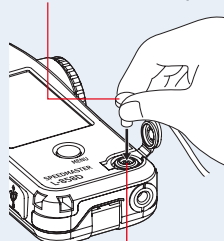
1) 測定

操作

1. フラッシュに接続したシンクロコード（別売）を本体に接続します。（⇒P200）


本体のシンクロターミナル⑫に接続します。

シンクロコード（別売）



2. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。

測定モード選択画面が表示されます。



3. 測定モードでご使用となるアイコン（ MLT）をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

シンクロターミナル⑫



4. 受光方式を設定します。

入射光式 光球（）／平板（）、または反射光式に切換えます。（⇒P32、P37）

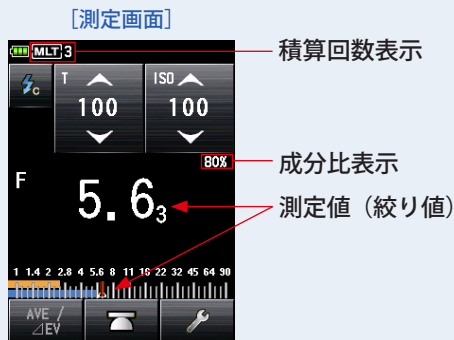
5. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)
6. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒ P202)



使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

7. 測定ボタン⑥を押します。

フラッシュが発光し、そのときの測定値 (絞り値) が表示されるとともに積算回数が表示されます。ご希望の絞り値になるまで測定ボタン⑥を押して発光、測定します。



- シンクローミナル⑫にシンクロコードを接続したときや本機の電源ボタン⑤を操作した場合、フラッシュによっては発光してしまう場合があります。
- 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「5-2-2 フラッシュ光コードレス積算モードでの測定」で測定してください。(⇒ P80)
- ゼロ目スケールは表示できません。




ご参考


メモリーボタン⑦を押すと積算値と積算回数がクリアされます。

2) 積算クリアー

積算回数をクリアーします。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。

2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、[積算クリアー] が表示されているツールボックス画面を表示します。

測定が行われている場合にのみボタンが有効となります。

ボタンがグレーアウトしている場合は積算測定がされていないため、クリアーできません。

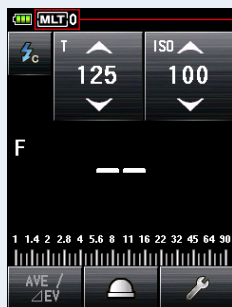
3. ツールボックスの [積算クリアー] ボタンをタッチします。

積算していた値がクリアーされ、測定画面に戻ります。

積算クリアーをしない場合は、[閉じる] ボタンにタッチします。測定画面に戻ります。



[測定画面]



積算回数表示（クリア後）

[積算回数表示]



5-2-5

フラッシュ光電波トリガーモードでの測定

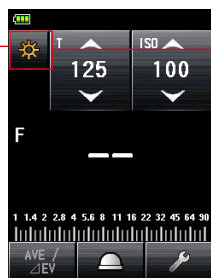
【トランスミッター（別売）を使用します】

本体にトランスミッターを装着し、本体からフラッシュを電波信号で発光させ、設定したシャッター速度と ISO に応じた測定値（絞り値）を表示します。お使いになる電波システムによっては、フラッシュの光量調整、モデリングランプの光量調整および ON/OFF ができます。

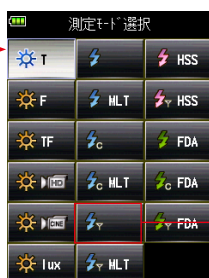
詳細はトランスミッター（別売）の使用説明書をご参照ください。（→P201）

[測定画面]

[測定モード] アイコン



[測定モード選択画面]



[測定画面]



5-2-6

フラッシュ光電波トリガー積算モード

【トランスミッター（別売）を使用します】

1回のフラッシュの発光量では光量が足りないときに複数回発光させ、その積算光量値に対する測定値（絞り値）を表示させる方法です。本体にトランスミッターを装着し、本体からフラッシュを電波信号で発光させ、設定したシャッター速度とISOに応じた測定値（絞り値）を表示します。フラッシュの発光毎に測定値（絞り値）が表示されます。

積算モードでは、フラッシュパワーコントロール画面およびモデリングランプパワーコントロール画面での積算測定はできません（単発の測定のみ可能です）。

詳細はトランスミッター（別売）の使用説明書をご参照ください。（➡P201）



ご参考

メモリーボタン⑦を押すと積算値と積算回数がクリアされます。

5-3 HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光モードでの設定

HSS（ハイスピードシンクロ）またはFP 発光するフラッシュの測定を行います。HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光モードの測定方法には、以下があります。

- ・HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光コードレスモード
- ・HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光電波トリガーマード（RT-GX 装着時のみ）

5-3-1 HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光コードレスモードでの測定

HSS（ハイスピードシンクロ）モードで発光したフラッシュを測定する場合に選択します。本体とフラッシュをコード接続せずに、本体の測定ボタン⑥を押し、フラッシュの閃光を感知すると、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた測定値（絞り値）を測定します。

1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。



測定モード選択画面が表示されます。

2. 測定モードでご使用となるアイコン（）をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () / 平板 ()、または反射光式に切換えます。(⇒P32、P37)


4. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒P202)

5. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒P202)

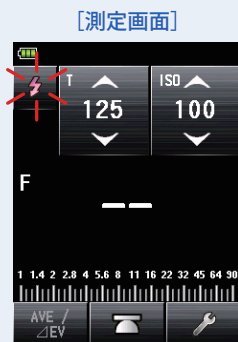


使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

6. 測定ボタン を押します。

測定待機状態に入り [測定モード] アイコン () が 90 秒間点滅します。

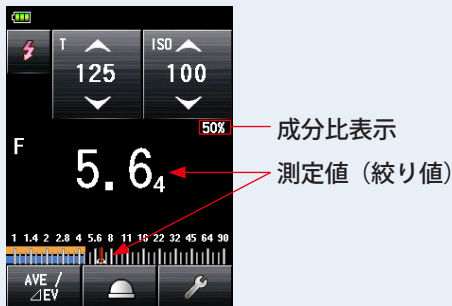
液晶画面も待機状態になり減灯します。



7. [測定モード] アイコン () 点滅中にハイスピードシンクロ発光にセットしたカメラのシャッターボタンを押し、フラッシュを発光させます。

フラッシュ光を感知すると、自動的に測定を行い、測定値が表示されます。

[測定画面]




ご参考

- HSS フラッシュコードレスモードでは、測定待機中に液晶画面のバックライトは減灯し、測定後3秒間だけ液晶バックライトが点灯します。
- 測定後、ふたたび90秒間測定待機状態になります。もう一度測定したい場合はその間にフラッシュ光を発光させてください。
- メモリーをすると測定待機状態は解除されます。
- フラッシュ光を発光する前にアイコンの点滅が終了したときは、手順6～7を繰り返してください。
- 待機状態を解除したい場合は画面にタッチしてください。
- 本機には三脚ネジがあります。三脚またはスタンドに固定すると便利です。

2) フラッシュプリ発光回数の設定

赤目防止やフラッシュの光量調整のため、メイン発光の前にプリ発光を行う機材があります。このプリ発光を測定してしまいメイン発光が測定できない場合、プリ発光回数（キャンセル回数）を設定します。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。

2. ツールボックスの [次ページ] アイコン (▼) にタッチし、[フラッシュプリ発光回数] が表示されているツールボックスを表示します。

測定モードがフラッシュ光モードに設定されている場合にのみボタンが有効となります。ボタンがグレーアウトしている場合は測定モードを確認してください。(▶P45)

3. ツールボックスの [フラッシュプリ発光回数] ボタンをタッチします。

フラッシュプリ発光回数画面が表示されます。

変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



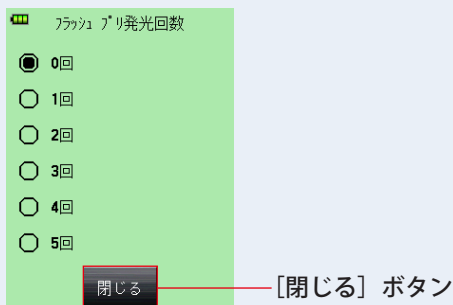
4. [フラッシュプリ発光回数] ボタンのラジオボタンにタッチします。

フラッシュプリ発光回数を選択します。

選択後は測定画面に戻ります。

変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。

[フラッシュプリ発光回数画面]



ご参考

プリ発光回数は通常1回ですが、ご使用の機材により複数回発光する場合があります。プリ発光回数につきましてはご使用になる機材の使用説明書などでご確認ください。

5-3-2

HSS（ハイスピードシンクロ）フラッシュ光電波モードでの測定（RT-GX 装着時のみ）

【RT-GX トランスミッター（別売）を使用します】

HSS(ハイスピードシンクロ)モードで発光したフラッシュを測定する場合に選択します。

本体にトランスミッターを装着し、本体からフラッシュを電波信号で発光させ、設定したシャッター速度とISOに応じた測定値（絞り値）を表示します。お使いになる電波システムによっては、フラッシュの光量調整やモデリングランプの光量調整およびON/OFFが行えます。

この測定モードは、トランスミッター RT-GX（Godox 用）を装着した時のみ使用可能となります。詳細は RT-GX の使用説明書をご参照ください。（➡P45）



5-4 フラッシュ光解析モードでの設定

フラッシュ光解析モード測定とは、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値およびフラッシュの閃光時間と出力波形を測定できるモードです。このモードは入射光式でのみ有効です。以下の測定方法があります。

- フラッシュ光解析コードレスモード
- フラッシュ光解析コード接続モード
- フラッシュ光解析電波トリガーモード（別売のトランスミッター装着時）

5-4-1 フラッシュ光解析コードレスモードでの測定

本体とフラッシュをコード接続せずに、本体を測定待機状態（90 秒間）にセットし、この間にフラッシュを発光させて、測定値（絞り値）およびフラッシュの閃光時間と出力波形を測定します。

1) 測定

操作

1. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。

測定モード選択画面が表示されます。



2. 測定モードでご使用となるアイコン（）をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

受光方式を反射光式に設定されている場合は選択できません。入射光式に変更してください。



3. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () または平板 () に切替えます。(⇒P32)

4. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒P202)

5. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒P202)



⚠️ ご注意


- 使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。
- 測定したフラッシュ閃光時間が設定したシャッター速度よりも長い場合、適正な絞り値が測定できないため、黄色で「Under」という表示が点灯します。
その場合は、シャッター速度の設定値をフラッシュ閃光時間よりも遅く変更して、再度測定してください。

[測定画面]



6. フラッシュ解析 t 値の設定をします。(⇒P103)

7. 測定ボタン を押します。

測定待機状態に入り [測定モード] アイコン () が 90 秒間点滅します。液晶画面も待機状態になり減灯します。

8. [測定モード] アイコン () 点滅中にフラッシュを手動で発光させます。

フラッシュ光を感知すると、自動的に測定を行い、測定値が表示されます。

[測定画面]

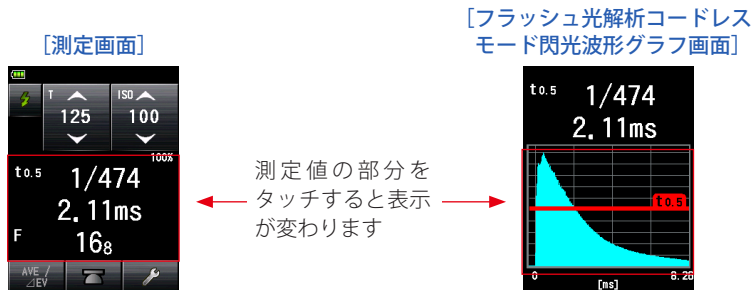


! ご注意

- 以下の場合は「5-4-2 フラッシュ光解析コード接続モードでの測定」で測定してください。(➡ P105)
- フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少なく、光を感知しない場合。
- ラピッドスタート型蛍光灯や LED など特殊な照明下で、これらの光をフラッシュ光として判別し測定してしまう場合。
- 測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまう場合。
- フラッシュバルブ (閃光電球) の発光波形がなだらかなため、感知しない場合。
- 暗い環境下でカメラのフラッシュ同調速度を超える早いシャッター速度で撮影する場合。
- フラッシュ光解析モードで表示されている閃光時間・グラフはメモリーできません。測定モードを変更したり、電源を OFF すると消去されます。
- フラッシュ光解析モードは入射光式でのみ測定できます。
- 測定待機状態 (90 秒) の間に、フラッシュ光を 1 回だけ測定します。待機状態には戻りませんので再度測定する場合には、手順 7. と 8. を繰り返してください。



- 測定値が表示されている領域をタッチすると閃光波形グラフと測定値を同時に表示できます。もう一度タッチすると測定画面に戻ります。



※グラフ画面では測定することはできません。

- フラッシュ光の特性を計る場合は定常光の無い暗い部屋（暗室）で測定してください。
- プリ発光をするフラッシュをご使用の場合は、ツールボックスの「フラッシュプリ発光回数」を設定してください。（▶P101）
- 本機には三脚ネジがあります。三脚またはスタンドに固定すると便利です。

2) フラッシュプリ発光回数の設定

赤目防止やフラッシュの光量調整のため、メイン発光の前にプリ発光を行うフラッシュがあります。

このプリ発光を測定してしまい、メイン発光が測定できない場合、プリ発光回数（キャンセル回数）を設定します。

操作

- 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
- ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、「フラッシュプリ発光回数」が表示されているツールボックスを表示します。
測定モードがフラッシュ光モードに設定されている場合のみボタンが有効となります。ボタンがグレーアウトしている場合は測定モードを確認してください。

3. ツールボックスの [フラッシュプリ発光回数] ボタンをタッチします。

フラッシュプリ発光回数画面が表示されます。

フラッシュプリ発光回数の変更をしない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



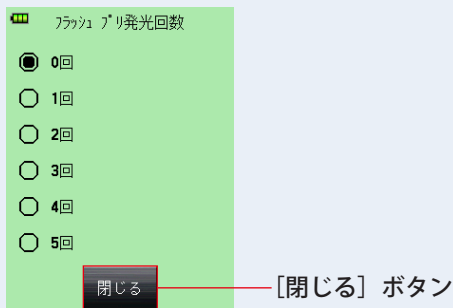
4. [フラッシュプリ発光回数] ボタンのラジオボタンにタッチします。

フラッシュプリ発光回数を選択します。

選択後は測定画面に戻ります。

変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。

[フラッシュプリ発光回数画面]





ご参考

プリ発光回数は通常 1 回ですが、ご使用の機材により複数回発光する場合があります。プリ発光回数につきましてはご使用になる機材の使用説明書などでご確認ください。

3) フラッシュ解析 t 値

t 値は 0.1 ～ 0.9 まで 0.1 ステップで設定できます。
設定された t 値により、フラッシュ閃光時間の測定範囲が変わります。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、[フラッシュ解析 t 値] が表示されているツールボックスを表示します。
測定モードがフラッシュ光解析モードに設定されている場合にのみボタンが表示されます。ボタンが表示されていない場合は測定モードを確認してください。
3. ツールボックスの [フラッシュ解析 t 値] ボタンをタッチします。
フラッシュ解析 t 値画面が表示されます。
変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



4. 数字にタッチして、0.1~0.9の「基準」を入力します。

t 値は 0.1 ~ 0.9 まで 0.1 ステップで設定できます。

最初の「0」は固定のため、小数点第一位の数字のみを入力してください（0.1 を設定したい場合は「1」を入力）。

[フラッシュ解析 t 値画面]



[フラッシュ解析 t 値画面]



入力した数字が表示されます

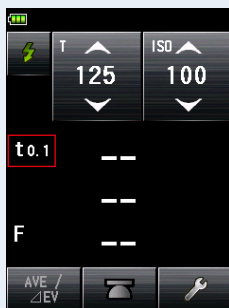
[OK] ボタン [キャンセル] ボタン

5. [OK] ボタンをタッチします。

設定が確定され測定画面に戻ります。

[キャンセル] ボタンをタッチすると設定は変わらずに測定画面に戻ります。

[測定画面]



ご参考

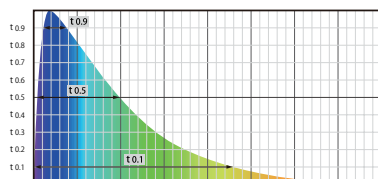
閃光時間の基準は、2つの規定があります。

t0.5 = 有効閃光時間

t0.1 = トータル閃光時間

それぞれの基準はフラッシュの発光後、最大光量から半分の光量となる時間を t0.5、1/10 の光量となる時間を t0.1 と呼びます。

一般的には t0.5 を閃光時間と呼んでいます。



5-4-2

フラッシュ光解析コード接続モードでの測定

本体とフラッシュをコード接続し、本体の測定ボタン⑥を押すと、フラッシュの閃光を感知して、設定したシャッター速度、ISO 感度に応じた絞り値およびフラッシュ閃光時間と出力波形を測定します。

1) 測定


操作

1. フラッシュに接続したシンクロコード (別売) を本体に接続します。(➡P200)

本体のシンクロターミナル⑫に接続します。

2. 測定画面で [測定モード] アイコンをタッチします。

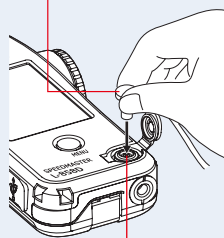
測定モード選択画面が表示されます。

3. 測定モードでご使用となるアイコン ( FDA) をタッチします。

選択すると測定画面に切り替わります。

受光方式を反射光式に設定されている場合は選択できません。入射光式に変更してください。

シンクロコード (別売)





シンクロターミナル⑫

[測定画面] [測定モード選択画面] [測定画面]

[測定モード] アイコン

入射光式を選択すること

4. 受光方式を設定します。

入射光式 光球 () または平板 () に切替えます。(➡P32)

5. [ISO (ISO 値) 設定] アイコンで、ISO 感度を設定します。(⇒ P202)
6. [T (シャッター速度) 設定] アイコンでシャッター速度を設定します。(⇒ P202)



ご注意

- 使用機材のフラッシュ同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。
- 測定したフラッシュ閃光時間が設定したシャッター速度よりも長い場合、適正な絞り値が測定できないため、黄色で「Under」という表示が点灯します。その場合は、シャッター速度の設定値をフラッシュ閃光時間よりも遅く変更して再度測定してください。



7. フラッシュ解析 t 値の設定をします。(⇒ P108)

8. 測定ボタン⑥を押します。

フラッシュが発光し、そのときの測定値（絞り値）が表示されます。

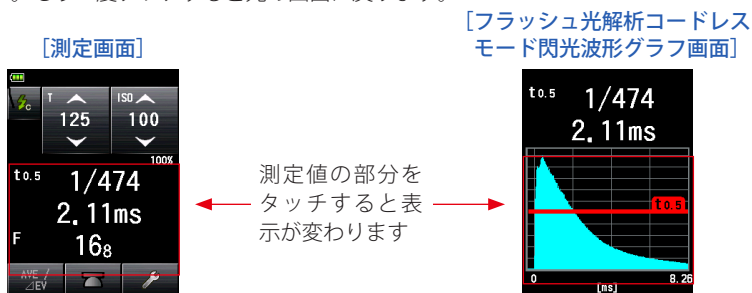


ご注意

- フラッシュ光解析モードで表示されている閃光時間・グラフはメモリーできません。測定モードを変更したり、電源を OFF すると消去されます。
- フラッシュ光解析モードは入射光式でのみ測定できます。
- シンクローターミナル⑫にシンクロコードを接続したときや本機の電源ボタン⑤を操作した場合、フラッシュによっては発光してしまう場合があります。
- 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「5-4-1 フラッシュ光解析コードレスモードでの測定」で測定してください。(▶P98)

ご参考

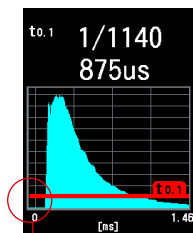
- 測定値が表示されている領域をタッチすると閃光波形グラフと測定値を同時に表示できます。もう一度タッチすると元の画面に戻ります。



※グラフ画面では測定することはできません。

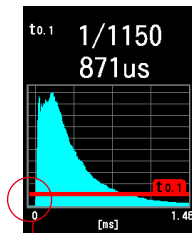
- フラッシュ光の特性を計る場合は定常光の無い暗い部屋（暗室）で測定してください。
- このフラッシュ光解析コード接続モードでは、測定ボタンを押してすぐに測定を開始し、フラッシュの全発光時間を正確に計ることができます。フラッシュ光解析コードレスモードでは、フラッシュの発光を感知してから測定を開始するため、フラッシュの波形や解析t値によっては測定値に差が出ることがあります。

[フラッシュ光解析コード接続モード閃光波形グラフ画面]



コード接続モード

[フラッシュ光解析コードレスモード閃光波形グラフ画面]



コードレスモード

測定開始までのタイムラグ

2) フラッシュ解析 t 値

t 値は 0.1 ～ 0.9 まで 0.1 ステップで設定できます。
設定された t 値により、フラッシュ閃光時間の測定範囲が変わります。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン () にタッチし、「フラッシュ解析 t 値」が表示されているツールボックスを表示します。
測定モードがフラッシュ光解析モードに設定されている場合にのみボタンが表示されます。ボタンが表示されていない場合は測定モードを確認してください。
3. ツールボックスの [フラッシュ解析 t 値] ボタンをタッチします。
フラッシュ解析 t 値画面が表示されます。
変更しない場合は、[閉じる] ボタンをタッチします。



4. 数字にタッチして、0.1~0.9の「基準」を入力します。

t 値は 0.1 ~ 0.9 まで 0.1 ステップで設定できます。

最初の「0」は固定のため、小数点第一位の数字のみを入力してください（0.1 を設定したい場合は「1」を入力）。

[フラッシュ解析 t 値画面]



[フラッシュ解析 t 値画面]



入力した数字が表示されます

[OK] ボタン [キャンセル] ボタン

5. [OK] ボタンをタッチします。

設定が確定され測定画面に戻ります。

[キャンセル] ボタンをタッチすると設定は変わらずに測定画面に戻ります。

[測定画面]



ご参考

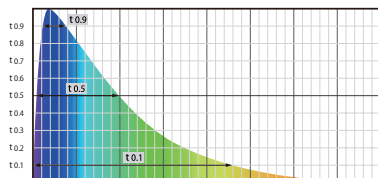
閃光時間の基準は、2つの規定があります。

t0.5 = 有効閃光時間

t0.1 = トータル閃光時間

それぞれの基準はフラッシュの発光後、最大光量から半分の光量となる時間を t0.5、1/10 の光量となる時間を t0.1 と呼びます。

一般的には t0.5 を閃光時間と呼んでいます。



5-4-3 フラッシュ光解析電波トリガーモードでの測定

【トランスミッター（別売）を使用します】

本体にトランスミッターを装着し、本体からフラッシュを電波信号で発光させ、設定したシャッター速度と ISO に応じた測定値（絞り値）および閃光時間と出力波形を表示します。お使いになる電波システムによっては、フラッシュの光量調整、モデリングランプの光量調整および ON/OFF ができます。

詳細はトランスミッター（別売）の使用説明書をご参照ください。（→P201）



5-5

表示範囲／測定範囲を超えたときには

5-5-1

表示範囲を超えたとき

本機の測定範囲内であっても、設定された値によっては測定値の表示範囲外を示す「Under」、または「Over」が表示されることがあります。この場合は、下記のように対応してください。



1) 露出アンダー「Under」が表示された場合

表示範囲の最小値を超えて露出アンダー「Under」となるときは、T（シャッター）アイコンでシャッター速度を低速側に変更するか、ISO感度を値の高い方へ変更するか、再測定のためフラッシュの光量を強くしてください。

設定に応じて適正な絞り値が表示されます。

2) 露出オーバー「Over」が表示された場合

表示範囲の最大値を超えて露出オーバー「Over」となるときは、T（シャッター）アイコンでシャッター速度をカメラが同調する範囲内で高速側に変更するか、ISO感度を値の低い方へ変更するか、再測定のためフラッシュの光量を弱くしてください。

設定に応じて適正な絞り値が表示されます。



ご参考

各測定モードの設定値は異なります。設定値については、「5. 測定」の各測定モードをご参照ください。(▶P48)

5-5-2 測定範囲を超えたとき

本機の測定範囲を超える暗さまたは明るさの時は「Under」または「Over」が点滅し、測定できないことを表します。

フラッシュ等、光量を変えられる場合は調節して再測定してください。

[測定範囲を下回る暗さのとき]



[測定範囲を超える明るさのとき]



ご参考

表示範囲

ISO 感度	ISO3 ~ ISO13,107,200 (1/3 ステップ)
シャッター速度	定常光 30分 ~ 1/64,000 秒、1/200、1/400 (1、1/2、1/3 ステップ)
	フラッシュ光 30分 ~ 1/16,000 秒、1/75、1/80、1/90、 1/100、1/200、1/400 (1、1/2、1/3 ステップ)
絞り値	F0.5 ~ F128.9 (1 ステップ) F0.5 ~ F152.4 (1/2 ステップ) F0.5 ~ F161.2 (1/3 ステップ)
フラッシュ閃光時間	1/40 ~ 1/55,500 秒 (25ms ~ 18us)

測定範囲 (ISO100)

定常光	入射光式 - 5EV ~ EV22.9 反射光式 - 1EV ~ EV24.4
フラッシュ光	入射光式 F0.5 ~ F128.9 反射光式 F1.0 ~ F128.9
照度	0.1 ~ 2,000,000 lx
輝度	0.1 ~ 980,000 cd/m ²

6. 機能

6-1 メモリー機能

本機は測定値をメモリーできます。この機能は、下記の測定モードで使用できます。

定常光モード

- シャッター速度優先モード
- 絞り優先モード
- TF 優先モード
- HD シネカメラモード
- シネカメラモード

フラッシュ光モード

- コード接続モード
- コードレスモード
- 電波トリガーモード

HSS フラッシュ光モード

- HSS フラッシュ光コードレスモード
- HSS フラッシュ光電波トリガーモード

入射／反射光方式に関わらず、合せて9点までの測定値の記憶（メモリー）と再表示（リコール）が可能です。



ご参考

- 入射光方式の場合、メモリー後に反射光方式に切替えても、入射光方式のメモリー値は残り、新たに反射光方式のメモリー値を表示できます。
- 定常光モードの場合、モードを切替えてもメモリー値は残ります。
フラッシュ光モードの場合、モードを切替えるとメモリー値は残りません。
- カスタム設定でメモリーボタンを無効にした場合、メモリー値は残りません。

6-1-1 メモリーの方法

操作

1. 測定ボタン⑥を押します。

測定が開始され、測定値が表示されます。

定常光の場合測定ボタン⑥を押している間は、連続的に測定が行われます。

測定ボタン⑥を放すと測定を終了し、放した時点の測定値が測定画面の「測定値 / 測定単位表示」領域と「アナログスケール」に、またファインダー内表示の「測定値表示」領域に表示されます。(➡P22、P24)

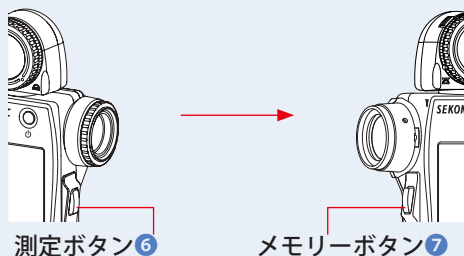
2. メモリーボタン⑦を押します。

測定値をメモリーします。メモリーされた測定値は、スケール上にドット表示されます。

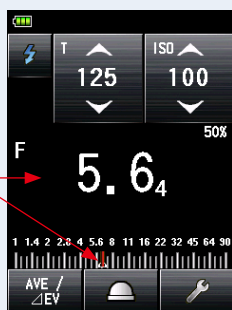
また、ステータスバーにメモリー回数が表示されます。

3. 手順 1. ～ 2. を繰り返します。

最大 9 点まで測定値をメモリーできます。

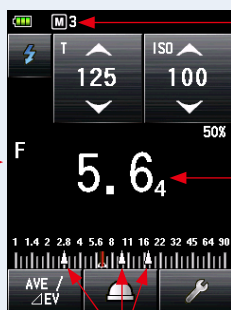


[測定画面]



測定値
(絞り値)

[測定画面]



メモリー
回数

測定値
(絞り値)

メモリーされた各測定値 (絞り値)


ご注意

メモリー機能は、下記の測定モードでは使用できません。

- フラッシュ光コード接続積算モード
- フラッシュ光コードレス積算モード
- フラッシュ光電波トリガー積算モード
- 照度・輝度測定モード
- フラッシュ光解析コードレスモード
- フラッシュ光解析コード接続モード
- フラッシュ光解析電波トリガーモード



ご参考
メモリー回数警告

本機のメモリー数は最大9点までです。10回目以降、測定値を保存しようとした場合、『メモリー一杯です。』と警告メッセージが画面に表示され、メモリーはできません。

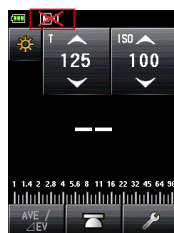
[測定画面]


メモリーボタンの ON/OFF



カスタム設定により、メモリーボタンを無効に設定できます。


メモリーボタンが「OFF」設定のときはステータスバーに  が表示されます。(▶P189)

[測定画面]





6-1-2 メモリークリアー

メモリーされた測定値を、個別または一括でクリアーできます。メモリークリアー画面には、メモリーされた順序でメモリー内容（メモリー番号、入射光（）／反射光（）、測定値）が表示されます。

アナログスケール上にメモリーされた測定値がドット表示（）されます。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン（）をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン（）にタッチします
「メモリークリアー」が表示されているツールボックス画面を表示します。
3. ツールボックスの [メモリークリアー] ボタンをタッチします。
メモリークリアー画面が表示されます。



1) 個別クリアーの場合

操作

1. メモリークリアー画面で、削除したいメモリー値を選択します。

複数のメモリーを選択可能です。

2. [クリアー] ボタンをタッチします。

指定メモリー消去の確認画面になり、『指定されたメモリーがクリアーされます。よろしいですか。』と表示されます。

[閉じる] ボタンをタッチするとメモリーをクリアーせず測定画面に戻ります。

3. [OK] ボタンをタッチします。

選択した項目がクリアーされ、メモリークリアー画面に戻ります。表示内容は繰り上がり表示されます。

[キャンセル] ボタンをタッチするとメモリーをクリアーせずメモリークリアー画面に戻ります。

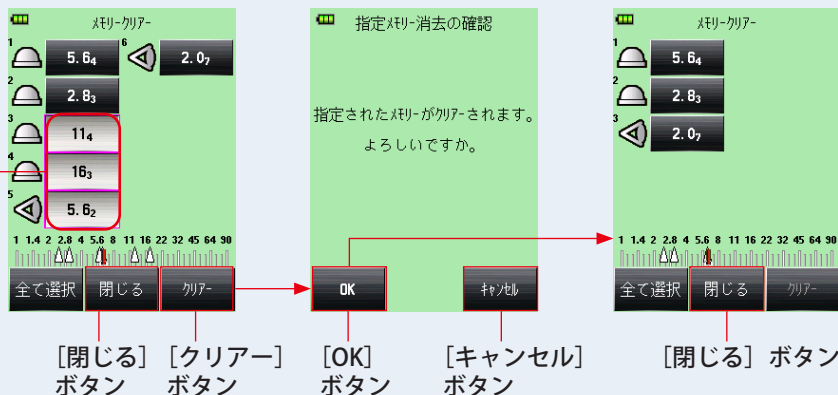
4. メモリークリアー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。ステータスバーのメモリー回数、消去後のメモリーの回数が表示されます。

[メモリークリアー画面]

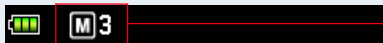
[指定メモリー消去の
確認画面]

[メモリークリアー画面]



選択した項目

[ステータスバー]



ステータスバーのメモリー回数表示が変更されます。

2) 一括クリアの場合

メモリーした値を一括クリアできます。

操作

1. メモリークリア画面で、[全て選択] ボタンをタッチします。

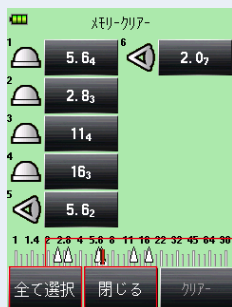
全メモリー消去の確認画面になり、『全てのメモリーがクリアされます。よろしいですか。』と表示されます。

2. [OK] ボタンをタッチします。

メモリーが全てクリアされ、測定画面に戻ります。ステータスバーからメモリー回数が消えます。

[キャンセル] ボタンをタッチするとメモリーをクリアせずにメモリークリア画面に戻ります。

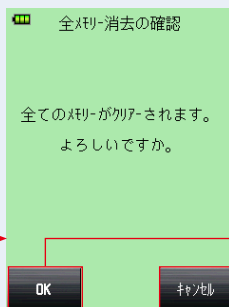
[メモリークリア画面]



[全て選択]
ボタン

[閉じる]
ボタン

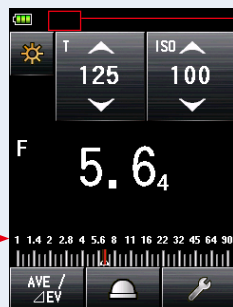
[全メモリー消去
の確認画面]



[OK]
ボタン




[キャンセル]
ボタン

[測定画面]





メモリーなし

6-1-3 メモリーリコール

メモリーされた内容を見るための呼出し機能です。メモリーされた順序でメモリー内容（メモリー番号、入射光（）／反射光（）、測定値）が表示されます。アナログスケール上にメモリーされた測定値がドット表示（）されます。

操作

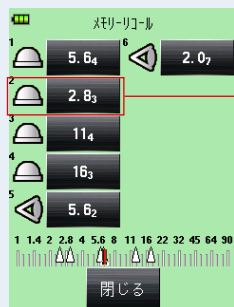
1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン（）をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [次ページ] アイコン（）にタッチします。
「メモリーリコール」が表示されているツールボックス画面を表示します。
3. ツールボックス画面の [メモリーリコール] ボタンをタッチします。
メモリーリコール画面が表示されます。（メモリー最大9個）



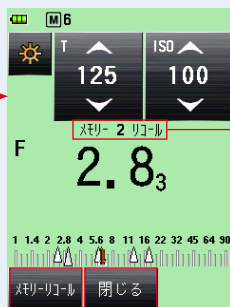
4. メモリーリコールする項目をタッチします。

メモリーされた内容が測定画面で表示されます。(背景みどり色)

[メモリーリコール画面]



[リコール画面]



リコール中のメモリー番号

[閉じる] ボタン

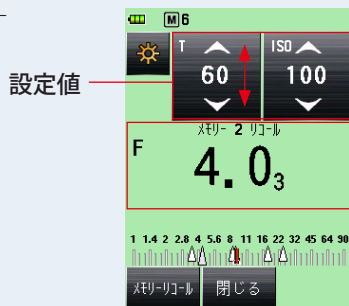
[メモリーリコール] ボタン



ご参考

- 定常光モードの場合、モードを切替えてもメモリー値は残ります。各測定モードでメモリーした内容は、メモリーリコールしたときの測定モードの内容で再表示されます。
例) TF 優先モードで ISO 値をメモリーしても、T 優先モードでメモリーリコールした場合は絞り値が表示されます。
- メモリーリコール画面で設定値を変更すると、それに伴って測定値(メモリーリコール値)も変わります。

[リコール画面]



5. [メモリーリコール] ボタンをタッチします。

他のメモリー値を表示したいときにリコール画面で [メモリーリコール] ボタンをタッチすると、メモリーリコール画面に戻ります。

[閉じる] ボタンをタッチすると、メモリーリコール画面に戻らずに、測定画面に戻ります。

6. [閉じる] ボタンをタッチします。

[閉じる] ボタンをタッチすると、メモリーリコール画面に戻らずに測定画面に戻ります。

7. メモリーリコール画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



6-2

アベレージ／モニター機能

1) アベレージ機能

メモリーされた9点までの測定値を平均し、表示します。この機能は、定常光（シャッター速度優先、絞り優先、TF優先、HDシネカメラ、シネカメラ）、フラッシュ光（コード接続、コードレス、電波トリガー）、HSSフラッシュ光（コードレス、電波トリガー）のときに使用できます。

操作

1. 測定ボタン⑥を押します。

測定を行います。

2. メモリーボタン⑦を押します。



測定値をメモリーします。メモリーされた測定値は、アナログスケール上にドット表示 (●) がされます。

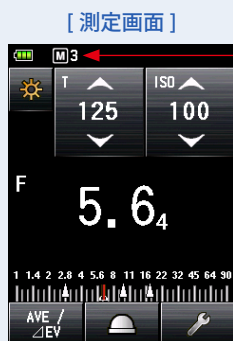
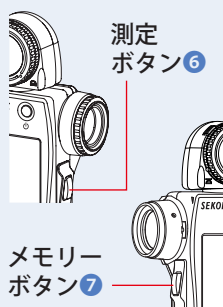
3. 手順 1.~2. を繰り返します。

最大9点まで測定値をメモリーできます。ステータスバーにメモリー回数が表示されます。

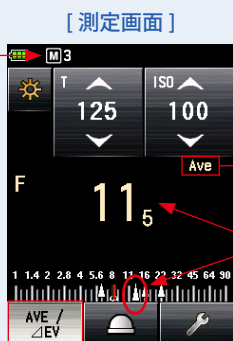
4. [アベレージ/モニター機能] ボタン () をタッチします。

画面に「Ave」マークが表示されます。全メモリーの平均値が表示されます。

アベレージ機能を実施中は、測定値が黄色になり、ボタン () が反転表示 () されています。



メモリー回数



[拡大]
アナログスケール



測定値

メモリー値

[拡大]
アナログスケール



メモリー値

最後の測定値



メモリー値

平均値(長い)

 **ご参考**

- アベレージ機能は、メモリー機能が有効なモードにのみ使うことができます。
(⇒P113)
- 工場出荷設定時では、[アベレージ/モニター機能] ボタンがファンクションボタン-1 に設定されています。[アベレージ/モニター機能] ボタンが表示されていない場合は、カスタム設定でファンクションボタンの設定をするか (⇒P163)、ツールボックスからアベレージ/モニター機能を設定してください。(⇒P127)

5. 再度 [アベレージ/モニター機能] ボタン () をタッチします。




アベレージ機能が解除され、ボタンの反転表示 () が通常表示 () になり、画面中の「Ave」マークの表示が消えます。

測定値は、アベレージを行う前の最後の測定値が表示されます。



 **ご参考**

ファンクションボタン 1 または 2 でアベレージ/モニター機能 ON/OFF を選択した場合。
(⇒P163)

ボタン	説明
	測定値やメモリーの無いときに表示されます。
	アベレージ/モニター機能が OFF のときに表示されます。
	アベレージ/モニター機能が ON のときに表示されます。

2) モニター機能

この機能は、定常光（シャッター速度優先、絞り優先、TF 優先、HD シネカメラ、シネカメラ、照度 / 輝度）、フラッシュ光（コード接続、コードレス、電波トリガー）、HSS フラッシュモードのときに使用できます。

スタジオでのライティングの確認や照明ムラのチェックを行う時に便利な機能です。また風景撮影では、中間値に対してハイライト・シャドーの輝度差の確認をするのに便利です。あるポイントでの測定値を基準とした後、比較したい箇所で測定ボタン⑥を押している間、測定値表示領域には基準値とその箇所の差を EV 値（段数）で表示し、アナログスケールには基準値と現在の測定値が表示されます。

※ 基準値は、メモリー値がない場合は最後の測定値、メモリー値がある場合はメモリー（最大9点まで）の平均値となります。

モニター機能を使っでの照明比測定例

（入射光式でのシャッター速度優先モードの場合）

主光源と補助光源の照明比を測定するときは、光球を下げて平板機能を使用して測定します。

操作

1. 光球上下リング①を回します。

平板マーク（）位置に確実に切換えます。

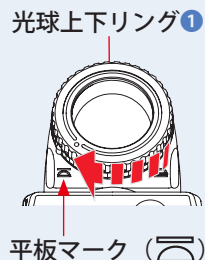
受光部を平板にして測定することで、光源のみを測定することができます。

2. 主光源（ライト）のみ点灯させます。



補助光源は消灯しておきます。

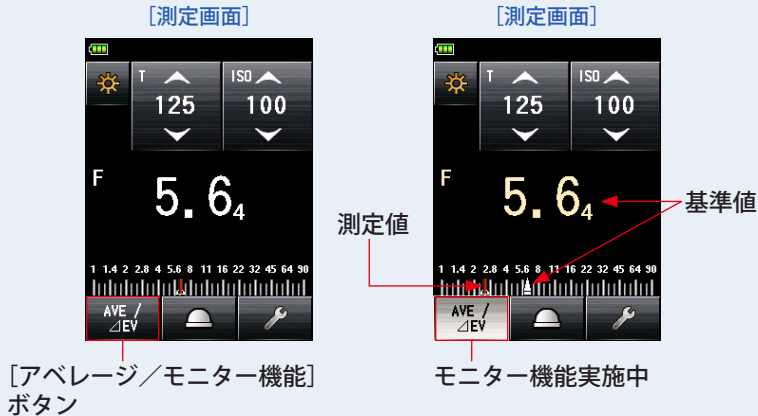
3. 測定ボタン⑥を押します。

被写体位置で受光部を主光源に向け、測定を行います。



4. [アベレージ／モニター機能] ボタン () をタッチします。


モニター機能が実施中のときは、測定値が黄色になり、[アベレージ／モニター機能] ボタン () が反転表示 () されています。



5. 補助光源 (ライト) のみ点灯します。

主光源は消灯しておきます。


6. 測定ボタン を押し続けます。

被写体位置で受光部を補助光源に向け、測定を行います。測定ボタン  を押し続けている間、測定値は白色になり基準値 (主光源) と補助光源の測定値の差が、EV 値で表示されます。同時にアナログスケールでは基準値とモニター値 (比較した箇所の測定値) が表示され照明比 (コントラスト比) を求めることができます。

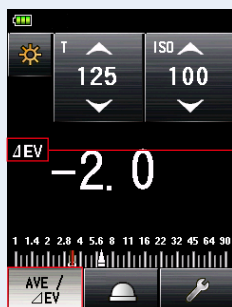
7. 測定ボタン を放します。

モニター機能が解除されます。モニター機能が終わり、測定値のところに基準値が表示されます。

8. 再度 [アベレージ／モニター機能] ボタン () をタッチします。

モニター機能が解除され、黄色の基準値から白色の測定値に表示が変わります。測定値は、測定ボタン  を放したときの最後の測定値が表示されます。

[測定画面]



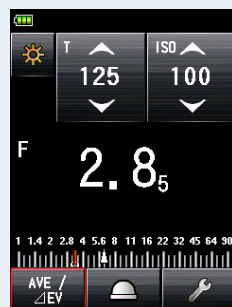
モニター機能実施中

[拡大]
アナログスケール

測定値 基準値

「ΔEV」マーク

[測定画面]

[アベレージ/モニター機能]
ボタン反射光測定の場合
[ファインダー内表示]


測定値の EV 差	照明比
1	2 : 1
1.5	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1

ご参考

- 入射光測定時の露出決定は、主光源と補助光源を点灯し、受光部を光球マーク位置にしてカメラの光軸に向けて測定します。
- 工場出荷設定時では、[アベレージ/モニター機能] ボタンがファンクションボタン-1に設定されています。[アベレージ/モニター機能] ボタンが表示されていない場合は、カスタム設定でファンクションボタンの設定をするか (➡P163)、ツールボックスからアベレージ/モニター機能を設定してください。(➡P127)
- メモリーがされていない状態で、最後の測定値を基準値としてモニター機能を使用したとき、測定値が黄色表示に変更されます。
- 照明比を測定する場合はゼロ目スケールを使用すると見やすくなります。
- アナログスケールの設定 (「測定値スケール」または「ゼロ目スケール」) はメニュー画面から変更できます。(➡P22)

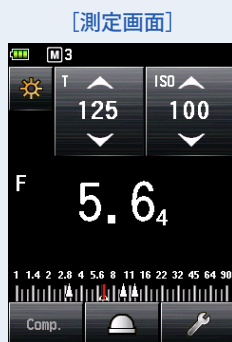
3) ツールボックスからのアベレージ／モニター機能の設定

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [アベレージ／モニター機能] ボタンをタッチします。
アベレージ／モニター機能画面が表示されます。
3. [ON] [OFF] のラジオボタンまたは項目名称の周辺をタッチします。
アベレージ／モニター機能の [ON] [OFF] が設定できます。メモリーがあるときはアベレージの値、メモリーがないときは最後の測定値が基準値となり、黄色の文字になります。
いずれかをタッチしたら、測定画面に戻ります。



アベレージ／モニター機能
[ON] のとき
(メモリーがあるとき)



アベレージ／モニター機能
[OFF] のとき
(メモリーがあるとき)

6-3 指示補正機能

本機は当社の基準により標準的な校正を行っていますが、指示補正機能を使って測定の基準を変更できます。また、ハイライト基準・シャドウ基準での露出決定の場合にも便利です。

補正できる範囲は、 $\pm 9.9\text{EV}$ 、 0.1EV ステップです。

指示補正機能を使用するときは、まず測定モード（入射光式または反射光式）を設定します。補正は入射／反射それぞれ独立して設定できます。

■ マイナス補正

本機の測定値で撮影した際、明るめになるとき、マイナス補正をする事で光量を暗く変更できます。

■ プラス補正

本機の測定値で撮影した際、暗めになるとき、プラス補正をする事で光量を明るく変更できます。

ご注意




- 測定値を補正する場合は、十分なテスト撮影の結果を元に補正してください。
- 入射光式と反射光式は独立して補正ができますが、定常光／フラッシュ光は、一律に補正されますのでご注意ください。

ご参考


工場初期設定では、光量に対するマイナス／プラスの補正をしますが、露出値に対する補正（プラス補正で露出アンダー、マイナス補正で露出オーバー）にするには、カスタム設定の「指示補正の反映方法」で「露出値（+は暗い、-は明るい）」を選択してください。（▶P169）

ご参考

ファンクションボタン 1 または 2 で指示補正 ON/OFF を選択した場合。（▶P163）

ボタン	説明
	指示補正が設定されていないときに表示されます。
	指示補正が解除されているときに表示されます。
	指示補正が設定されているときに表示されます。

操作


1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。

2. ツールボックスの [指示補正] ボタンをタッチします。
指示補正值画面が表示されます。

3. 補正値を設定します。

表示された補正值ダイレクト入力画面で補正値を設定します。
補正できる範囲は、± 9.9EV で 0.1EV ステップです。(入力方法は、▶P11)

4. [OK] ボタンをタッチします。

測定画面に戻り、ステータスバー部分に補正アイコン () と補正値が表示されます。
補正をしない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。






6-4 フィルター補正機能

露出計にフィルター補正値を登録し、設定することでフィルター補正値を反映した測定結果をえられます。

カメラのレンズ前にフィルターを付けた場合、カメラに入る光量が落ちます。その落ちた光量を露出計に補正する必要があります。

フィルター補正値の設定範囲は± 20.0EV、0.1EV ステップです。

フィルター補正には次の3つが選択できます。

1. 補正値ダイレクト入力
数値を入力します。ステータスバー部分にフィルター補正 () が表示されます。
2. フィルター選択
あらかじめ登録されているフィルター名を最大4つまで設定出来ます。ステータスバー部分にフィルター補正 () が表示されます。
3. フィルター選択なし
ステータスバー部分からフィルター補正 () が消えます。

ご注意




入射と反射および定常光/フラッシュ光は、一律に補正されますのでご注意ください。

ご参考

- プラス補正の場合は、撮影したときに露出アンダーになります。マイナス補正の場合は、撮影したときに露出オーバーになります。
- ご使用となるフィルターの補正をおこなう場合はマイナスのフィルター補正値を入力してください。フィルター補正値設定はあらかじめ搭載されているフィルター名についても変更することができます。(最大30個まで登録できます。)

ご参考

ファンクションボタン1または2でフィルター補正 ON/OFF を選択した場合。(▶ P163)

ボタン	説明
	フィルター補正が設定されていないときに表示されます。
	フィルター補正が解除されているときに表示されます。
	フィルター補正が設定されているときに表示されます。

6-4-1 補正值ダイレクト入力

フィルター補正値を直接数値で入力します。
± 20.0EV の範囲で、0.1EV ステップで設定できます。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [フィルター補正] ボタンをタッチします。
フィルター補正画面が表示されます。
3. [補正值ダイレクト入力] のラジオボタンまたは項目名称の周辺をタッチします。
フィルター補正画面が表示されます。




4. フィルター補正值ダイレクト入力画面で、補正值を入力します。（入力方法は、➡P11）

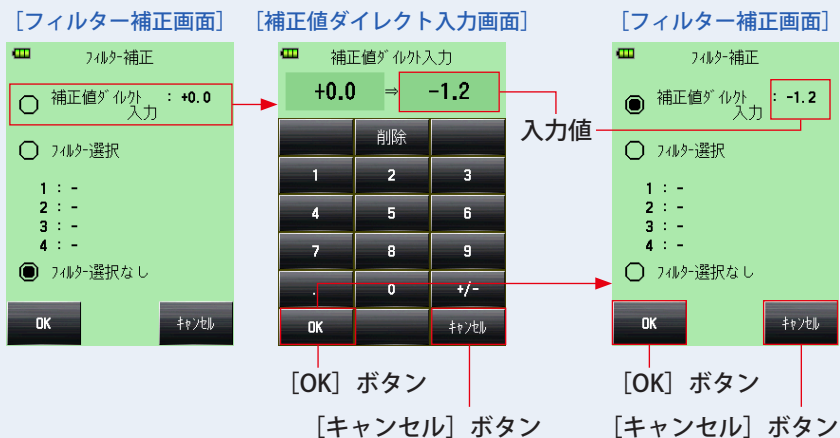
5. [OK] ボタンをタッチします。

内容が確定され、フィルター補正画面に戻り、入力したフィルター補正值が表示されます。

内容を変更せず、フィルター補正画面に戻る場合は [キャンセル] ボタンをタッチします。

6. フィルター補正画面で、[OK] ボタンをタッチします。


内容が確定され測定画面に戻り、フィルター補正アイコン () と補正值がステータスバー部分に表示されます。



6-4-2 フィルターの選択

あらかじめ登録されているフィルター名 (▶ P204) を 4 つまで同時に使用・選択できます。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [フィルター補正] ボタンをタッチします。
フィルター補正画面が表示されます。
3. [フィルター選択] のラジオボタンまたは項目名称の周辺をタッチします。
フィルター選択画面が表示されます。



4. フィルター選択画面の中から設定したい [フィルター名] ボタンをタッチします。

選択可能なフィルター名が表示されます。

複数のページの場合、[次ページ] アイコン (▼) を押して表示させます。(→P204)

5. フィルター選択画面でラジオボタンをタッチして、ご使用になるフィルターを選択します。

選択したフィルターが設定され、フィルター選択画面に戻ります。



6. 手順 4. ～ 5. を繰り返し、フィルターを設定します。

設定したフィルターすべてが補正の対象となります。設定可能なフィルターは 4 種類です。

ご参考

- 登録するフィルターは、同じ種類のフィルターを重複して選択することもできます。
- 選択されているフィルターを解除したい場合は「フィルター選択なし」を選んでください。


7. [閉じる] ボタンをタッチします。

フィルター補正画面に戻ります。

8. 選択したフィルター名が表示されたことを確認します。

選択したフィルター名が設定されたかを確認してください。

9. フィルター補正画面で、[OK] ボタンをタッチします。

内容が確定され測定画面に戻り、フィルター補正アイコン () と補正值がステータスバー部分に表示されます。



ご参考

- 工場出荷設定時にあらかじめ登録されているフィルターは「9-6 フィルター名・補正值」を参照してください。(▶P204)
- フィルター補正值設定はあらかじめ搭載されているフィルター名についても変更できます。(最大 30 個まで登録できます。)

6-4-3 フィルター補正のユーザー設定

あらかじめ登録されているフィルター補正に加えて、最大 30 個までユーザーによるフィルター補正を登録できます。登録したフィルター名や補正量は自由に編集できます。

[メニュー画面] 1 ページ



フィルター登録/編集

[フィルター登録/編集] 1 ページ



次ページへ

[フィルター登録/編集] 2 ページ



次ページへ

[フィルター登録/編集] 3 ページ



次ページへ

[フィルター登録/編集] 4 ページ



次ページへ

[フィルター登録/編集] 5 ページ

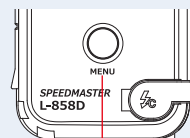


前ページへ [閉じる] ボタン

操作

1. 本機のメニューボタン⑨を押します。

メニュー画面が表示されます。



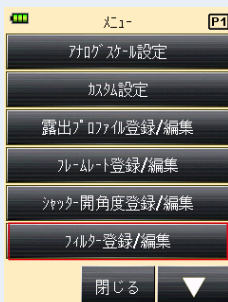
メニューボタン⑨

2. [フィルター登録/編集] ボタンをタッチします。

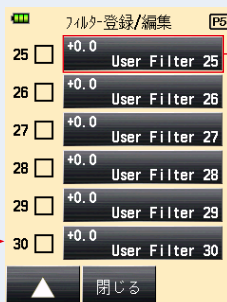
フィルター登録/編集画面が表示されます。

3. 登録・編集したい [フィルター名] ボタンをタッチします。

フィルター編集画面が表示されます。

[メニュー画面]
1 ページ

[フィルター登録/編集画面]



[フィルター編集画面]



4. フィルター編集画面の [フィルター名] ボタンをタッチします。

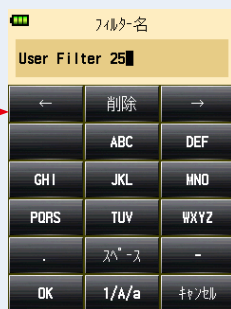
フィルター名画面が表示されます。

[フィルター編集画面]



[フィルター名] ボタン

[フィルター名画面]



5. フィルター名を入力します。(⇒P12)

フィルター名を変更できます。フィルター名は最大 31 文字です。

6. [OK] ボタンをタッチします。

フィルター編集画面に戻ります。

修正を行わない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



7. フィルター編集 [フィルター補正量] ボタンをタッチします。

フィルター補正量入力画面が表示されます。



8. フィルター補正量を入力します。(⇒ P11)

フィルター補正值の入力範囲は、± 20.0EV の範囲で、0.1 ステップで設定可能です。

9. [OK] ボタンをタッチします。

フィルター編集画面に戻ります。

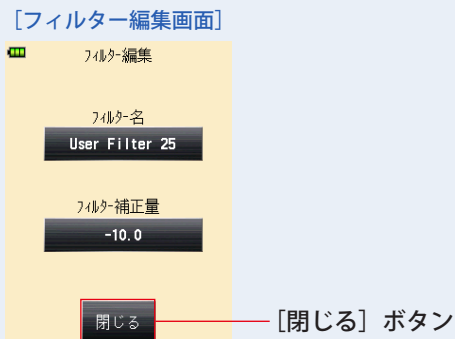
修正を行わない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



プラス補正の場合は、撮影したときに露出アンダーになります。マイナス補正の場合は、撮影したときに露出オーバーになります。

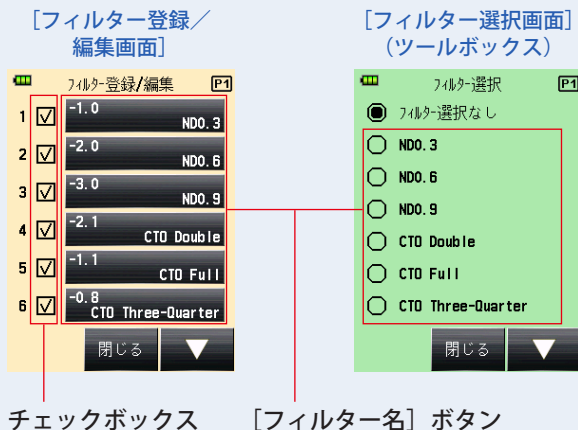
10. フィルター編集画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

フィルター登録/編集画面に戻ります。



11. ご使用になるフィルター名のチェックボックスをタッチします。

チェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。チェックしたフィルター名がツールボックスのフィルター選択画面に反映されます。(➡P133)
 チェックマーク (□) を外すと選択が解除されます。

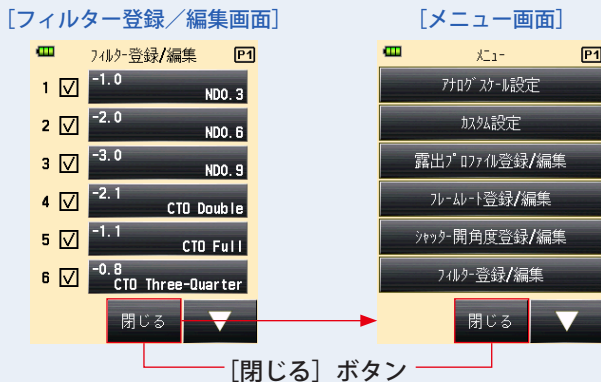


12. フィルター登録/編集画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

13. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



ご参考

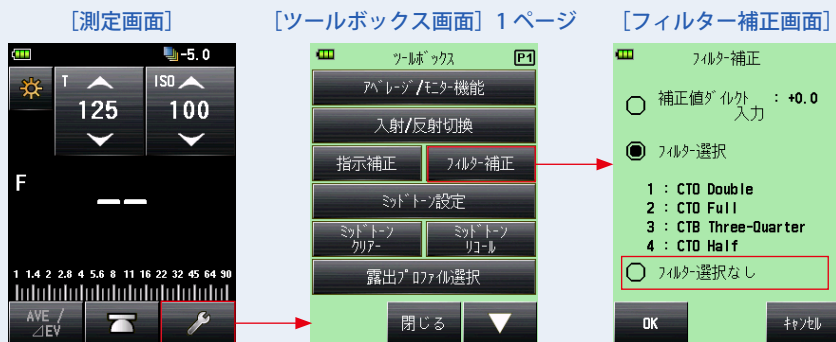
- フィルター補正 No.1 ~ 24 まではプリセットされています。(➡P204)
- フィルター補正 No.25 ~ 30 にユーザー設定の追加が可能です。No.1 ~ 24 にも編集ができます。

6-4-4 フィルター選択の解除

「フィルター選択なし」を選択した場合は、一時的に補正が解除されます。

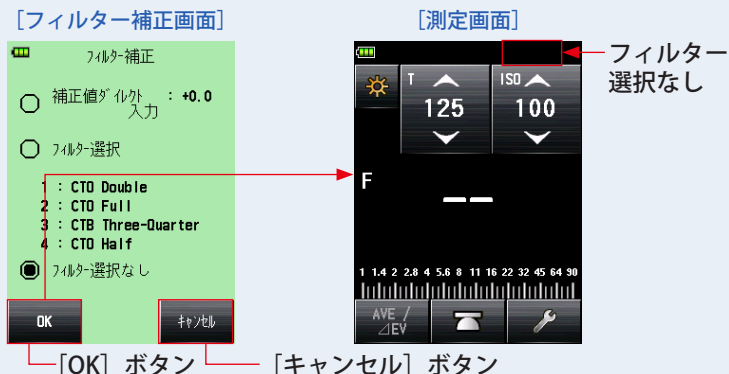
操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [フィルター補正] ボタンをタッチします。
フィルター補正画面が表示されます。
3. [フィルター選択なし] のラジオボタンまたは項目名称の周辺をタッチします。
フィルター選択なしが選択設定されます。



4. フィルター補正画面で [OK] ボタンをタッチします。

フィルター補正が解除され、測定画面に戻りステータスバーのフィルター補正のアイコン表示が消えます。



6-5 ミッドトーン (MID.TONE) 機能

カメラ露出プロファイル機能を使用する際、基準となる中間濃度を設定するための機能です。




以下の4つの機能があります。

設定名	説明
測定値を設定	測定値をミッドトーンとして設定します。
メモリー値を設定	メモリーされている測定値（最大9つ）から選択してミッドトーンとして設定します。
ミッドトーン編集	一度設定されたミッドトーンを修正します。
ミッドトーンリコール	ミッドトーンリコール画面でミッドトーンの値を確認できます。



ご参考

ファンクションボタン1または2でミッドトーン ON/OFF を選択した場合。(▶P163)

ボタン	説明
	測定値のないときに表示されます。
	ミッドトーン設定を解除したときに表示されます。
	ミッドトーン設定をしているときに表示されます。

6-5-1 ミッドトーン (MID.TONE) の設定


1) 測定値を設定

測定値をミッドトーンとして設定します。

操作

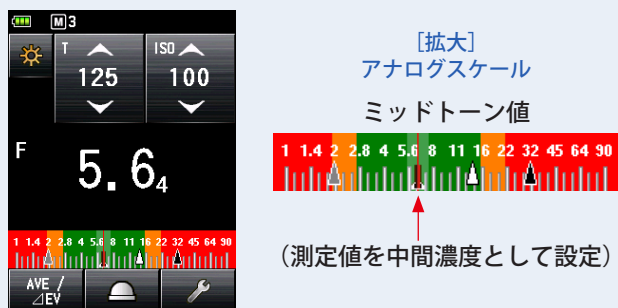
1. 測定ボタン⑥を押します。

測定を行います。

2. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
3. ツールボックス画面の [ミッドトーン設定] ボタンをタッチします。
ミッドトーン設定画面が表示されます。
4. ミッドトーン設定画面の [測定値を設定] ボタンをタッチします。
現在の測定値をミッドトーンとして設定し、測定画面に戻ります。この時アナログスケールには新たに設定されたミッドトーンが表示されます。






[測定画面 (MID.TONE 設定)]



2) メモリー値を設定

メモリーされている測定値をミッドトーンとして設定します。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックス画面の [ミッドトーン設定] ボタンをタッチします。
ミッドトーン設定画面が表示されます。
3. ミッドトーン設定画面の [メモリー値を設定] ボタンをタッチします。
ミッドトーン選択 (メモリー値) 画面が表示され、メモリー内容 (メモリー番号、入射光 () / 反射光 ()、測定値) が示されます。アナログスケールにはメモリーされた測定値がドット表示されます。
4. ミッドトーンとして設定するメモリーされた測定値ボタンをタッチします。
タッチしたメモリー値が設定され、測定画面に戻ります。この時アナログスケールには新たに設定されたミッドトーンが表示されます。



3) ミッドトーンの編集

現在設定されているミッドトーンの値を微調整できます。

操作

1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックス画面の [ミッドトーン設定] ボタンにタッチします。
ミッドトーン設定画面が表示されます。
3. ミッドトーン設定画面の [ミッドトーン編集] ボタンをタッチします。
ミッドトーン編集画面が表示されます。



4. ミッドトーン編集画面で矢印アイコン (▲、▼) にタッチするか数値部をスライドします。

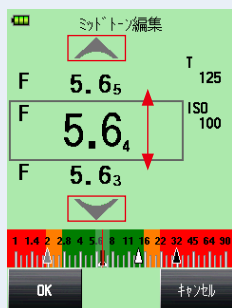
設定したいミッドトーン値を選択します。

5. [OK] ボタンをタッチします。

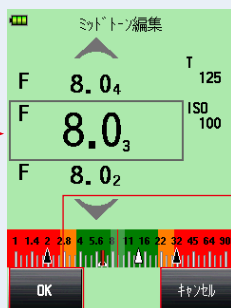
修正内容を確認して測定画面に戻ります。

修正をしない場合は [キャンセル] ボタンをタッチして測定画面に戻ります。

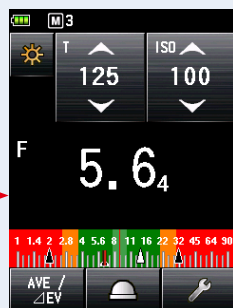
[ミッドトーン編集画面]



[ミッドトーン編集画面]



[測定画面]



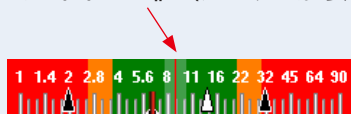
[OK] ボタン

[キャンセル] ボタン

[拡大]

アナログスケール

ミッドトーン値 (メモリーから選択編集後)



(メモリーからミッドトーンを選択) この時アナログスケールには新たに設定されたミッドトーンが表示されます。




ご注意

ミッドトーンの設定がない場合は、修正できません。

6-5-2 ミッドトーンリコール

設定されているミッドトーンを表示するための呼出し機能です。

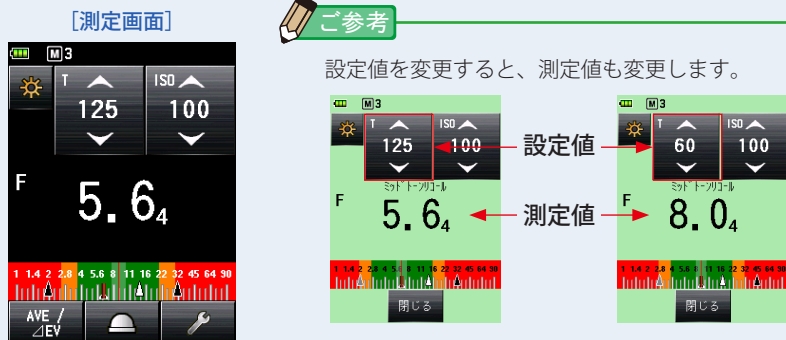
操作

1. ミッドトーン設定されている測定画面の [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [ミッドトーンリコール] ボタンをタッチします。
測定画面に現在のミッドトーン設定内容が表示されます。
3. [閉じる] ボタンをタッチします。
測定画面に戻ります。



ご参考


設定値を変更すると、測定値も変更します。



6-5-3 ミッドトーンクリアー

設定されているミッドトーンをクリアーします。

操作

1. ミッドトーン設定されている測定画面の [ツールボックス] アイコン () をタッチします。

ツールボックス画面が表示されます。

2. ツールボックス画面の [ミッドトーンクリアー] ボタンをタッチします。

ミッドトーンクリアー画面になり、『ミッドトーン値がクリアーされます。よろしいですか。』と表示されます。

3. [OK] ボタンをタッチします。

ミッドトーン値をクリアーし、ミッドトーン値表示のアナログスケールがクリアーされ測定画面に戻ります。

ミッドトーン値をクリアーしない場合は、[キャンセル] ボタンをタッチします。



6-6 露出プロファイル機能

6-6-1 露出プロファイルの概要

(1) カメラ露出プロファイルとは

1. デジタルカメラが持つ固有の再現領域や許容範囲を露出計で表示します。

• デジタルカメラ固有のセンサー特性を露出計に転送させる

デジタルカメラによって再現領域、許容範囲が異なるため、撮影の際にはシャドー部、ハイライト部の再現性やディテールに細心の注意が必要です。Data Transfer Software でカメラ露出プロファイルを作成し、露出計へ転送させ、デジタルカメラ固有のセンサー特性を露出計本体の液晶画面で再現領域、許容範囲として表示することが可能となり、露出測定の際に被写体が露光域におさまるか液晶表示下部のスケールにて瞬時に確認ができます。

2. 露出計でよりシビアな露出値を表示させるため、カメラやレンズのシャッター速度、絞り値など固有のバラツキを記憶し露出表示に反映させます。

• カメラと露出計表示を一致させることで、よりシビアな露出を実現。

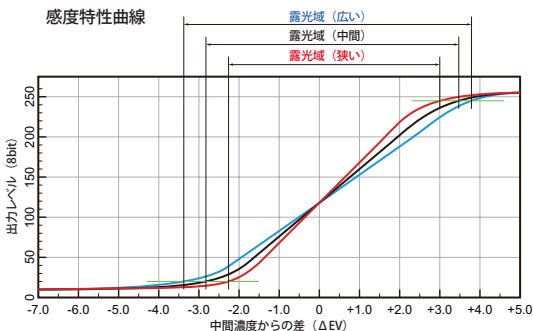
露出計で測定した露出値をカメラにセットしても、カメラ、レンズのシャッター速度と絞りのバラツキにより、標準露出を得られない場合があります。この場合、Data Transfer Software を使用して標準露出を得られるように、露出計側で表示補正を行い、露出計とカメラのバラツキを合わせ込みができます。

※ この機能は測定結果を一律に補正する指示補正機能に比べて使用する機材の特性を踏まえた、よりシビアな補正を実現します。

(2) Data Transfer Software の主な機能

カメラ露出プロファイルの作成・編集、露出計の設定（カスタム設定やユーザー設定など）の編集、露出計のファームウェアのアップデート、及び露出計本体へカメラ露出プロファイル転送や、各種設定を行うためのアプリケーションソフトです。

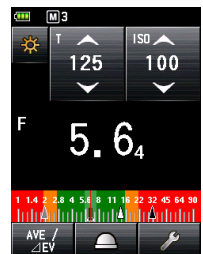
感度特性曲線



露出プロファイル
ターゲット II




[測定画面
(MID.TONE 設定)]



詳細は、Data Transfer Software のソフトウェアガイドを参照ください。（ホームページからダウンロードできます）

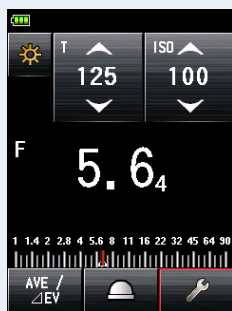
6-6-2 露出プロファイルの選択

操作

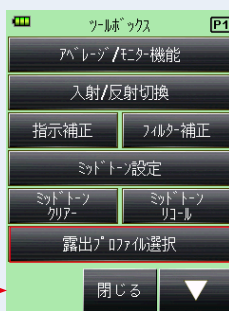
1. 測定画面で [ツールボックス] アイコン () をタッチします。
ツールボックス画面が表示されます。
2. ツールボックスの [露出プロファイル選択] ボタンをタッチします。
プロフィール選択画面が表示されます。

[測定画面]


[ツールボックス画面] 1 ページ



[ツールボックス] アイコン

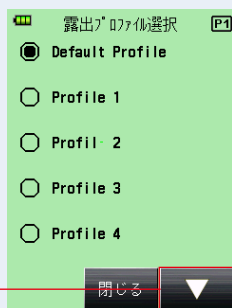


3. 露出プロファイル名をタッチして選択します。

露出プロファイル名をタッチして選択します。選択後は測定画面に戻りプロフィールアイコン () がステータスバー部分に表示されます。

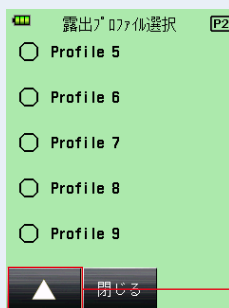
[露出プロファイル選択画面]

1 ページ



次ページへ

2 ページ



前ページへ



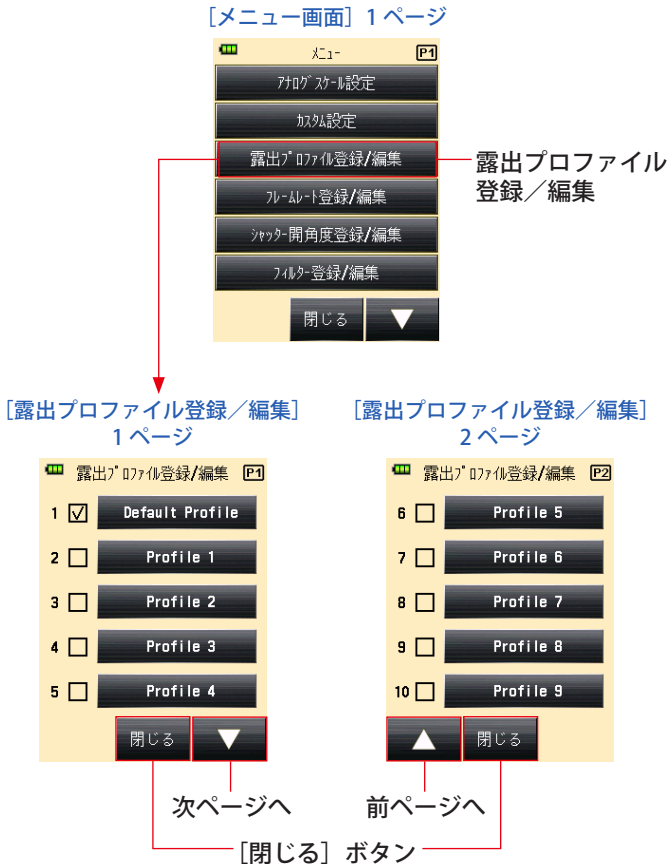
ご注意

露出プロファイル登録でチェックボックスに を入れた項目が表示されます。(▶ P151)

6-6-3 露出プロフィール登録／編集

ツールボックスの「露出プロフィール選択」画面のリストに表示・非表示を設定することができます。

また、Data Transfer Software で作成した露出プロフィールを、本機側で編集（設定値、名称）を行う場合や、本機単独で露出プロフィールを作成することもできます。（本体に保存できる露出プロフィール数は、最大 10 件です。）

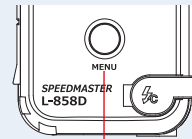


1) 露出プロフィール選択画面（ツールボックス）への表示・非表示

操作

1. 本機のメニューボタン⑨を押します。

メニュー画面が表示されます。

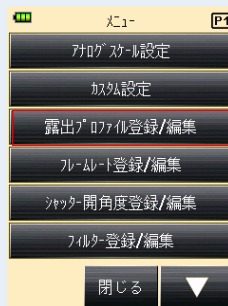


メニューボタン⑨

2. [露出プロフィール登録／編集] ボタンをタッチします。

露出プロフィール登録／編集画面が表示されます。

[メニュー画面] 1 ページ

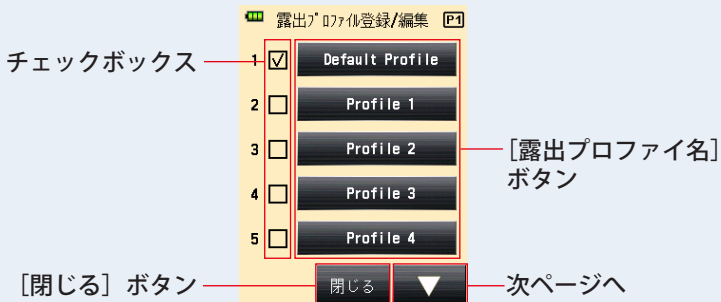


3. ご使用になる露出プロフィール名のチェックボックスをタッチします。

チェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。チェック項目が露出プロフィール選択の選択肢として画面に表示 (登録) できます。チェックマーク (□) を外すと露出プロフィール選択の選択肢は使用できない状態となり、画面表示されません。

※ 初期設定では「Default Profile」にのみチェックボックス (☑) が付いています。

[露出プロフィール登録／編集画面]



4. [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

[メニュー画面]



[閉じる] ボタン

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

2) 露出プロファイルの編集

Data Transfer Software で作成し、本体に転送した露出プロファイルを編集したり、本体に直接露出プロファイルを入力することができます。

操作

1. [露出プロファイル登録／編集] ボタンをタッチします。

露出プロファイル登録／編集画面が表示されます。

※ 露出プロファイル選択の選択肢として表示しておくにはチェックボックス (□) にタッチして✓ (チェックマーク☑) を付けます。

2. ご使用になる [露出プロファイル名] ボタンをタッチします。

露出プロファイル名編集画面が表示されます。

[露出プロファイル登録／編集画面]



3. 露出プロフィール編集の[露出プロフィール名]ボタンをタッチします。

露出プロフィール名入力画面が表示されます。

4. 名称を入力します。

露出プロフィール名画面で名称を入力します。(⇒P12)

[露出プロフィール編集画面]



[露出プロフィール名画面]



5. [OK] ボタンをタッチします。

露出プロフィール編集画面に戻り、入力したプロフィール名が表示されます。

[キャンセル] ボタンをタッチすると、露出プロフィール名を編集せずに [露出プロフィール編集画面] に戻ります。

[露出プロフィール編集画面]



6. 露出プロファイル編集画面の[露出プロファイルデータ]から受光方式・光源を示すいずれかのアイコンをタッチします。

編集画面が表示されます。

[露出プロファイル編集画面]



ご参考

	入射光式・定常光		入射光式・フラッシュ光
	反射光式・定常光		反射光式・フラッシュ光

7. 編集したい露出プロファイルデータの[ISO値]ボタンをタッチします。

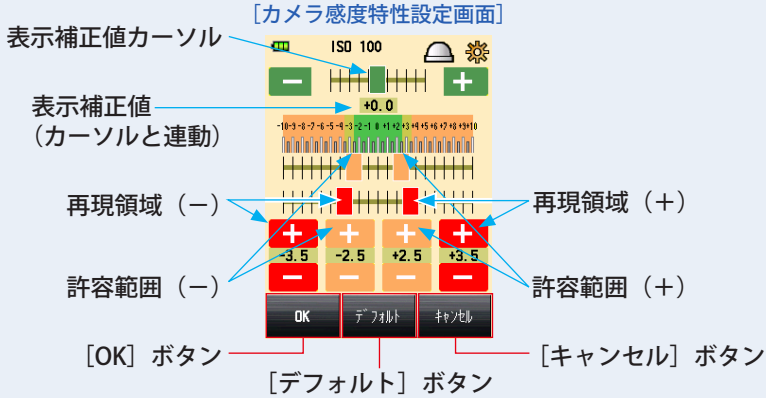
表示された編集画面で、矢印アイコン（、）にタッチするかスクロールバーを指で上下にスライドさせて、ISO値を選択します。

選択できるボタンは3個表示されています。

[編集画面]



8. カメラ感度特性を編集します。



① 表示補正值カーソル

表示補正值は± 5EV の範囲内を 0.1 ステップで設定できます。

表示補正值カーソルにタッチしながらカーソルをスライドさせて、表示補正值を設定します。

マイナス (**-**)、プラス (**+**) アイコンをタッチしても設定できます (1 クリックごとに 0.1 ステップで変更します)。

② 許容範囲／再現領域

許容範囲／再現領域は± 10EV の範囲内を 0.1 ステップで設定できます。ただし、再現領域は許容範囲を超えて設定することはできません。

許容範囲 (-) ≤ 再現領域 (-) ≤ 再現領域 (+) ≤ 許容範囲 (+)

それぞれのカーソルにタッチしながらカーソルをスライドさせて、許容範囲 (-)、再現領域 (-)、再現領域 (+)、許容範囲 (+) を設定します。

許容範囲はマイナス (**-**)、プラス (**+**) アイコンをタッチして編集できます。

再現領域はマイナス (**-**)、プラス (**+**) アイコンをタッチして編集できます。

③ デフォルト

[デフォルト] ボタンをタッチすると、選択されている ISO のプロファイルが初期設定になります。全てのプロファイルを初期設定に戻すには、アプリケーションの「Data Transfer Software」で行なうと便利です。

9. [OK] ボタンをタッチします。

編集画面に戻ります。

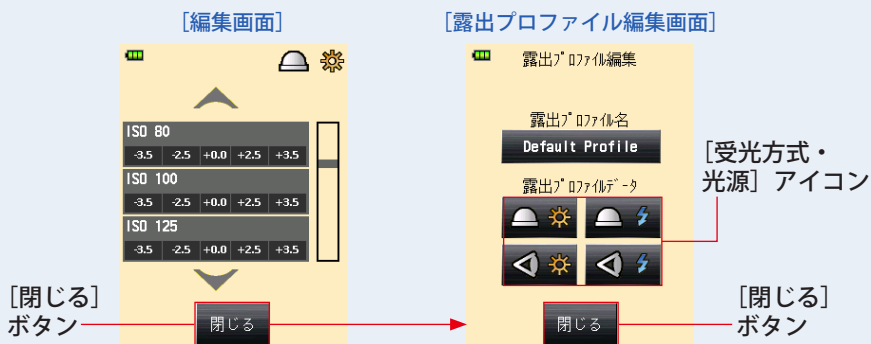
編集をしない場合は [キャンセル] ボタンにタッチします。

10. 編集画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

露出プロファイル編集選択画面に戻ります。

11. 手順 6. ～ 9. を繰り返します。

必要に応じて他の受光方式・光源の編集を行います。



12. 露出プロファイル編集画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

露出プロファイル登録／編集画面に戻ります。

13. 露出プロファイル登録／編集画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

14. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



6-7 カスタム設定

必要とする機能の選択や表示方法を目的や好みに合わせて設定できます。



*¹ カスタム設定の「電波システム選択」はトランスミッター（別売）装着時に表示します。

※ 本体の設定または別売アクセサリの装着などにより画面の表示内容は異なります。

6-7-1 カスタム設定一覧

設定番号	カスタム設定名	項目						出荷時
1	ファンクションボタン-1	アベレージ ／モニター ON / OFF	受光方式 設定	指示補正 ON / OFF	フィルター 補正 ON / OFF	ミッド トーン ON / OFF	全メモリー ／積算クリ アア	アベレージ ／モニター ON / OFF
2	ファンクションボタン-2	アベレージ ／モニター ON / OFF	受光方式 設定	指示補正 ON / OFF	フィルター 補正 ON / OFF	ミッド トーン ON / OFF	全メモリー クリアア ／積算クリ アア	受光方式 設定
3	表示ステップ	1ステップ *1	1/3 (0.3) ステップ	1/2 (0.5) ステップ	—	—	—	1ステップ *1
4	端数表示*2	ON	OFF	—	—	—	—	ON
5	指示補正値の 反映方法	光量 (+は明るい、 -は暗い)	露出値 (+は暗い、 -は明るい)	—	—	—	—	光量 (+は明るい、 -は暗い)
6	測定ボタン、 メモリーボタン の切換え*3	標準 (左:メモ リーボタ ン／右:測 定ボタ ン)	反対 (左:測定 ボタン／右: メモリーボ タン)	自動切換え (入射:標 準、反射: 反対)*3	—	—	—	標準 (左:メモ リーボタ ン／右:測 定ボタ ン)
7	定常光 モード*4*5	ON	OFF	—	—	—	—	ON
a)	T優先モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
b)	F優先モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
c)	TF優先モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
d)	HDシネカメラ モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
e)	シネカメラ モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
f)	照度／輝度 モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
8	フラッシュ光 モード*4*5	ON	OFF	—	—	—	—	ON
a)	コードレス モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
b)	コード接続 モード*4	ON	OFF	—	—	—	—	ON
c)	電波トリガー モード*4*7	ON	OFF	—	—	—	—	ON
d)	積算モード*4*6	ON	OFF	—	—	—	—	ON

設定番号	カスタム設定名	項目						出荷時
9	HSSフラッシュモード* ⁵	ON	OFF	—	—	—	—	ON
a)	コードレスモード* ⁴	ON	OFF	—	—	—	—	ON
b)	電波トリガーモード* ⁴ * ⁷	ON	OFF	—	—	—	—	ON
10	フラッシュ光解析モード* ⁵	ON	OFF	—	—	—	—	ON
a)	コードレスモード* ⁴	ON	OFF	—	—	—	—	ON
b)	コード接続モード* ⁴	ON	OFF	—	—	—	—	ON
c)	電波トリガーモード* ⁴ * ⁷	ON	OFF	—	—	—	—	ON
11	追加データ表示	無し	EV 値	照度/輝度	—	—	—	無し
12	画面の配色	ブラック	ホワイト	ピンク	ブルー	—	—	ブラック
13	オートパワーオフ時間	5分	10分	20分	オートパワーオフしない	—	—	5分
14	液晶バックライトの明るさ	明	中	暗	—	—	—	明
15	液晶バックライト減灯時間	20秒	40秒	60秒	減灯しない	—	—	20秒
16	メモリーボタン	ON	OFF	—	—	—	—	ON
17	電波システム選択* ⁷	Elinchrom : EL-skyport Normal	Elinchrom : EL-skyport Speed	Phottix : Strato II	—	—	—	Elinchrom : EL-skyport Normal
18	カスタム設定値のリセット* ⁸	[はい] または [いいえ] を選択してリセットの実施あるいは未実施を行なってください。						—

*¹ すべてのモードで端数が 1/10 ステップで表示されます。

*² 表示ステップが 1/3 段と 1/2 段のときのみ端数の ON / OFF が有効になります。

*³ 自動切換え：入射光式では、測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦が標準配置となり、反射光式では自動的にボタン配置が逆になります。

*⁴ 測光モードを全て「OFF」にした時には、定常光の T 優先モードが選択されます。

*⁵ 定常光モードとフラッシュ光モードの内容を「OFF」した場合は、その下に続くアルファベットの項目は非表示になります。

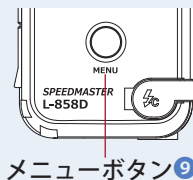
*⁶ 積算モードを「ON」にすると測定モード選択画面で、フラッシュ光コードレス積算モード/フラッシュ光コード接続積算モード/フラッシュ光電波トリガー積算モードが設定可能になります。

- ⁷ トランスミッター（別売）装着時に表示します。装着するトランスミッターにより内容内容は異なります。詳細はトランスミッターの使用説明書を参照してください。
- ⁸ カスタム設定の全ての項目を、出荷時の設定に戻します。

6-7-2 カスタム設定の方法

操作

1. 本機のメニューボタン⁹を押します。
メニュー画面が表示されます。
2. [カスタム設定] ボタンをタッチします。
カスタム設定メニュー画面が表示されます。



[メニュー画面] 1 ページ



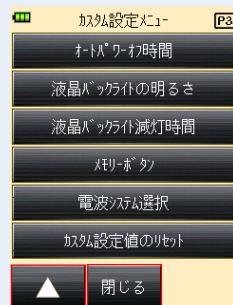
[カスタム設定メニュー] 1 ページ



[カスタム設定メニュー] 2 ページ



[カスタム設定メニュー] 3 ページ



3. ご使用になる項目が表示されたページを選択します。

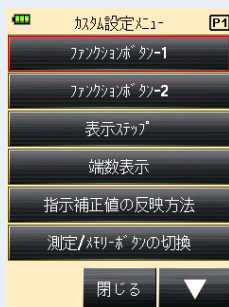
次ページ/前ページアイコン (▼/▲) にタッチしてご使用になるページを表示します。

4. ご使用になる項目名ボタンをタッチします。

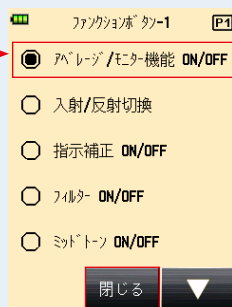
設定画面が表示されます。設定したい項目のラジオボタンを選択します。

[閉じる] ボタンをタッチするとメニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー]
1 ページ



[ファンクションボタン-1
画面]

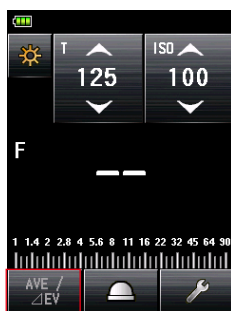


[閉じる] ボタン

1) ファンクションボタン-1 の設定

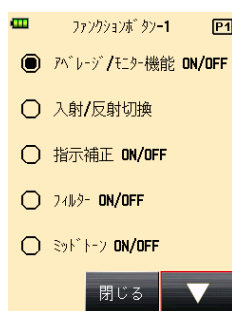
測定画面のファンクションボタン-1 の機能を変更します。

[測定画面]



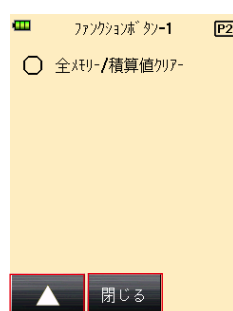
ファンクションボタン-1

[ファンクションボタン-1 画面]
1 ページ



次ページへ

[ファンクションボタン-1 画面]
2 ページ



前ページへ

[閉じる] ボタン

操作

1. カスタム設定メニュー画面 1 ページの [ファンクションボタン -1] ボタンをタッチします。

ファンクションボタン -1 画面が表示されます。

2. ご使用になる項目をタッチします。

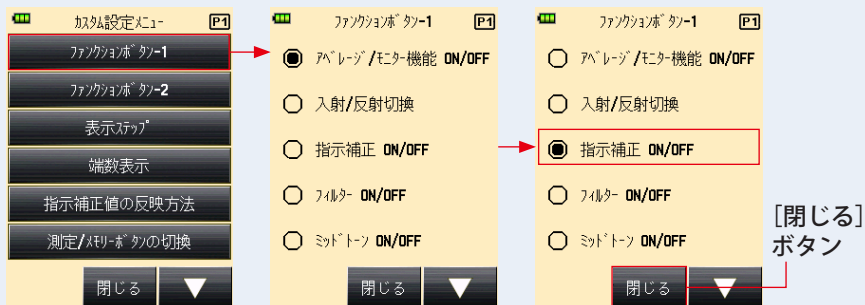
ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]

[ファンクションボタン -1 画面] 1 ページ



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

選択した項目 (指示補正 ON/OFF) がファンクションボタン -1 に設定されました。

[カスタム設定メニュー画面]

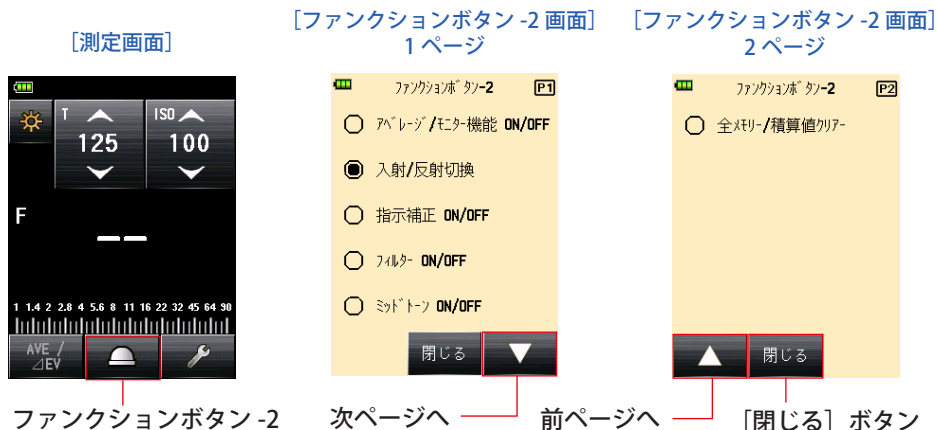
[メニュー画面]

[測定画面]



2) ファンクションボタン -2 の設定

測定画面のファンクションボタン-2の機能を変更します。
項目はファンクションボタン-1と共通です。



操作

1. カスタム設定メニュー画面1ページの [ファンクションボタン-2] ボタンをタッチします。

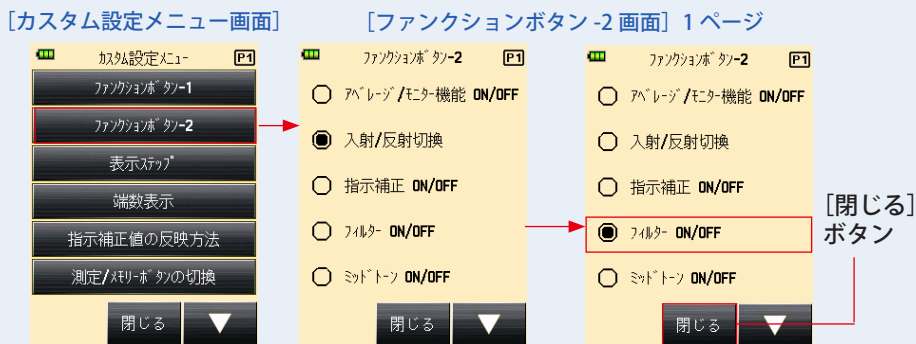
ファンクションボタン-2画面が表示されます。

2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

選択した項目（フィルター ON/OFF）がファンクションボタン-2 に設定されました。

[カスタム設定メニュー画面]



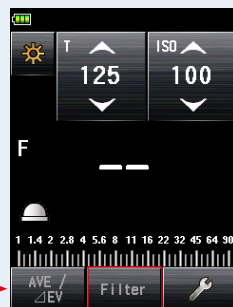
[閉じる] ボタン

[メニュー画面]



[閉じる] ボタン

[測定画面]



ファンクションボタン-2

3) 表示ステップの設定

シャッター速度と絞り値の表示ステップを変更します。表示ステップについては「9. 各種設定値」を参照してください。(➡P202)

操作

1. カスタム設定メニュー画面 1 ページの [表示ステップ] ボタンをタッチします。

表示ステップ画面が表示されます。

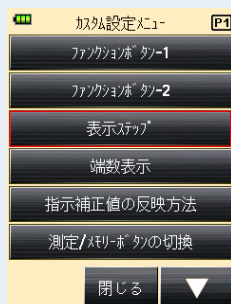
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

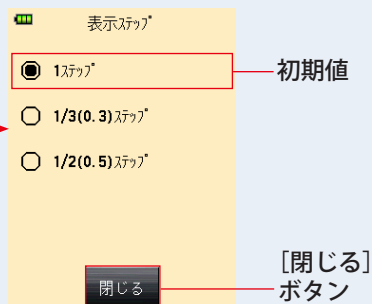
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[表示ステップ画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



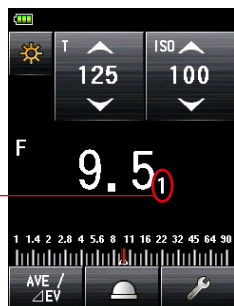
[メニュー画面]



4) 端数表示の設定

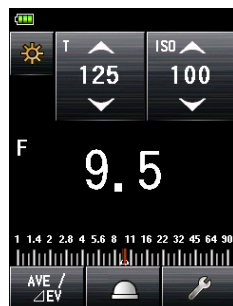
測定値の 1/10 ステップ端数の表示 / 非表示を設定します。非表示は表示ステップが 1/3、1/2 選択時のみ有効となります。

【測定画面】
1/3 ステップ端数表示 ON



1/10 ステップ
の端数

【測定画面】
1/3 ステップ端数表示 OFF



【ファインダー内表示】



【ファインダー内表示】



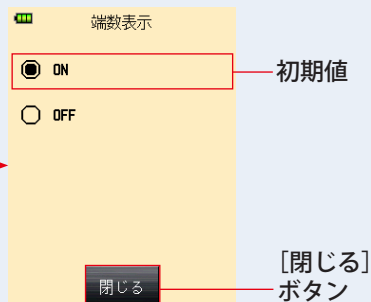
操作

1. カスタム設定メニュー画面 1 ページの [端数表示] ボタンをタッチします。
端数表示画面が表示されます。
2. ご使用になる項目をタッチします。
ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして項目を選択します。
3. [閉じる] ボタンをタッチします。
カスタム設定メニュー画面に戻ります。

【カスタム設定メニュー画面】



【端数表示画面】



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。
メニュー画面に戻ります。
5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。
測定画面に戻り、測定画面に反映されます。



5) 指示補正値の反映方法

指示補正値の機能を設定します。

操作

1. カスタム設定メニュー画面 1 ページの [指示補正値の反映方法] ボタンをタッチします。
指示補正値の反映方法画面が表示されます。
2. ご使用になる項目をタッチします。
ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして項目を選択します。

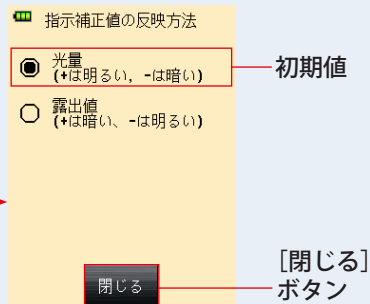
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[指示補正値の反映方法画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[メニュー画面]



ご参考

光量 : +は露出が多く(明るく)なるよう補正します。 -は露出が少なく(暗く)なるよう補正します。

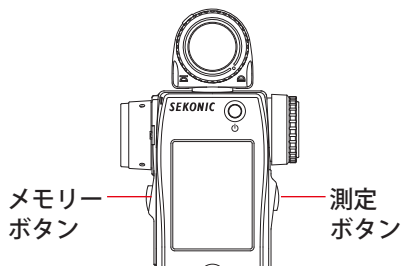
露出値 : +は測定値が大きく(露出が少なく=暗く)なるよう補正します。 -は測定値が小さく(露出が多く=明るく)なるよう補正します。

6) 測定ボタン⑥とメモリーボタン⑦の切換え設定

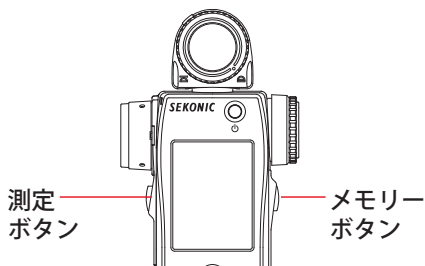
入射光方式と反射光方式でボタン機能を入換えることにより操作性を改善します。

ご参考

- 標準：入射光方式の測定に使用します。



- 反転：反射光方式の測定に使用します。



- 自動切換え：入射光方式を選択した場合には「標準」、反射光方式を選択した場合には「反転」に切り替わります。

測定ボタンとメモリーボタンの位置は、カスタム設定変更直後と電源 ON 直後に測定画面で 2 秒間表示されます。

操作

1. カスタム設定メニュー画面 1 ページの [測定／メモリーボタンの切換] ボタンをタッチします。

測定／メモリーボタンの切換画面が表示されます。

2. ご使用になる項目をタッチします。

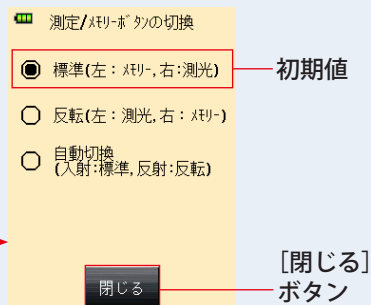
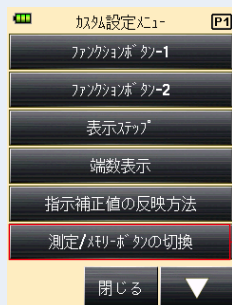
ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして項目を選択します。

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]

[測定／メモリーボタンの切換画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]

[メニュー画面]

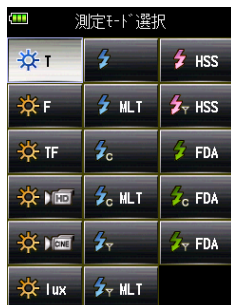


7) 定常光モードの設定

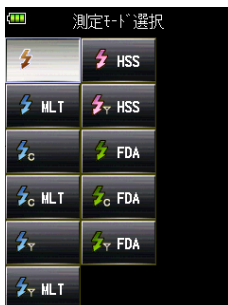
測定モード選択画面に表示させる測定モードを選択できます。

定常光モードすべての一括 ON/OFF またはご使用となる各測定モードの個別 ON/OFF を設定できます。

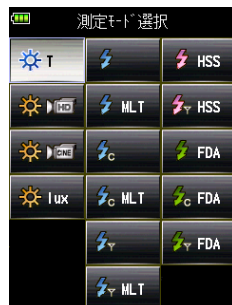
[測定モード選択画面]
初期設定 (全て ON)



[測定モード選択画面]
定常光モード全て OFF



[測定モード選択画面]
定常光各モード個別 OFF



操作

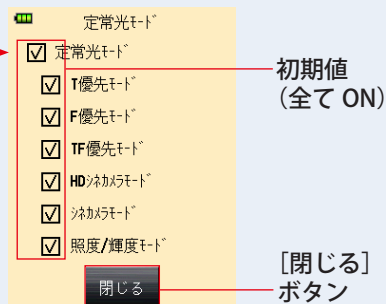
1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [定常光モード] ボタンをタッチします。

定常光測定モード画面が表示されます。

[カスタム設定メニュー画面]



[定常光モード画面]

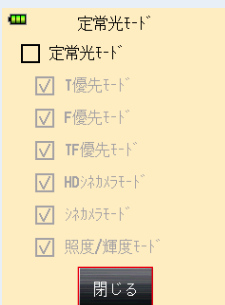


2. 表示を ON または OFF させたい測定モードのチェックボックスをタッチします。

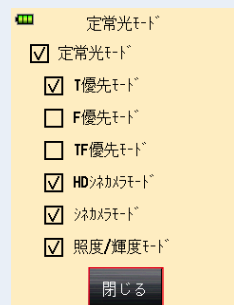
表示を ON するにはチェックボックスのチェックがついた状態に (☑)、表示を OFF するにはチェックが外れた状態に (☐) します。

「定常光モード」のチェックを外すと、全ての定常光モードが一括で表示 OFF となり、その下の各測定モードの選択はできません。各測定モードを個別に表示 ON/OFF するには、「定常光モード」のチェックをつけたまま、下の各モードを選択してください。

[測定モード画面]
定常光モード一括 OFF



[測定モード選択画面]
定常光各モード個別 OFF



[閉じる] ボタン

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[閉じる]
ボタン

[メニュー画面]



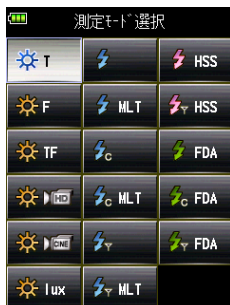
[閉じる]
ボタン

8) フラッシュ光モードの設定

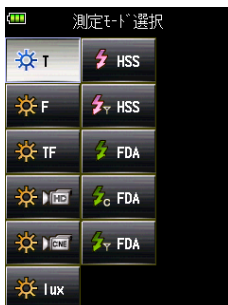
測定モード選択画面に表示させる測定モードを選択できます。

フラッシュ光モードすべての一括 ON/OFF またはご使用となる各測定モードの個別 ON/OFF を設定できます。

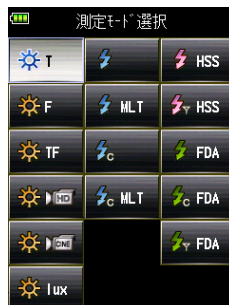
[測定モード選択画面]
初期設定 (全て ON)



[測定モード選択画面]
フラッシュ光モード全て OFF



[測定モード選択画面]
フラッシュ光各モード個別 OFF



操作

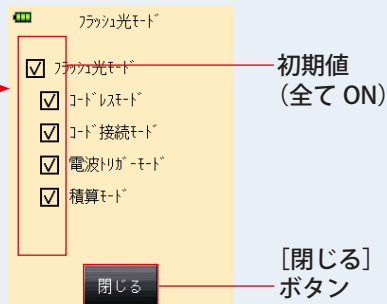
1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [フラッシュ光モード] ボタンをタッチします。

フラッシュ光モード画面が表示されます。

[カスタム設定メニュー画面]



[フラッシュ光モード画面]

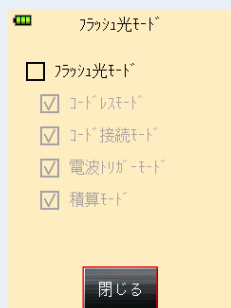


2. 表示を ON または OFF させたい測定モードのチェックボックスをタッチします。

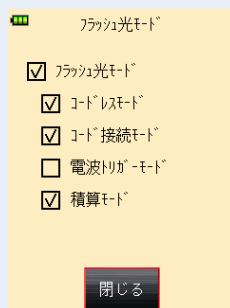
表示を ON するにはチェックボックスのチェックがついた状態に (☑)、表示を OFF するにはチェックが外れた状態に (☐) します。

「フラッシュ光モード」のチェックを外すと、全てのフラッシュ光モードが一括で表示 OFF となり、その下の各測定モードの選択はできません。各測定モードを個別に表示 ON/OFF するには、「フラッシュ光モード」のチェックをつけたまま、下の各モードを選択してください。

〔測定モード選択画面〕
フラッシュ光モード全て OFF



〔測定モード選択画面〕
フラッシュ光各モード個別 OFF



〔閉じる〕 ボタン

3. 〔閉じる〕 ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

4. カスタム設定メニュー画面で 〔閉じる〕 ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で 〔閉じる〕 ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

〔カスタム設定メニュー画面〕



〔閉じる〕
ボタン

〔メニュー画面〕

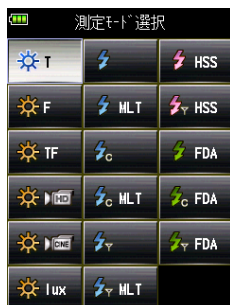


〔閉じる〕
ボタン

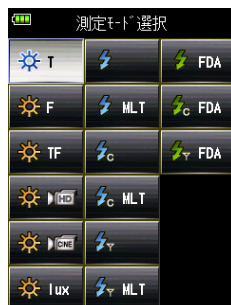
9) HSS フラッシュモードの設定

測定モード選択画面に表示させる測定モードを選択できます。
HSS（ハイスピードシンクロ）モードの ON/OFF を選択します。

[測定モード選択画面]
初期設定（全て ON）



[測定モード選択画面]
HSS フラッシュモード OFF



操作

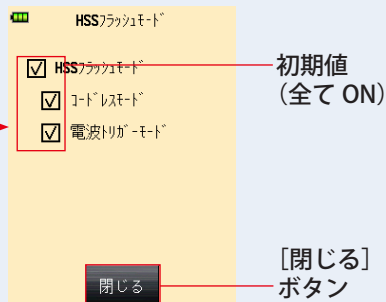
1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [HSS フラッシュモード] ボタンをタッチします。

HSS フラッシュモード画面が表示されます。

[カスタム設定メニュー画面]



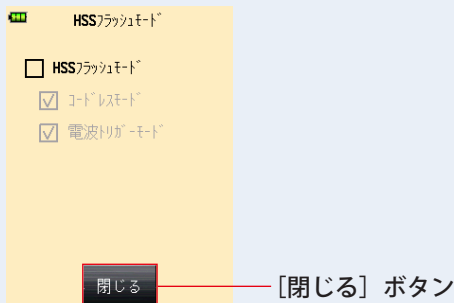
[HSS フラッシュモード画面]



2. [HSS フラッシュモード] チェックボックスをタッチします。

表示を ON にするにはチェックボックスのチェックがついた状態に (☑)、表示を OFF にするにはチェックが外れた状態に (☐) します。

[HSS フラッシュモード画面]



3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[メニュー画面]



[閉じる]
ボタン

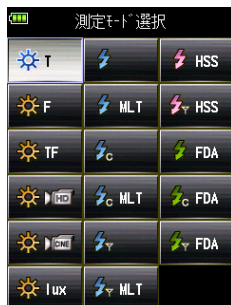
[閉じる]
ボタン

10) フラッシュ光解析モードの設定

測定モード選択画面に表示させる測定モードを選択できます。

フラッシュ光解析モードすべての一括 ON/OFF またはご使用となる各測定モードの個別 ON/OFF を設定できます。

[測定モード選択画面]
初期設定 (全て ON)



[測定モード選択画面]
フラッシュ光解析モード
全て OFF



[測定モード選択画面]
フラッシュ光解析各モード
個別 OFF



操作

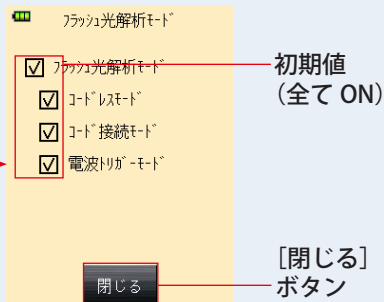
1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [フラッシュ光解析モード] ボタンをタッチします。

フラッシュ光解析モード画面が表示されます。

[カスタム設定メニュー画面]



[フラッシュ光解析モード画面]

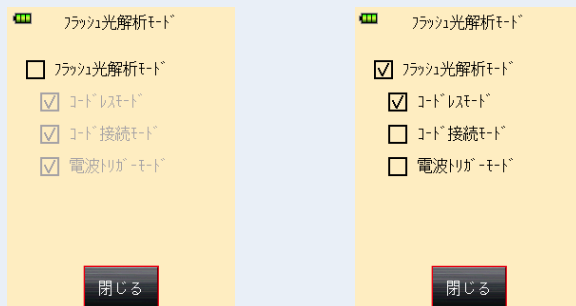


2. 表示を ON または OFF させたい測定モードのチェックボックスをタッチします。

表示を ON するにはチェックボックスのチェックがついた状態に (☑)、表示を OFF するにはチェックが外れた状態に (☐) します。

「フラッシュ光解析モード」のチェックを外すと、全てのフラッシュ光解析モードが一括で表示 OFF となり、その下の各測定モードの選択はできません。各測定モードを個別に表示 ON/OFF するには、「フラッシュ光解析モード」のチェックをつけたまま、下の各モードを選択してください。

[フラッシュ光解析モード画面]



[閉じる] ボタン

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]

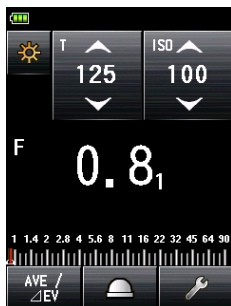
[メニュー画面]



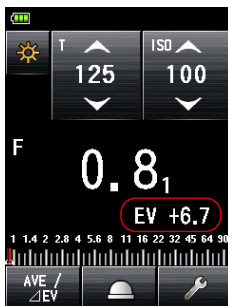
11) 追加データ表示の設定

測定値の右下に表示する追加データの表示内容を設定します。

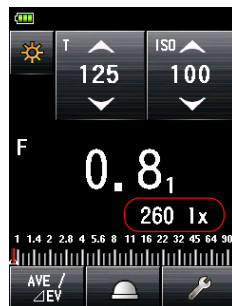
【測定画面】
初期値（追加データなし）



【測定画面】
EV 値追加データ



【測定画面】
照度/輝度追加データ



操作

1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [追加データ表示] ボタンをタッチします。

追加データ表示画面が表示されます。

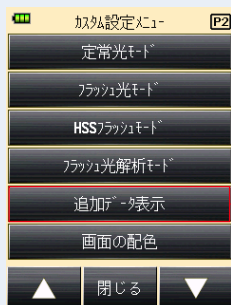
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして項目を選択します。

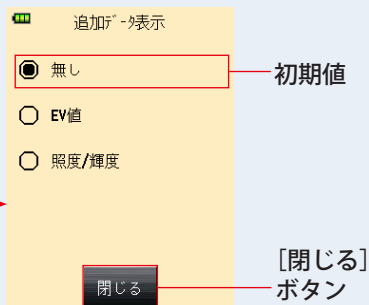
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

【カスタム設定メニュー画面】



【追加データ表示画面】



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。
メニュー画面に戻ります。
5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。
測定画面に戻り、測定画面に反映されます。



! ご注意

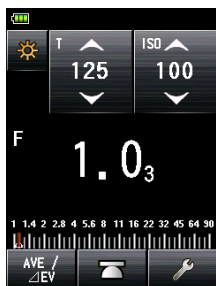
追加データは反射光式のファインダー内には表示されません。

12) 画面の配色設定

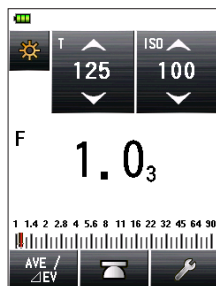
測定画面の配色を設定します。

画面の背景色をブラック、ホワイト、ピンク、ブルーから選択できます。

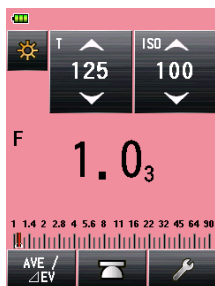
[ブラック (初期設定)]



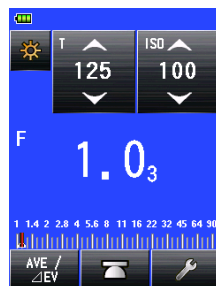
[ホワイト]



[ピンク]



[ブルー]



ご注意

反射光式のファインダー内表示の背景色は設定できません。

操作

1. カスタム設定メニュー画面 2 ページの [画面の配色] ボタンをタッチします。

画面の配色画面が表示されます。

2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

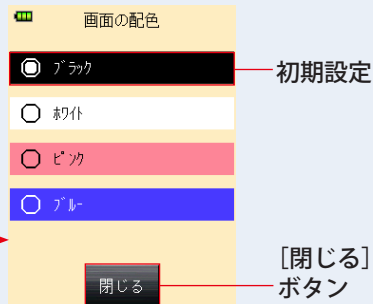
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[画面の配色画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

設定が反映され、測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[閉じる]
ボタン

[メニュー画面]



[閉じる]
ボタン

13) オートパワーオフ時間の設定

オートパワーオフ時間を設定します。

無操作状態からオートパワーオフ機能が働くまでの時間を5分、10分、20分、オートパワーオフしない、から選択できます。オートパワーオフしないに設定した場合は、電源は自動的に切れません。

操作

1. カスタム設定メニュー画面3ページの [オートパワーオフ時間] ボタンをタッチします。

オートパワーオフ時間画面が表示されます。

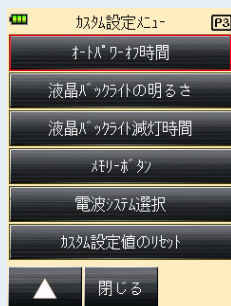
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

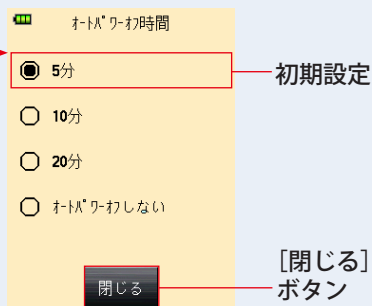
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[オートパワーオフ時間画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



14) 液晶バックライトの明るさ設定

液晶バックライトの明るさを設定します。

タッチパネルのバックライトの明るさを明、中、暗から選択できます。

初期設定は「明」になっているため、電池の消費を抑えたい場合は設定を「中」または「暗」にしてください。

操作

1. カスタム設定メニュー画面 3 ページの [液晶バックライトの明るさ] ボタンをタッチします。

液晶バックライトの明るさ画面が表示されます。

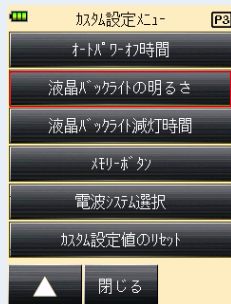
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

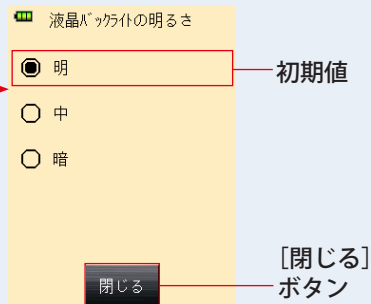
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[液晶バックライトの明るさ画面]



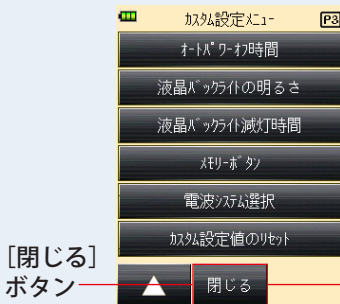
4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[メニュー画面]



15) 液晶バックライトの減灯時間設定

液晶バックライトの減灯時間を設定します。

無操作状態からバックライトを減灯するまでの時間を 20 秒、40 秒、60 秒、減灯しない、から選択できます。

操作

1. カスタム設定メニュー画面3ページの [液晶バックライト減灯時間] ボタンをタッチします。

液晶バックライト減灯時間画面が表示されます。

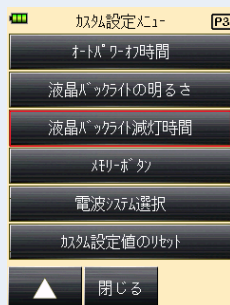
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

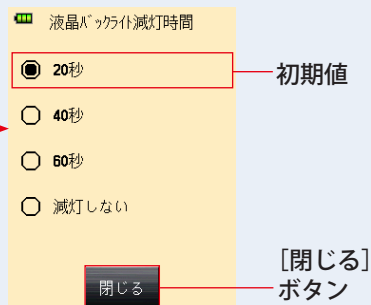
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[液晶バックライト減灯時間画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[閉じる]
ボタン


[メニュー画面]



[閉じる]
ボタン

16) メモリーボタン

メモリーボタン機能を設定します。

測定した値をメモリーする場合は ON、メモリー機能を使用しない場合は OFF に設定できます。メモリーボタンが無効な場合、ステータスバーのメモリー回数表示部に () が表示されます。(➡P43)

操作

1. カスタム設定メニュー画面 3 ページの [メモリーボタン] ボタンをタッチします。

メモリーボタン画面が表示されます。

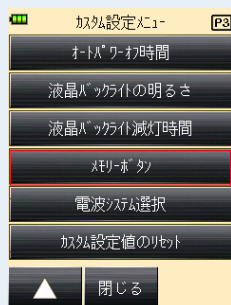
2. ご使用になる項目をタッチします。

ラジオボタンにタッチするか、項目名称の周辺をタッチして選択します。

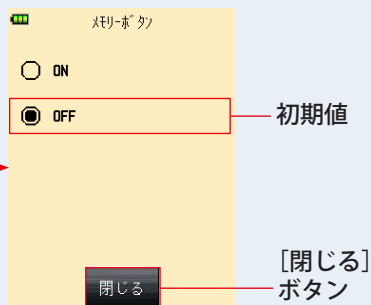
3. [閉じる] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]




[メモリーボタン画面]



4. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

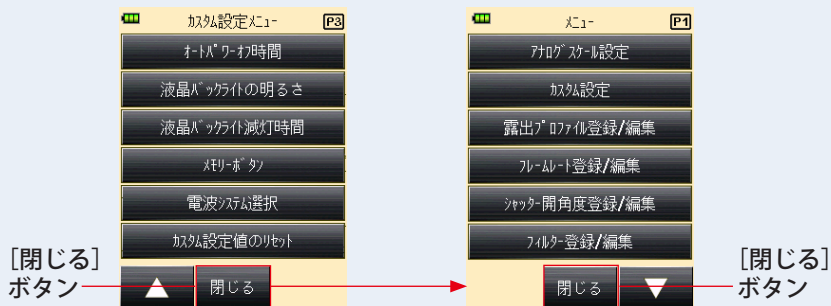
メニュー画面に戻ります。

5. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻り、ステータスバーのメモリー回数表示部にメモリーが無効であることを示す () が表示されます。(➡P43、P189)

[カスタム設定メニュー画面]

[メニュー画面]



17) 電波システム選択

フラッシュ光電波トリガーモードや、フラッシュ光解析電波トリガーモードで使う電波システムの選択をします。

このカスタム設定メニューは、トランスミッター RT-EL/PX (Elinchrom/Phottix 用・別売) を本体に装着時のみ表示します。

詳細はトランスミッター (別売) の使用説明書を参照してください。(➡P201)

[カスタム設定メニュー画面]



18) カスタム設定値のリセット

カスタム設定の各設定値を初期化します。

本体設定の「カスタム設定値」の項目のみ、初期化（リセット）します。すべての本体設定を工場出荷時の状態にするには、ハードウェア設定からおこなってください。（▶P198）

操作

1. カスタム設定メニュー画面3 ページ目の [カスタム設定値のリセット] ボタンをタッチします。

カスタム設定値のリセット画面が表示されます。

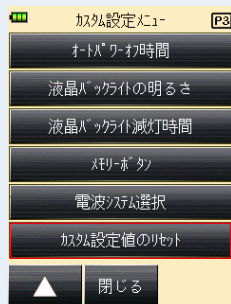
『カスタム設定値の内容をリセットします。よろしいですか。』と表示されます。[はい] ボタンをタッチします。

2. カスタム設定値が初期化され、カスタム設定メニュー画面に戻ります。

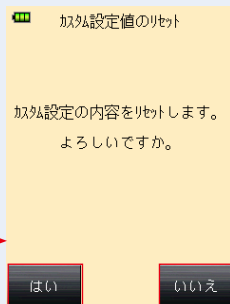
初期化をしない場合は、[いいえ] ボタンをタッチします。

カスタム設定メニュー画面に戻ります。

[カスタム設定メニュー画面]



[カスタム設定値のリセット画面]



[はい] ボタン

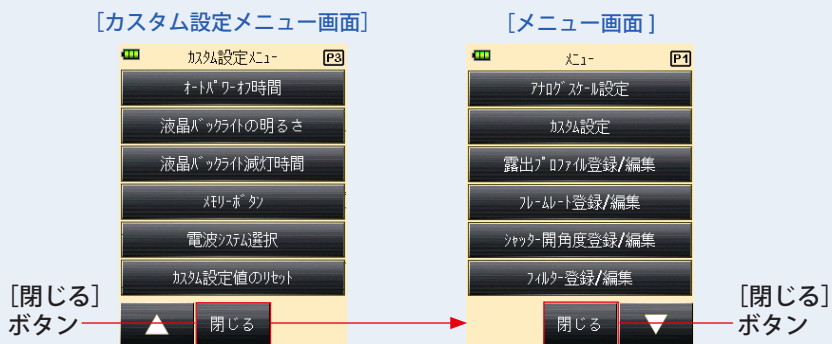
[いいえ] ボタン

3. カスタム設定メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

メニュー画面に戻ります。

4. メニュー画面で [閉じる] ボタンをタッチします。

測定画面に戻ります。



7. ハードウェア設定

7-1 ハードウェア設定画面

ハードウェア設定画面では、以下の設定を行うことができます。

- 測定値のユーザー校正
- タッチパネルの操作（タッチ）位置調整
- 工場出荷時設定に戻す
- ユーザー情報編集

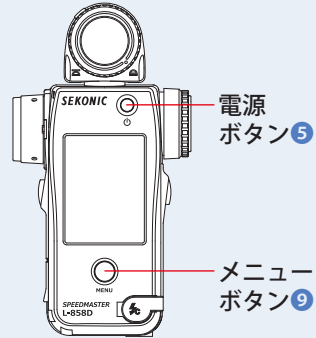
操作

1. 電源が切れている状態で、本体のメニューボタン⑨を押しながら、電源ボタン⑤を押し続けます。

ハードウェア設定画面が表示されます。

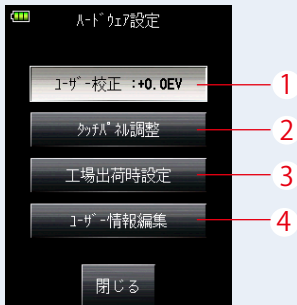


ハードウェア画面が表示されるまでは、メニューボタン⑨から手を放さないでください。



2. 目的のメニュー項目にタッチします。

[ハードウェア設定画面]



No.	項目名称	説明
①	ユーザー校正	予め測定値に対する補正量を設定しておくことで測定結果に反映することが可能です。(可能な設定範囲：-1.0EV～1.0EV)
②	タッチパネル調整	画面上に表示される白い十字カーソルにタッチしてタッチパネルの操作（タッチ）位置を調整します。
③	工場出荷時設定	各種パラメータや設定内容を工場出荷時設定に初期化します。
④	ユーザー情報編集	ユーザー情報を編集できます。

7-1-1

ユーザー校正

本機は当社の基準により校正されていますが、ユーザー校正機能を使って測定の基準を変更できます。補正値は -1.0 ～ + 1.0EV の範囲を 0.1EV ステップ単位で設定可能です。

あらかじめ補正量が分かっている場合、校正値を調節します。

また、測定を行い他の露出計の測定値に合わせることも可能です。

操作

< 補正量があらかじめ分かっている場合 >

1. [ユーザー校正] ボタンをタッチします。

ユーザー校正画面が表示されます。



2. 校正値を調整します。

調整ボタン (**-0.1EV**) (**+0.1EV**) で ± 0.1EV ずつ校正値を調節してください。

3. [閉じる] ボタンをタッチします。

設定を終了して、ハードウェア設定画面に戻ります。

< 他の露出計の測定値に合わせる場合 >

1. [ユーザー校正] ボタンをタッチします。

ユーザー校正画面が表示されます。



2. 測定ボタン⑥を押します。

ユーザー校正画面では、測定も出来るため、同じ光源で他の露出計の測定値を併せることも可能です。

3. 校正値を調整します。

調整ボタン (**-0.1EV**) (**+0.1EV**) で ±0.1EV ずつ校正値を調節してください。

4. [閉じる] ボタンをタッチします。

設定を終了して、ハードウェア設定画面に戻ります。

⚠️ ご注意

- ハードウェア設定でのユーザー校正は、ステータスバー部分には表示されません。
- 入射光式と反射光式は独立して補正ができますが、定常光／フラッシュ光は、一律に補正されますのでご注意ください。

7-1-2

タッチパネル調整

タッチパネルのタッチセンサーが認識する座標位置を調整できます。

操作

1. [タッチパネル調整] ボタンをタッチします。

タッチパネル調整画面が表示されます。

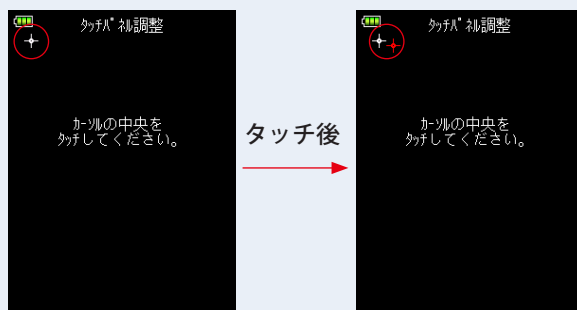
画面上に白い十字カーソルが点灯します。

『カーソルの中央をタッチしてください。』とメッセージが表示されます。

2. 白い十字カーソルにタッチします。

タッチ位置が赤い十字カーソルで表示されます。

[タッチパネル調整画面]

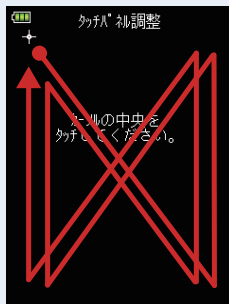


3. 4か所を2回繰り返します。

タッチ後別の位置に白い十字カーソルが表示されます。

左上→右下→右上→左下→左上→右下→右上→左下と四隅が2回表示されます。これを続けてタッチを繰り返してください。

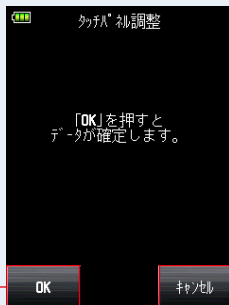
[タッチパネル調整画面]



4. 調整内容を確認します。

全てタッチすると、『「OK」を押すとデータが確定します。』とメッセージが表示されます。

[タッチパネル調整画面]



[OK] ボタン — OK — [キャンセル] ボタン

5. [OK] ボタンをタッチします。

タッチパネル調整値が確定し、ハードウェア設定画面に戻ります。

タッチパネルの調整内容を確定しない場合は [キャンセル] ボタンにタッチします。ハードウェア設定画面に戻ります。

7-1-3 工場出荷時設定

測定値、設定値、カスタム設定、ユーザー情報などすべての各種パラメータや設定内容を工場出荷時設定に初期化します。

カスタム設定のみのリセットは「6-7 カスタム設定」を参照してください。(➡P159)

操作

1. [工場出荷時設定] ボタンをタッチします。

工場出荷時設定確認画面に『設定値と測定値を工場出荷時の状態に戻します。よろしいですか。』とメッセージが表示されます。

2. [はい] ボタンをタッチします。

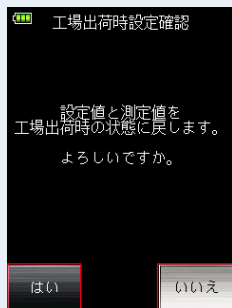
実施する場合は、[はい] ボタンをタッチします。

工場出荷時設定最終確認画面に『この操作を行うと、測定値と設定値が失われます。よろしいですか。』と再度確認のメッセージが表示されます。

実施をしない場合は、[いいえ] ボタンをタッチしてください。

ハードウェア設定画面に戻ります。

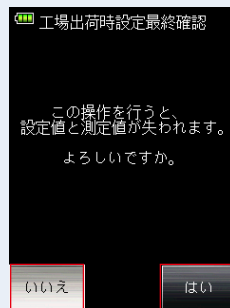
[工場出荷時設定確認画面]



[はい]
ボタン

[いいえ]
ボタン

[出荷時設定設定最終確認画面]



[いいえ]
ボタン

[はい]
ボタン

3. [はい] ボタンをタッチします。

工場出荷時設定が初期化され、ハードウェア設定画面に戻ります。

工場出荷時設定を行わず、ハードウェア設定画面に戻る場合は、[いいえ] ボタンをタッチします。

7-1-4 ユーザー情報編集

ユーザー情報を編集できます。変更したユーザー情報はメニューの本体情報画面に表示されます。

操作

1. [ユーザー情報編集] ボタンをタッチします。

ユーザー情報画面が表示されます。



2. ユーザー情報を入力します。

入力可能な文字数は 31 文字です。(入力方法 ▶ P12)

3. [OK] ボタンにタッチします。

ユーザー情報を入力後、[OK] ボタンにタッチします。

ハードウェア設定画面に戻ります。

修正をしない場合は [キャンセル] ボタンにタッチします。

4. ハードウェア設定画面で [閉じる] ボタンにタッチします。

設定を終了して測定画面に戻ります。

8. 別売アクセサリ

■ シンクロコード

長さ5mのコードは3つのプラグを持ち、露出計、フラッシュとカメラを接続同調させることができますので、撮影する時にもコードを差し換える必要がなく便利です。また、シンクロコードの露出計側の接続端子（オス）は、抜け防止用にロック機構がついています。

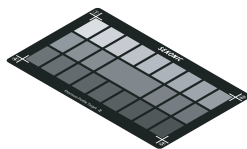
（露出計側オス端子1個－オス端子1個・メス端子1個）



■ 露出プロファイルゲットⅡ

カメラ露出プロファイルを作成するために使用するテストチャートです。表面は25種類のグレーパッチがあり、裏面は18%のグレーカードになっていますので、デジタルカメラのホワイトバランスや反射光式での露出決定に使用できます。

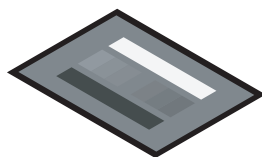
（サイズ：350mm × 210mm）



■ 露出プロファイルゲット

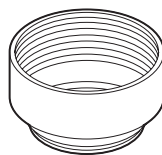
カメラ露出プロファイルを作成するために使用するテストチャートです。表面は白と黒を含む9種類のグレーパッチがあり、裏面は18%のグレーカードになっています。デジタルカメラのホワイトバランスや反射光式での露出決定に使用できます。

（サイズ：280mm × 180mm）



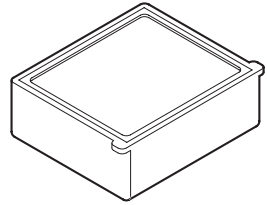
■ ステップアップリング

ステップアップリング（30.5mm → 40.5mm）を対物レンズ側に取り付け、市販のフィルターを使うことができます。これによりPLフィルター等の煩わしいフィルター補正値を計算することなく露出決定できます。PLフィルターには円偏光と偏光があり、円偏光のみ使用できます。また、レンズ部をキズ、汚れから保護し、レンズフレアやグレアによる誤測光を防ぐフードとしてご利用いただけます。



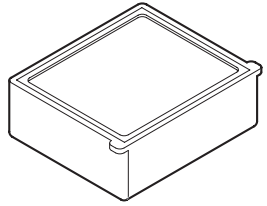
■ RT-BR トランスミッター

2.4GHz 周波数帯の broncolor 社の電波トリガーシステム (RFS2 System) に対応した送信機で、フラッシュ側には別途同システムの受信機が必要です。L-858D 本体に装着することで、フラッシュを電波信号で発光させて測定ができます。光量調整、モデリングランプの ON/ OFF も行える電波トランスミッター (送信機) です。



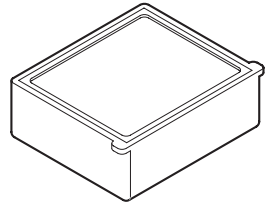
■ RT-EL/PX トランスミッター

2.4GHz 周波数帯のエリンクローム社の電波トリガーシステム (EL-Skyport) および Phottix 社電波トリガーシステム (Strato II) に対応した送信機で、フラッシュ側には別途同システムの受信機が必要です。L-858D 本体に装着することで、フラッシュを電波信号で発光させて測定ができます。また EL-Skyport では、光量調整、モデリングランプの光量調整や ON/OFF も行える電波トランスミッター (送信機) です。



■ RT-GX トランスミッター

2.4GHz 周波数帯の Godox 社の電波トリガーシステム (Godox 2.4G wireless X system) に対応した送信機で、フラッシュ側には別途同システムの受信機が必要です。L-858D 本体に装着することで、フラッシュを電波信号で発光させて測定ができます。光量調整、モデリングランプの光量調整や ON/ OFF も行える電波トランスミッター (送信機) です。



9. 各種設定値

9-1 ISO 感度

基本的には 1/3 ステップの設定値ですが、シネカメラに使われる ISO850 が ISO800 と ISO1000 の間に表示されます。

3、4、5、6、8、10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100、125、160、200、250、320、400、500、640、800、850、1,000、1,250、1,600、2,000、2,500、3,200、4,000、5,000、6,400、8,000、10,000、12,800、16,000、20,000、25,600、32,000、40,000、51,200、64,000、80,000、102,400、128,000、160,000、204,800、256,000、320,000、409,600、512,000、640,000、819,200、1,024,000、1,280,000、1,638,400、2,048,000、2,560,000、3,276,800、4,096,000、5,120,000、6,553,600、8,192,000、10,240,000、13,107,200

9-2 シャッター速度

「m」は「分」、「s」は「秒」、単位のついていないものは「秒」です。カメラの設定に合わせてカスタム設定で選択可能です。

シャッター速度の上限は定常光は 1/64,000 秒まで、フラッシュ光は 1/16,000 です。表の 1/64,000 以降の遅い速度は、旧シャッター速度です。定常光とフラッシュ光では追加で表示する旧シャッター速度の内容が変わります。

1 ステップ (初期値)	30 m、15 m、8 m、4 m、2 m、1 m、30s、15s、8s、4s、2s、1s、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1,000、1/2,000、1/4,000、1/8,000、1/16,000、1/32,000、1/64,000、1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400
1/2 ステップ	30 m、20 m、15 m、10 m、8 m、6 m、4 m、3 m、2 m、1.5 m、1 m、45s、30s、20s、15s、10s、8s、6s、4s、3s、2s、1.5s、1s、0.7s、1/2、1/3、1/4、1/6、1/8、1/10、1/15、1/20、1/30、1/45、1/60、1/90、1/125、1/180、1/250、1/350、1/500、1/750、1/1,000、1/1,500、1/2,000、1/3,000、1/4,000、1/6,000、1/8,000、1/12,000、1/16,000、1/24,000、1/32,000、1/50,000、1/64,000、1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400
1/3 ステップ	30 m、25 m、20 m、15 m、13 m、10 m、8 m、6 m、5 m、4 m、3.2 m、2.5 m、2 m、1.6 m、1.3 m、1 m、50s、40s、30s、25s、20s、15s、13s、10s、8s、6s、5s、4s、3.2s、2.5s、2s、1.6s、1.3s、1s、0.8s、0.6s、0.5s、0.4s、0.3s、1/4、1/5、1/6、1/8、1/10、1/13、1/15、1/20、1/25、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1,000、1/1,250、1/1,600、1/2,000、1/2,500、1/3,200、1/4,000、1/5,000、1/6,400、1/8,000、1/10,000、1/13,000、1/16,000、1/20,000、1/26,000、1/32,000、1/40,000、1/50,000、1/64,000、1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400
HD シネカメラ モード専用	各ステップのシャッター速度に追加されます。 1/6、1/6.25、1/7.5、1/12、1/12.5、1/15、1/24、1/25、1/30、1/48、1/50、1/60、1/96、1/100、1/120、1/192、1/200、1/240

9-3 絞り値

カメラの設定に合わせてカスタム設定で選択可能です。

<入射光式>	
1 ステップ (初期値)	0.5、0.7、1.0、1.4、2.0、2.8、4.0、5.6、8.0、11、16、22、32、45、64、90、128
1/2 ステップ	0.5、0.6、0.7、0.8、1.0、1.2、1.4、1.7、2.0、2.4、2.8、3.4、4.0、4.8、5.6、6.7、8.0、9.5、11、13、16、19、22、27、32、38、45、54、64、76、90、108、128、152
1/3 ステップ	0.5、0.56、0.63、0.7、0.8、0.9、1.0、1.1、1.3、1.4、1.6、1.8、2.0、2.2、2.5、2.8、3.2、3.6、4.0、4.5、5.0、5.6、6.3、7.0、8.0、9.0、10、11、12.7、14、16、18、20、22、25、28、32、35、40、45、51、57、64、72、81、90、102、114、128、144、161

9-4 フレームレート

選択可能なフレームレート (f/s) は下記のとおりです。これらに加え、最大 20 個までフレームレートを登録できます。

1、2、3、4、6、8、10、12、14、15、16、18、20、23.976、24、25、29.97、30、32、36、40、47.952、48、50、59.94、60、64、72、75、90、96、100、120、125、128、150、180、200、240、250、256、300、360、375、500、625、750、1,000

9-5 シャッター開角度

選択可能なシャッター開角度は下記のとおりです。これらに加え、最大 20 個までシャッター開角度を登録できます。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、11.25、12、15、17、20、22、22.5、25、30、35、40、43.2、45、50、55、60、65、69、70、72、75、80、85、86.4、90、95、100、105、108、110、115、120、125、130、135、140、144、145、150、155、160、165、170、172、172.8、175、180、185、190、195、200、205、210、215、216、220、225、230、235、240、245、250、255、260、262、265、270、288、316、358

9-6 フィルター名・補正值

フィルター名の選択で表示される、L-858Dの初期設定フィルターの名称と補正值は以下の通りです。これに加え、最大30個までフィルター名を登録できます。

No.	フィルタ名称	補正量 (EV 値)
1	ND0.3	-1.0
2	ND0.6	-2.0
3	ND0.9	-3.0
4	CTO Double	-2.1
5	CTO Full	-1.1
6	CTO Three-Quarter	-0.8
7	CTO Half	-0.5
8	CTO Quarter	-0.3
9	CTO Eighth	-0.1
10	No.85	-0.8
11	CTB Double	-3.3
12	CTB Full	-1.5
13	CTB Three-Quarter	-1.3
14	CTB Half	-0.9
15	CTB Quarter	-0.4
16	CTB Eighth	-0.3
17	Minusgreen Full	-0.9
18	Minusgreen Half	-0.5
19	Minusgreen Quarter	-0.3
20	Minusgreen Eighth	-0.2
21	Plusgreen Full	-0.4
22	Plusgreen Half	-0.2
23	Plusgreen Quarter	-0.1
24	Plusgreen Eighth	-0.2

10. 仕様

形式

- フラッシュ光及び定常光用デジタル露出計

受光方式

- 入射光式及び反射光式

受光部

- 入射光式 光球⇄平板機能
(光球を本体内部に移動する機能により平板機能兼用)
- 反射光式 ファインダー内表示搭載一眼スポット (受光角 1°)
測定距離 1m~∞

受光素子

- シリコンフォトダイオード

測定モード

- 定常光 T (シャッター速度) 優先
F (絞り) 優先
TF (シャッター速度、絞り) 優先
HD シネカメラ
シネカメラ
照度 (ルクス)
輝度 (カンデラ/平方メートル)
- フラッシュ光 シンクロコードを用いて測定 (積算あり、なし)
シンクロコード無しで測定 (積算あり、なし)
電波トリガー (積算あり、なし) ※トランスミッター (別売) 装着時
- HSS フラッシュ シンクロコード無しで測定 (積算なし)
電波トリガー (積算なし) ※トランスミッター (別売) の装着時
- フラッシュ光解析 (入射光のみ) シンクロコードを用いて測定 (積算なし)
シンクロコード無しで測定 (積算なし)
電波トリガー (積算なし) ※トランスミッター (別売) の装着時

繰返し精度

- 0.1EV 以内 (入射光式: EV-2 以上、反射光式: EV+1 以上)
0.2EV 以内 (入射光式: EV-2 未満、反射光式: EV+1 未満)

測定範囲 (ISO100)

- 定常光 入射光式 EV -5 ~ EV +22.9
反射光式 EV -1 ~ EV +24.4
- フラッシュ光 入射光式 F0.5 ~ F128.9 (=F161.2)
反射光式 F1.0 ~ F128.9 (=F161.2)

● 照度 (有効数字 2 桁)	入射光式	0.10lx ~ 2,000,000lx
● 輝度 (有効数字 2 桁)	反射光式	0.10cd/m ² ~ 980,000cd/m ²
校正定数		
● 入射光式	光球 C=340	平板 C=250
● 反射光式	K=12.5	
表示範囲		
● ISO 感度	ISO3 ~ ISO13,107,200 (1/3 ステップ)、ISO850	
● シャッター速度	定常光	30 分 ~ 1/64,000 秒、1/200、1/400 (1、1/2、1/3 ステップ)
	フラッシュ光	30 分 ~ 1/16,000 秒、1/75、1/80、1/90、 1/100、1/200、1/400 (1、1/2、1/3 ステップ)
● フラッシュ閃光時間	1/40 秒 ~ 1/55,500 秒 (25ms ~ 18us) t0.1 ~ t0.9 (0.1 ステップ)	
● 絞り値	F0.5 ~ F128.9 (1 ステップ) F0.5 ~ F152.4 (1/2 ステップ) F0.5 ~ F161.2 (1/3 ステップ)	
● EV 値	入射光式	EV -73.9 ~ EV +103.8
	反射光式	EV -69.9 ~ EV +105.3
● フレームレート (f/s)	1f/s ~ 1,000f/s 0.001f/s ~ 99,999.999f/s の範囲で最大 20 種をユーザー設定可能	
● シャッター開角度	1° ~ 358° 0.001° ~ 360° の範囲で最大 20 種をユーザー設定可能	
● アナログ表示部	T スケール 4s ~ 1/2000s (1/3 ステップ) F スケール F1.0 ~ F90 (1/3 ステップ)、 ゼロ目スケール -3EV ~ +3EV (入射光, 1/3 ステップ) -7EV ~ +7EV (反射光, 1/3 ステップ) 照度 lux (ルクス) 0lx ~ 50,000lx 輝度 cd/m ² 0 ~ 2,500cd/m ² (カンデラ/平方メートル)	
● モニター機能	-9.9EV ~ +9.9EV (0.1 ステップ)	
● 積算回数	0 ~ 99 回 (表示は最大 99 回、測定回数は無限)	
● フィルター補正值	-20.0EV ~ +20.0EV (0.1 ステップ)	
● フィルター名補正選択	最大 4 種同時使用可能。30 種設定可能	

- | | |
|-----------|----------------------------|
| ● 指示補正值 | -9.9EV ~ +9.9EV (0.1 ステップ) |
| ● ユーザー校正値 | -1.0EV ~ +1.0EV (0.1 ステップ) |

その他の機能

- 露出プロファイル 最大 10 件まで表示
- 分離測光機能 0 ~ 100% (10%ステップ)
- メモリー機能 9 点まで可能
- メモリークリア、メモリーリコール機能
- アベレージ演算機能 9 点までのメモリー値を平均
- 測定範囲外及び表示範囲外 Under (アンダー)、Over (オーバー) 警告表示
- 電池容量表示機能 4 段階
- オートパワーオフ機能 カスタム設定にて選択可能
- 液晶バックライト 液晶の明るさおよび減灯時間がカスタム設定にて選択可能
- タッチパネルロック機能
- カスタム設定 16 項目 (RT-EL/PX トランスミッター(別売)装着時は 17 項目) +リセット
- 三脚用固定ネジ穴付き 1/4in、20 山

使用液晶

- 液晶表示 タッチパネル機能付 2.7 インチカラードットマトリックス液晶

電源

- 単 3 形電池 1.5V × 2 本 (アルカリ、マンガン電池を推奨)

使用周囲温度

- -10 ~ 50°C (但し結露しないこと)

使用周囲湿度

- 85%RH 以下 (35°Cのとき) (但し結露しないこと)

輸送保管条件 (本体のみ)

- 周囲温度 -20 ~ 60°C (但し結露しないこと)
※お使いになる電池の仕様によります。
- 周囲湿度 85%RH 以下 (35°Cのとき) (但し結露しないこと)

寸法

- 約 94mm (幅) × 176mm (高さ) × 49mm (厚さ) (受光部含まず)
※ ボタン等の突起物を除く

質量

- 約 240g (電池含まず)



標準付属品

- ソフトケース、ストラップ、レンズキャップ（本体取付済）、反射防止フィルム、スタートアップガイド、安全上のご注意、保証書

この使用説明書に記載の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

11. 法的要求事項

本製品は下記の法的順守事項に準拠しています。

仕向け地	規格	詳細
欧州	CE 	SAFETY EN 62368-1
		EMC EMS: EN55024, EN55035 EM I: EN55032
		無線 EN300 220-2 EN301 489-1 EN301 489-3 EN301 489-17 EN62479
		環境関連 WEEE(欧州), RoHS
北米	FCC (US) 	EMC FCC Part15 SubpartB ClassB
		無線 FCC Part15 SubpartC
	IC (Canada)	EMC ICES-003
		無線 RSS-210
日本	環境関連	容器包装リサイクル法

12. トラブルシューティング

次のような場合は故障ではないことがありますので、修理をご依頼される前にもう一度ご確認ください。下記の点検をしても正常に動作しない場合は、本機の故障の可能性があります。電池を取り外して購入先または弊社まで修理をご依頼ください。

状態	点検項目	対処方法
パワーオンしない (表示しない)	電源ボタン⑤を1秒以上長押ししていますか？	電源ボタン⑤を1秒以上長押ししてください。
	電池は⊕⊖が正しく入っていますか？	⊕⊖表示を確認してください。 (➡P4)
	電池の容量はありますか？	電池を交換してください。(➡P8)
	電池の端子が汚れていませんか？	乾いた布で拭いてください。
	電池は指定の製品が入っていますか？	電池を確認してください。(➡P4)
液晶が反応しない	画面のロックが設定されていませんか？	メニューボタン⑨を長押しして画面のロックを解除してください。 (➡P13)
ファインダー内に測定値が表示されない	入射光式になっていませんか？ (ファインダー内表示は反射光式でのみ表示されます。)	測定画面のファンクションボタン、またはツールボックスより受光方式を反射光式に設定してください。 (➡P37、P39)
測定できない	USBケーブルでPCと接続していませんか？	USBケーブルを外してください。 (➡P23)
	カスタム設定により測定ボタンとメモリーボタンが入れ替わっていませんか？	カスタム設定を確認し、必要があればボタンの入れ替えを設定してください。(➡P5、P41、P160)
	フラッシュ光解析モードで閃光時間が設定したシャッター速度よりも長くなっていませんか？	シャッター速度の設定値を閃光時間よりもシャッター速度を長く設定してください。(➡P98)
	電波トリガーモードで本体と受信機に同じ電波チャンネル/グループを設定していますか？	本体と受信機に同じチャンネル/グループを設定してください。 トランスミッター(別売)の使用説明書をご覧ください。(➡P201)

状態	点検項目	対処方法
測定値がおかしい	光球上下リングが中間位置になっていませんか？（配光特性が変わり適正な測定ができません。）	カチッと音がするまで光球上下リングを回してください。（➡P35）
	入射光式と反射光式を間違っ設定・測定していませんか？	測定画面のファンクションボタン、またはツールボックスより受光方式（入射光式または反射光式）の設定を確認し、正しい方式で測定してください。
	不必要な指示補正やフィルター補正が設定されていませんか？	ツールボックス画面で、指示補正（➡P128）またはフィルター補正（➡P130）の設定が間違っていないか確認してください。
	露出プロファイルが設定されていませんか？	ツールボックス画面にて正しい露出プロファイルを選択しているか確認、または正しく露出プロファイルを作成しているか確認してください。（➡P149）
	ハードウェア設定でユーザー校正が入力されていませんか？	ユーザー校正（➡P193）を確認し、設定された値が正しいかどうか確認してください。
	測定モードを間違っていないか？（フラッシュ光なのに定常光モードで測定している、など）	正しい測定モードを選択しているかどうか確認してください。
	フラッシュ光コードレスモードまたはフラッシュ光解析コードレスモードにて測定しているフラッシュの設定がTTLかオートモードになっていませんか？（本発光ではなく、プリ発光を測定している可能性があります。）	お使いのフラッシュをマニュアルモードに設定してください。プリ発光をしている場合は、ツールボックスの「フラッシュプリ発光回数」の設定により、プリ発光を測定せずに本発光のみを測定できます。
プリ発光機能の付いたフラッシュを使用していませんか？	プリ発光回数を設定してください。（➡P95）	
HDシネカメラモードで設定範囲内なのにシャッター速度が変更できない	HDシネカメラモードでは、設定したフレームレートよりも遅いシャッター速度の設定ができません。（例：フレームレートを15f/sに設定すると、シャッター速度は1/15sまでしか設定できません。）	HDシネカメラモードでは、設定されているフレームレートの値を変更し、シャッター速度を設定してください。

状態	点検項目	対処方法
露出計の設定値・測定値がカメラの設定にない	露出計の表示ステップ（1、1/2または1/3ステップ）とカメラの表示ステップが合っていますか？	メニューボタン⑨を押し、カスタム設定の「表示ステップ」で正しい表示を選択し、露出計のステップをカメラのステップに合わせてください。
メモリーできない	メモリー機能は、下記の測定モードでは使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュ光コード接続積算モード ・フラッシュ光コードレス積算モード ・フラッシュ光電波積算モード ・照度・輝度測定モード 	左記のモード以外でメモリー機能をお使いください。
	メモリーボタン⑦を押したときに「メモリーが一杯です。」と出ていませんか？メモリーできる回数は9回までです。	10回目以降の測定値をメモリーしたい場合は、あらかじめメモリークリア画面で必要のないメモリー値をクリアしてから、改めて測定し、メモリーしてください。
	メモリーボタン⑦が無効になっていませんか？	メニューボタン⑨を押し、カスタム設定の「メモリーボタン」でONを選択してください。（▶P43、▶P189）
EV値が表示されない	EV値は下記の測定モードで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・定常光T優先モード ・定常光F優先モード ・定常光TF優先モード ・定常光HDシネカメラモード ・定常光シネカメラモード 	EV値の表示がある測定モードをお使いください。
ゼロ目スケールを選択しているのに表示されない	ゼロ目スケールは、下記の測定モードでは表示できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュ光コード接続積算モード ・フラッシュ光コードレス積算モード ・フラッシュ光電波積算モード 	フラッシュ光では積算モード以外でゼロ目スケールをお使いください。積算モードの場合は測定値（絞り値）のスケールがお使いいただけます。
HSSモードでフラッシュが発光できない	シンクロコードを接続して、測定を行っていませんか？	HSS（ハイスピードシンクロ）の測定はコードレスモードおよび電波トリガーモード（RT-GX装着時）のみです。コードレスモードの場合は、カメラのレリーズボタンを押し、フラッシュを発光させて測定してください。

状 態	点 検 項 目	対 処 方 法
Error10 という表示が出る	Data Transfer Software の「更新」画面でファームウェアの変更をした際に途中で本体の電源を落としたり USB ケーブルを抜いたりしていませんか？	Data Transfer Software の「更新」画面で本体のファームウェアを再度上書きで更新してください。

13. アフターサービスについて

弊社の製品には一定の期間内無償修理をお引き受けする保証書があります。記載事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。

■ 保証期間などについて

1. 保証期間はご購入日より1年間です。
2. 保証書にお買い上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
3. 保証期間内でも有償修理となる場合もありますので、保証書の記載事項をお確かめください。
4. 保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃等の諸費用はお客様にご負担願います。

■ 補修用部品の保有期間などについて

1. 補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって、本期間を過ぎますと修理をお引き受けできないことがあります。
2. 修理完了品には、弊社の修理納品書が発行されますのでお確かめください。
3. 修理可能期間内でも浸冠水、強度のショックその他損傷の著しいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われれますものにつきましては、修理不可能となる場合があります。

■ 修理ご依頼にあたって

1. 修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各ポイント検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
2. 修理をご依頼されたものの中には単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、(+)(-)の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

■ お問い合わせについて

本製品の保証、修理、使い方などのお問い合わせは弊社営業部門にご相談ください。



ご参考

万一、製造上の不備で生じた不都合につきましては現品をもって保証させていただき、それ以外の責は負いかねます。

株式会社 セコニック

〒 178-8686 東京都練馬区大泉学園町 7-24-14
TEL 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144
<https://www.sekonic.co.jp>

JY1097632
December 2021